

服飾芸術科  
専門教育科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：必修
担当教員			
服飾芸術科専任教員			
Subject Code：F31A01			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	2年間の学修成果をディプロマポリシーにもとづいて振り返る。各履修モデルに即したテーマを設定し、自分の考えを論理的に相手にわかりやすくプレゼンテーションする。プレゼンテーション資料の制作過程におけるデータ収集、データ整理、考察、内容の構成、さらに発表における効果的な伝え方や見せ方のスキルを身に付ける。 (授業目標) ◎C：プレゼンテーションのテーマにふさわしい内容を構成することで思考力判断力が修得できる。 ○D：ディプロマポリシーにもとづき自分自身の2年間の学びを理解し、身に付けた知識を的確に説明できる。		
授業計画	1	制作に向けて、個別指導（1）（服飾芸術科専任教員） 制作および研究計画の概要、資料収集の方法とプレゼンテーションの手法について	
	2	履修登録の確認、制作（1）、個別指導（2）（服飾芸術科専任教員） 卒業要件に対する履修状況の確認	
	3	TOITA Fes準備、避難訓練（服飾芸術科専任教員） TOITA Fes準備、避難訓練	
	4	制作（2）、個別指導（3）（服飾芸術科専任教員） 研究テーマと概要、調査方法、制作方法等をまとめる	
	5	制作（3）（服飾芸術科専任教員） 資料収集とプレゼンテーション手法の個別指導	
	6	制作（4）（服飾芸術科専任教員） 資料収集とプレゼンテーション手法の個別指導	
	7	プレゼンテーション（1）（服飾芸術科専任教員） 各クラスにて発表、意見交換、評価	
	8	プレゼンテーション（2）（服飾芸術科専任教員） 各クラスにて発表、意見交換、評価	
	9	「生涯の学び」（菊池桃子客員教授） キャリア形成に必要な考え方について	
	10	プレゼンテーション（3）（服飾芸術科専任教員） 各クラスにて発表、意見交換、評価	
	11	PROGテスト PROGテスト	
	12	プレゼンテーション（4）（服飾芸術科専任教員） 各クラスにて発表、意見交換、評価	
	13	「民法講座」（ゲスト講師） ゲスト講師による「民法講座」	
	14	PROGテスト 解説 PROGテスト 解説	
	15	プレゼンテーション（5）（服飾芸術科専任教員）「働く女性の生き方」（ゲスト講師） 服飾芸術科全2年生合同発表、意見交換、評価、卒業後の生き方について	
学習成果・到達目標・基準	◎C：プレゼンテーションのテーマに沿った構成を思考し説明できる。 ○D：自分自身が2年間で身に付けた知識を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：設定したテーマを表現するにあたり、どのような手法がふさわしいかを考えること（25分）。 事後学習：進捗過程に合わせて教員に指導を仰ぎ、友人と意見交換を行いながら修正を行うこと（20分）。		
指導方法	2年間の学修成果のまとめ方を指導する。研究内容やプレゼンテーション方法について個別もしくはグループでの指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③採点（評価）返却、④授業後における採点について質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎C：プレゼンテーションの資料や発表方法を評価する。 ○D：プレゼンテーション内容が的確か評価する。 課題 70%、授業態度・貢献度 30%		
テキスト	なし		
参考書	適宜、指示する		
履修上の注意	2年間における学修成果の達成状況を確認するゼミである。日頃から他の履修科目を主体的な態度で学び、図書館の文献、マスメディアの情報、店舗等における実態調査、映画、舞台芸術、美術館等を活用することが大切		

	である。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
井上近子			
Subject Code：F12A02		実務家教員による授業	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ファッション造形（服飾造形）は、アート（芸術）、建築、デザイン、音楽、カルチャー（文化）などと、さまざまな関わりをもって創造される。ファッションデザイナー達は、アートをデザインソース（源泉）として、インスパイア（創作意欲を刺激）され、あるいはオマージュ（賛辞）を捧げるためにシーズンコレクションを発表することに力を注いでいる。本講義は、プロダクトデザイン（服飾製品）が生まれた源泉（芸術）を捉えつつ、デザイナーの個性はもちろんのこと、社会構造や時代背景との関わりについて解説をしていく。</p> <p>（授業目標） 服飾造形が生まれた源泉について、芸術領域の観点から考察することができる。 ◎D：各時代における社会構造や時代背景をふまえ、服飾造形の特徴と芸術との関わりを正確に説明することができる。</p>		
授業計画	1	ファッションとアートの関連性 サンローランとモンドリアン、ルイヴィトンと村上隆などの作品にみるファッションとアートの関わりについて	
	2	19世紀末の装飾芸術「アールヌーボー」 資生堂のロゴマーク、広告とパッケージデザインにみる芸術的造形について	
	3	1920年代の世界恐慌と退廃美「シュルレアリスム」 スキヤパレリとダリ、コクトーのコラボレーションについて	
	4	1930年代の低コストモダン「アールデコとミニマリズム」 シャネルとポールポワレ、ラルリックの香水瓶、バウハウスの合理主義・機能主義について	
	5	1960年代の大衆消費社会イメージ「ポップアート」 アンディウォーホル、キースヘリングによるコミック表現について	
	6	1970年代のカウンターカルチャー「サイケデリックムーブメント」 寺山修二、横尾忠則にみる舞台芸術、エミリオプッチの色彩柄について	
	7	1980年代前半の反美学「ポストモダン」 川久保玲、山本耀司による表現、三宅一生の一枚布について	
	8	1980年代後半の造形美「ボディコンシャス」 アズティンアライアの功績とその後の影響力について	
	9	1990年代初頭の最小限美学「ネオミニマリズム」 ヘルムートラング、ジルサンダーにみるリアルクローズファッションについて	
	10	1990年代後半のカルチャーファッション「グランジルック」 ヒップホップとファッション、マルジェラのモードとエレガンスについて	
	11	ファッション誌を演出した芸術家たち ハーパースバザーとヴォーグを彩った芸術家、フォトグラファーについて	
	12	エンタテインメント化するファッションショー シャネル、マックイーン、ヴィクター&ロルフにみる劇場化について	
	13	デザイナーのミューズ（女神）とそのライフスタイル イーディ、ナオミキャンベル、ケイトモスのファッションと生き方について	
	14	映画と衣装デザイナーの関係 映画に登場するサンローラン、ラルフローレン、アルマーニ、ゴルチェの衣装デザインについて	
	15	21世紀を代表するデザイナーのポジショニング エンタテイナーのカーララガーフェルドとエコロジカルなステラマッカートニーの文化的活動について	
学習成果・到達目標・基準	◎D：各時代における服飾造形の特徴と芸術のテーマを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：講義内容のテーマについて、図書館等で調べておくこと（90分）。 事後学習：講義の事例以外の内容について、各時代の特徴を図書館や美術館等で確認すること（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がけることが大切である。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験70%、受講態度・貢献度20%、課題10%		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	「ファッションの世紀 共振する20世紀のファッションとアート」著者：深井晃子 出版社：平凡社		
履修上の注意	受講生が本科目を理解するうえで大切な姿勢は、講義に関連する内容について、日頃から図書館で文献を調べたり、映画、舞台芸術、美術館で確認する習慣を身につけることである。		

アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：必修
担当教員			
平光くり子			
Subject Code : F12A03			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	衣服を考える時、自然環境や歴史、習慣や職業、着心地やファッションセンスなど、様々な条件が挙げられる。その基本は、個々の人体に対する快適な衣環境として、素材・デザイン・縫製等が不可欠であり、体型に適合した衣服を着用することは、快適な衣生活の条件と考えられる。 衣服の起源から既製衣料までを大きく「環境」「人体」「生産」「消費」の項目に分けて学修する。 (授業目標) ◎D：着衣基体である人体構造と素材、デザイン、パターン設計の関係について理解できる。		
授業計画	1	衣服の起源と推移 衣服着装の動機と諸説および衣服と気候、風土、生活様式の影響	
	2	衣服と環境 (1) 立体構成と平面構成	
	3	衣服と環境 (2) 日本の伝統衣裳、和服の形態的特徴と基礎知識	
	4	衣服と人体 (1) 人体構造と体型	
	5	衣服と人体 (2) 人体計測、体型情報と体型分類	
	6	衣服と人体 (3) 衣服庄、日常生活における動作	
	7	衣服と人体 (4) 衣服の美的因子と身体因子とデザイン	
	8	衣服と人体 (5) 衣服の形態表現、シルエットとディテール	
	9	衣服と生産 (1) 素材と造形性能、デザインに関わる素材と造形	
	10	衣服と生産 (2) 被服材料、種類と工程	
	11	衣服と生産 (3) 衣服の種類とサイズ表示	
	12	衣服と生産 (4) アパレル設計、パターン設計におけるゆとり	
	13	衣服と生産 (5) 既製服衣料の製造工程と生産	
	14	衣服と消費 (1) 既製服衣料の選択と購入	
	15	衣服と消費 (2) 衣生活と環境、着装の工夫	
学習成果・到達目標・基準	◎D：体型分類、寸法、布地の扱い方について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：授業計画のテーマについて検索し、知識を得ておくこと (90分)。 事後学習：人体と衣服の関係性を多面的に捉え、実証できるように、知識と技術の理解を深め復習をしておくこと (90分)。		
指導方法	テーマに沿ってパワーポイントや映像を使用し、講義形式で行う。 衣服に対しての基礎的な知識や情報を理解できるように指導する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題を評価する。 定期試験50%、課題30%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布		
参考書	『文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編』：笠井フジノ, 他6名, 文化出版局 『アパレル構成学 着やすさと美しさを求めて』：富田明美, 株式会社朝倉書店		

履修上の注意	衣服製作を行うための基礎となる理論を学修する。日頃着用する衣服がどのような構造によってできているのか、また着心地に関して考えること。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：必修
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>価値ある作品には、色彩や形状が巧みに構成されているものが多い。衣服をはじめとする商品のデザインにも、芸術作品から着想を得て生まれたものが多く存在する。芸術作品が生まれた時代背景や、どのような発想をもとに生まれたのかを、作品映像等を用いて解説する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：広く知られる作品の必然性や意味を知り、自らの価値観と照らし合わせた上で作品の感想を述べることができる。</p> <p>◎D：それぞれの時代の特徴と、現代における影響力について説明することができる。</p>
授業計画	<p>1 デザイン、アートとは（グループワーク） デザインやアートの成り立ち、見方 ブレインストーミングにより、芸術（アート）という言葉から連想する言葉を提案し、発想することの重要性を学ぶ</p> <p>2 美術の起源、古代ローマ、ギリシャ、初期キリスト教美術 ラスコーの壁画から三大文明までの美術、日本における石器時代の生活におけるデザイン アルカイック美術、エトルリア美術、紀元前の地中海の文化 キリスト教誕生から、紀元5世紀頃までの美術の流れ</p> <p>3 中世ルネサンス 初期キリスト教美術に続きロマネスク美術、ゴシック美術を経てイタリアにおけるルネサンス文化</p> <p>4 17世紀、19世紀における西洋美術 ルネサンスから続くバロック、ロココ美術の流れや、フランス革命から生じた一連の美術、文化の流れ</p> <p>5 産業革命とデザイン、ファッション 産業革命をきっかけに生まれた、ウィリアム・モリス等に代表されるモダンデザインについて</p> <p>6 印象派、ジャポニズム、アールヌーヴォー 19世紀から始まる印象派の流れと、影響を与えた日本の美術</p> <p>7 旧石器時代から明治までの日本の美術の流れ 縄文時代から継がれる日本独自の文化と、朝鮮半島や西洋からの文化の影響を受けたことによる日本の文化の変化の流れ</p> <p>8 シュルレアリズム、抽象表現主義 ダリ、マックスエルンストなどのシュルレアリストからの抽象表現の流れ</p> <p>9 キュビズム、バウハウス ピカソ、ブラック、マチスらキュビズムの作家とバウハウスの講師、そこから生まれたデザインについて</p> <p>10 コンセプチュアルアート、ポップアートなどの戦前、戦後における芸術の変化 マルセルデュシャン、アンディウオーホールとその周辺の作家、ファッションの動きについて</p> <p>11 映像による表現について ビデオアートやプロモーションビデオなど、映像表現の発展について</p> <p>12 インスタレーションについて ギャラリーや美術館の外へ広がる表現と、舞台、劇場との関係性について</p> <p>13 テクノロジーの発展による制作の多様化 デジタル技術の発展がデザイン、アートに及ぼす影響</p> <p>14 仮想現実の表現の発展について 映画やエンタテインメント業界における仮想現実空間の表現の発展と、芸術との関係性について</p> <p>15 これからのデザイン、アート 今後のデザイン、アートの世界がどのように変化していくかについて</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>○C：広く知られている作品のテーマについて説明できる。</p> <p>◎D：基本的なデザイン、アートの歴史について説明することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：美術館、ギャラリーにて多くの作品を鑑賞する(120分)。 事後学習：講義でとりあげた作家や作品とその時代背景との関連性などを考察する(60分)。</p>
指導方法	<p>講義に関連するDVDやパワーポイント等の視覚媒体を使用しながら解説を行う。</p> <p>小テスト：①小テスト実施、②採点后、返却、③授業で質疑対応 レポート提出：①事前課題を提示、②レポート提出(学生)、③採点后、返却、④授業で質疑対応 リアクションペーパー：①授業終了後に提出(学生)、②授業で質疑対応</p>



アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：レポート課題、リアクションペーパー D：定期試験、小テスト 定期試験60%、小テスト10%、レポート課題10%、リアクションペーパー・授業態度および貢献度20%
テキスト	毎回プリントを配布する
参考書	適宜、授業で指示する
履修上の注意	図書館の資料や美術館などで作品に触れる機会を積極的に持つこと
アクティブ・ラー ニング	グループワーク
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：必修
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code：F22A05	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	自身のキャリアビジョンを描くには、企業での生き方や働き方が深く関わってくる。顧客への対応、上司と部下、同僚との関係構築、取引先との折衝など、全ての場面でビジネスにおけるコミュニケーションスキルの必要性は高まっており、企業から必要とされる人材になるには、独自の強みや成果を上げるための力を持たなければならない。本講義は、ビジネスで円滑な人間関係を構築するための手法を知り理解することを目的に、主にファッション業界で働くうえで必要とされるビジネスマナーやビジネス知識、仕事術を中心に概説する。さらに、ビジネスシーンでの事例や最新ニュース等を取りあげる。 (授業目標) ◎C：自分自身の現状を分析し、成果を出す方法を知る。		
授業計画	1	企業と組織 (1) 組織と役職 ビジネスキーワード	
	2	企業と組織 (2) 新人として必要な力 ケブナー・トリゴ法と主体性について	
	3	職場でのコミュニケーション (1) 女性と男性のコミュニケーション EQ (心の知能指数)	
	4	職場でのコミュニケーション (2) ビジネスマナー、メールの基本ルール 「挨拶」の効果	
	5	職場でのコミュニケーション (3) 「依頼」「断る」「謝罪」の方法 クレジットカードと電子マネー	
	6	職場でのコミュニケーション (4) 応援される力 「好かれる力」「反省力」「巻き込み力」	
	7	職場でのプレゼンテーション (1) コンテンツをつくる① アイデアと企画と着想、ターゲット	
	8	仕事術 (1) 企画書と正しい情報収集	
	9	職場でのプレゼンテーション (2) コンテンツをつくる② スライド作成の基本とデザイン	
	10	仕事術 (2) 仕事の方法、手順と優先順位、PDCAとPDS	
	11	職場でのプレゼンテーション (3) コンテンツを伝える 感情・感覚に訴える	
	12	仕事術 (3) 段取りとカイゼン	
	13	ファッションビジネス実践力 (1) 数字の読み方、考えたか	
	14	ファッションビジネス実践力 (2) KPIマネジメント	
	15	ファッションビジネス実践力 (3) 定量分析と定性分析	
学習成果・到達目標・基準	◎C：成果を出すために役立つ枠組みについてを説明できる		
事前・事後学習	事前学習：日経MJ、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、アエラそしてビジネスサイトに目をとおり、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと (60分)。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる (120分)。		
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：リアクションペーパー、定期試験を評価する 定期試験 60%、課題 25%、授業態度・貢献度 15%		

テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで最新のビジネスに関する情報を得ておくこと。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code：F12C06	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>色彩について物理科学的側面、生理・心理的側面、文化的側面から基本知識を修得する。日常生活のなかにある実例をあげながら、色が見えるしくみ、色名、色の心理効果、配色方法、日本の伝統色、フランスの伝統色などについて順序立てて学ぶ。色彩検定受験者には、検定対策の参考となるように問題集も活用する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>色の3属性(色相・明度・彩度)のしくみについて確実に理解する。</p> <p>◎D：色のしくみを順序立てて理解し、色の3属性で説明することができる。</p> <p>○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図を描くことができる。</p>		
授業計画	1	色はなぜみえるか 電磁波と可視光 太陽光とスペクトル 照明と色の見え方	
	2	眼のしくみ 色をみる眼のしくみ 網膜における光の処理 分光反射率と色相、明度、彩度	
	3	混色(1) 混色とは何か 同時加法混色 併置加法混色、継時加法混色	
	4	混色(2) 減法混色 カラーモニターの色 カラー印刷の色	
	5	色の分類と三属性 色相、明度、彩度 色立体	
	6	純色、清色、中間色 PCCS、マンセル、JIS PCCSの色相、明度、彩度、トーン 等色相面と色立体 色の表示	
	7	言葉による色表示 基本色名 系統色名 慣用色名	
	8	色彩心理 色の心理的効果 感覚・感情と装い 色のイメージと使い方	
	9	色彩調和(1) 配色調和論の系譜 色相を手がかりにした配色	
	10	色彩調和(2) 明度・彩度を手がかりにした配色 トーンを手がかりにした配色	
	11	色彩調和(3) アクセントカラー セパレーションカラー グラデーションカラー	
	12	色彩とファッション (ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明) :12~15回 ファッションにおける配色 ナチュラルハーモニー、コンプレックスハーモニー イエローベースとブルーベース 配色分析課題	
	13	色彩と生活 生活環境と色彩 インテリア	
	14	五感(音楽、香り、味、触感)と色彩 日本とフランスの伝統色 平安・江戸の色 フランス的慣用色・季節別配色	

	15 流行色 インターカラー 各時代の社会背景と流行色
学習成果・ 到達目標・基準	色相、明度、彩度という色の3属性の意味を理解すること。色名を覚え、色彩心理を活かした配色調和を自由に行える基礎知識を身につける。 ◎D：色相、明度、彩度について説明ができる。 ○E：色の3属性に基づいて、色相環・トーン図の基本を描くことができる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に相当するテキストを読み、項目ごとにレポートとしてまとめる（90分）。 事後学習：授業中に行った練習問題を見直し、相当するテキストと並行して理解を深める（90分）。
指導方法	色とはなにかという身近な疑問を明らかにするために、毎回配色カードを使用し視覚的な訓練を大切にする。順序立てて色のしくみが理解でき、色による心理作用を効果的に活用できる基盤を養うことをめざして指導する。 色彩検定受験者には、検定対策に直結するように問題集をテキストとして活用する。 パワーポイントを使用し、生活の中での実例を紹介するなどわかりやすい工夫を行う。 Webclassで課題を配信し、提出を求める。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：定期試験を評価する。 E：提出課題の完成度を評価する。 定期試験60%、提出課題20%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「カラーコーディネーター入門・色彩」 大井義雄・川崎秀昭著（日本色研事業株式会社） 「文部科学省後援 色彩検定2・3級問題集」A・F・T最新テキスト対応（新星出版） 「Work paper 配色演習台紙」（日本色研事業株式会社） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社）
参考書	
履修上の注意	毎回、テキスト、新配色カード199a、はさみとのりを各自持参する。 新配色カードを常に持ち歩き、カラーサンプルと色名を対応させる習慣をつける。 身の回りの色彩に興味を持ち、授業で学ぶ知識との関連を心掛ける。 後期「カラーコーディネーター演習」は、本科目が履修済みであることが条件となる。
アクティブ・ラー ニング	特になし
I C T・オープン エデュケーション の活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code：F22C07	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「カラーコーディネート論」で学んだ色彩の基礎知識を生かし、身近なものを通して実践的に配色調和の方法を身につける。アーティフィシャルフラワーによるフラワーコーディネート製作を行い、めざすイメージやTPOをふまえた配色技法を体験する。さらに、アロマセラピー精油を用い、色と香りの関係を学び五感と色彩について理解を深める。</p> <p>(授業目標) 色彩調和の原則を理解し、目的や場面に合う魅力的な配色ができるようになる。 ○D：色彩調和の原則や心理効果を理解できる。 ◎E：目的や場面に応じ、主な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。</p>		
授業計画	1	配色技法（1）（実習：配色カードを用いて色相差による配色のトレーニングをする） 色相差による配色	
	2	配色技法（2）（実習：配色カードを用いて色相とトーンによる配色のトレーニングをする） 色相とトーンによる配色	
	3	配色技法（3）（実習：配色カードを用いて基本的な配色技法のトレーニングをする） 配色における面積効果 ハーモニーカラー配色、コントラストカラー配色、アクセントカラー配色、セパレーションカラー配色	
	4	配色技法（4）（実習：配色カードを用いてイメージによる配色のトレーニングをする） イメージによる配色	
	5	配色技法（5）（実習：配色カードを用いて主な配色技法による配色のトレーニングをする） トーン・オン・トーン配色、トーン・イン・トーン配色 ドミナント配色、トータル配色、カマイユ配色、ピコロール配色、トリコロール配色 配色技法について的小テスト	
	6	ブーケA（1）（実習：ブーケ制作の基本を知り、準備を行う） 花の種類と色 フラワーコーディネートに生かす主な配色技法 花の下準備	
	7	ブーケA（2）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） ブーケA制作 配色説明パワーポイント作成	
	8	ブーケA（3）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） 色と関連するエッセンシャルオイルの選択 ブーケA提出	
	9	ブーケB（1）（実習：ブーケの配色方法を理解し、花の準備を行う） 花の下準備 ブーケB制作	
	10	ブーケB（2）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） ブーケB制作 配色説明パワーポイント作成	
	11	ブーケB（3）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） 色と関連するエッセンシャルオイルの選択 ブーケB提出	
	12	ブーケC（1）（実習：リースの配色方法を理解し、花の準備を行う） ブーケCの配色方法をふまえた花選び 花の下準備	
	13	ブーケC（2）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） ブーケC制作 配色説明パワーポイント作成	
	14	ブーケC（3）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） ブーケC制作 配色説明パワーポイント作成	
	15	ブーケC（4）（プレゼンテーション） 完成したブーケCの色に関連する香りのエッセンシャルオイルをつける WebClassに各自が提出したパワーポイントのプレゼンテーションを行う ブーケC提出	
学習成果・到達目標・基準	○D：色彩調和の原則や心理効果の基本を理解できる。 ◎E：基本的な配色技法を用いてフラワーコーディネート制作ができる。		
事前・事後学習	事前学習：テキストによる配色技法のトレーニング、課題の準備に取り組む（20分）。 事後学習：テキストの理解不足の部分を復習し、課題の不足を補う（25分）。		

指導方法	講義は、パワーポイント、テキスト、配布プリントを適宜使用する。 フラワーコーディネート制作は、パワーポイント資料を配布する。 フィードバックの方法：提出された課題に対して教員から項目ごとの評価を伝える。 WebClassで課題を配信し、提出を求める。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：配色調和についての理解度を小テストで評価する。 E：課題制作の完成度を評価する。 課題制作60%、小テスト20%、授業態度・授業貢献度20%
テキスト	「カラーコーディネーターのための配色入門」川崎秀昭（日本色研事業株式会社）
参考書	「はじめてのインテリアブーケ」渡辺俊治監修（株式会社KADOKAWA） 「アーティフィシャルフラワー基本テクニック2 イメージを伝える 花合わせ色合わせのコツ」渡辺俊治（六耀舎）
履修上の注意	前期「カラーコーディネート論」を履修済みであることが履修の条件である。 授業内容に応じて、テキスト、配布プリント、新配色カード199a、はさみとのかみを各自持参すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション 実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
平本貴子			
Subject Code : F12C08			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	日本の民族衣装である「きもの」について、基礎的な知識を学ぶ。現代のスタイルへと変化していった歴史や「きもの」に不可欠な伝統文様、伝統色、家紋、染織技術について解説していく。また、「節目のきもの」や目的に合わせた「きもの」の選び方について理解を深める。 (授業目標) ◎D：古代から現代に至るまでの特徴的な流れを理解する。 ◎D：現在も続く代表的な染織工芸についての知識を修得する。 ○E：目的に合わせた「きもの」を選択する知識を身につける。		
授業計画	1	日本のきものとは 授業概要 きものとは	
	2	古代～中世のきもの歴史 きもの原形が成立する流れ・宮廷文化と武家文化における特徴	
	3	近世のきもの歴史 江戸町人文化から生まれたアイテムや流行	
	4	近代のきもの歴史 服飾の西洋化ときもの	
	5	きもの模様 伝統的な文様について	
	6	紋について きもの種類と紋との関係	
	7	日本の色 日本の伝統色について	
	8	きものが作られる工程 糸染めからきものまで	
	9	染織工芸 (1) 主な染めの産地と特徴	
	10	染織工芸 (2) 主な織りの産地と特徴	
	11	きものに関する基礎知識 主な名称・小物について	
	12	きものと帯 (1) きものと帯の格・節目のきもの (子どもの晴れ着等)	
	13	きものと帯 (2) 節目のきもの (成人式、卒業式、結婚式等)	
	14	きものと帯 (3) 衣替えについて	
	15	基本的なコーディネート きものと帯の組合せ	
学習成果・到達目標・基準	◎D：現代の「きもの」の形式に至るまでの特徴な服装をいくつかあげ説明できる。 ◎D：染めの「きもの」と織り「きもの」の違いが説明ができる。 ○E：目的にあった「きもの」が理解できる。		
事前・事後学習	事前学習：日頃から、雑誌やインターネット等で、振袖姿・袴姿など「きもの」について、色・模様・小物に注目しながら数多くの画像や解説を視聴し情報を得る。(90分程度) 事後学習：講義内容について、その都度ノートや配布資料をまとめ理解を深める。(90分程度)		
指導方法	パワーポイントや映像を用い講義形式で進める。 適宜小テスト(口述又は筆記)を行い理解度を深めていく。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 E：レポート、定期試験を評価する。 定期試験50%、レポート30%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし 必要に応じて、プリントを配布する。		
参考書	授業内で紹介する。		
履修上の注意	欠席した場合、配布プリントを確認すること。		



アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
Subject Code : F13C09			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>繊維が糸になり、糸が布になり、さらに布を縫製することで服飾となる。服飾の素材としての観点から繊維、糸、布などの基礎知識やその性質について講義や体験を通して学ぶ。また、コレクション映像や実際に販売されているアイテムを参考に服飾造形において素材選びはデザインの一部であり、素材は服飾を構成する要素として重要な役割を果たしていることを知る。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：修得した知識を基に服飾造形の際には適した素材が選択できるようになる。また、実際の衣生活に役立てる応用力を身に付けて説明できる。</p> <p>◎D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質を理解できる。繊維製品の正しい管理方法を学び、快適で衛生的な衣生活の知識を修得できる。</p>		
授業計画	1	ファッションと素材 概要説明、衣服の役割と機能、素材とデザインの関係	
	2	繊維の分類と特徴（1）（天然繊維） 植物繊維、動物繊維	
	3	繊維の分類と特徴（2）（化学繊維1） 再生繊維、半合成繊維、合成繊維	
	4	繊維の分類と特徴（3）（化学繊維2） 再生繊維、半合成繊維、合成繊維	
	5	糸 フィラメント糸と紡績糸 撚りと布地の関係 糸の太さの単位	
	6	織物の分類と特徴 三原組織 主要織物の特徴及び用途	
	7	織物の識別（グループワーク：数種類の織物を識別し、グループ代表者が発表する） 織物の種類と識別	
	8	ニットの分類と特徴 緯編みと経編み ホールガーメント	
	9	ファッション素材の染色加工、柄の種類 先染め、後染め、プリント ドット、チェック、ストライプ、ボーダー等	
	10	和服の模様（ゲスト講師） 振袖の素材、模様	
	11	仕上げ加工、その他の素材 繊維別仕上げ加工、目的別仕上げ加工 革、毛皮、裏地、芯地、副資材	
	12	ファッション素材の管理（1） 品質管理 取り扱い絵表示	
	13	ファッション素材の管理（2） 素材に合った手入れ、洗濯 衣服の保管	
	14	ファッション素材のリサイクル アップレールと資源、環境問題	
	15	新素材と今後の発展（グループワーク：グループごと衣服の性能測定を行う） 快適性、イージーケア、健康、ファッション性等、多様な機能を持つ繊維	
学習成果・到達目標・基準	○C：実際の衣生活に役立てる繊維製品の扱い方を判断できる。 ◎D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の違いを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：授業時の指示に従い、翌週の授業で扱う素材について予め調べる（30分）。日頃から身のまわりのファッション素材に関心を持ち、自らの手で触れ、比較観察し、着用するよう心がける（30分）。 事後学習：講義内容を復習し、理解を確かなものにする。さらに各自の理解度を確認する為の小テストに備える（120分）。		
指導方法	パワーポイントを中心に講義する。補足資料としてプリントを配布する。 フィードバックの仕方：①小テスト実施、②採点（評価）返却、③授業後に解答について質疑対応		

アセスメント・成績評価の方法・基準	C：繊維製品の扱い方に関する判断力を小テストによって評価する。 D：繊維、糸、布の基本的な種類、構造、性質の知識を修得しているか定期試験によって評価する。 定期試験50%、小テスト20%、提出物10%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	文化ファッション体系 服飾関連専門講座①「アパレル素材論」文化服装学院編 文化出版局 (2014)
履修上の注意	毎回プリントを配布するため、各自ファイルを用意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C T・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
原田弘美			
Subject Code：F13C10			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	西洋における服飾の変遷を時代背景とともに解説する。 衣服の起源と役割、及び古代から近代までの時代様式の特徴と服飾の関連性を解説する。20世紀以降は各年代の代表的なファッションデザイナーとその作品を紹介し、過去の装いと現代ファッションとの共通点・相違点を探る。毎回、講義のテーマに合わせた映画やコレクション映像、服飾のスライドを使用し視覚的にも理解を深める。 (授業目標) 各時代様式と服飾の特徴を関連づけ、服飾の観点から西洋の歴史を読み取る力を身に付ける。 ◎D：時代背景を考察し、服飾の特徴から各時代を読み取る力を修得する。		
授業計画	1	衣服の起源 衣服の起源と衣服の役割	
	2	古代の服飾（1） 古代エジプトの装飾モチーフと衣服	
	3	古代の服飾（2）（WebClassを使用した課題実施①） 古代ギリシャの服飾 古代ローマの服飾	
	4	中世の服飾 キリスト教文化とビザンティン、ゴシックの服飾の関連性	
	5	近世の服飾（1） ルネサンス芸術と服飾の関連性	
	6	近世の服飾（2）（WebClassを使用した課題実施②） 17世紀バロックのオランダモードとフランスモード	
	7	近世の服飾（3） 18世紀ロココの華やかなフランス宮廷モード	
	8	近代の服飾（1）（WebClassを使用した課題実施③） 19世紀初頭新古典主義とナポレオン1世時代の服飾	
	9	近代の服飾（2） 19世紀女性服のシルエットの変化 パリオートクチュールの誕生	
	10	近代の服飾（3） 19世紀末アール・ヌーボー様式の特徴と服飾	
	11	20世紀初頭のファッション（WebClassを使用した課題実施④） 女性のコルセットからの解放	
	12	1920年代のファッション アール・デコ様式の特徴と服飾 シャネルの活躍	
	13	1940年代～1950年代のファッション ディオールの登場と第二次世界大戦後のパリモード	
	14	1960年代のファッション（WebClassを使用した課題実施⑤） ロンドンファッションとミニスカートの流行	
	15	1970年代～2000年代のファッション オートクチュールからプレタポルテへ 多様化する現代ファッション	
学習成果・到達目標・基準	◎D：近代以前の服飾と現代の服飾の特徴が区別できる。		
事前・事後学習	事前学習：シラバスを参考に次の授業内容を確認し、教科書の該当する部分を読んでおくこと。（30分） 授業を理解しやすくするために、世界史、美術史など各時代の知識を得ておくこと。（60分） 事後学習：講義で学んだ内容をノートを見直しまとめておくこと。代表的な服飾はノートにイラストを描いて覚えるのもよい。特に課題演習の前には課題の範囲を自主学習しておくこと。（60分） 講義で紹介した画家やデザイナーについて調べ更に知識を増やす。（30分） 講義で使った映画やDVDやビデオ配信などで全編鑑賞し理解を深める。 講義で紹介した展覧会に出向き実物を鑑賞し知識を増やす。		
指導方法	毎回パワーポイントを使用し、画像と映像（DVD）を多用しながら視覚的に理解しやすいよう講義を進める。 時代区分ごとにWebClassを使用して課題演習を実施する。 フィードバックの方法：課題実施後、解答を解説。課題提出後、必要に応じて個別対応する。		

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	各時代の時代背景と服飾との関連性が理解できているかを評価する。 D：定期試験と課題プリントを評価する。 定期試験50%、課題プリント30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑩「改訂版・西洋服装史」文化出版局
参考書	
履修上の注意	課題やレポート提出が追加されることもある。 授業中の撮影は禁止。
アクティブ・ラー ニング	特になし
I C T・オープン エデュケーション の活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子、高橋佐智子、平光くり子			
Subject Code : F13C11			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>衣服製作の経験が少ない学生を対象に、基礎的な製作技術の修得を目的としている。課題は「基礎縫い」と「スカート」とし、製作工程に沿った実習内容と使用器具の扱いなどを学修する。</p> <p>前半では手縫い、ミシン縫い、副資材(ボタン付け等)に関する基礎的な縫製技術を修得し、日常生活における衣服トラブルを自ら解決する能力を身に付ける。さらに後半ではスカートを縫製し、作品を製作することで衣服の組み立て方と衣服に対しての知識を深めることができる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：作品製作を通して、衣服の組み立て方を思考できる。</p> <p>◎E：基礎的な製作技術を身に付け、作品製作によってそれを表現できる。</p>		
授業計画	1	基礎縫い(道具の説明、手縫い) (実習)	課題製作に必要な生地や道具について説明
	2	基礎縫い(手縫い) (実習)	並縫い、まつり縫い、本返し縫いなど手縫いの基礎を実習
	3	基礎縫い(ミシン縫い) (実習)	ボタンやかぎホック等、副資材の使用方法を実習
	4	基礎縫い(ミシン縫い) (実習)	ミシンの使用方法、縫い方について説明
	5	基礎縫い(ファスニング講座) (実習) (ゲスト講師)	直線縫い、三つ折等の実習
	6	明きと留め具の説明	ファスナーつけの実習
	7	採寸、パターン作図(実習)	スカート製作に必要な身体のサイズを計測
	8	裁断、印つけ(実習)	各自のサイズでスカートのパターンを作図
	9	布地を裁断	裁断終了後、チャコペーパー等を使用し、印をつける
	10	芯の裁断と接着(実習)	見返しの芯を裁断
	11	アイロンで生地に接着	縫い代に伸び止めテープを貼る
	12	縫い代に伸び止めテープを貼る	組み立て(実習)
	13	しつけ糸を使用して組み立て	試着、補正(実習)
	14	試着を行ない身体の適合やシルエットを確認	補正のある場合はパターンを補正する
	15	本縫い(布端の始末) (実習)	脇、後中心の布端をロックミシンで始末
	16	本縫い(後中心縫い、ファスナーつけ) (実習)	後ろ中心を縫う
	17	ファスナーをつける	本縫い(ダーツ縫い、脇縫い) (実習)
	18	前スカートと後スカートのダーツを縫い、プレスボールを使用してダーツにアイロンをかける	前スカートと後スカートを合わせ、脇線を縫う
	19	本縫い(見返しつけ) (実習)	見返しとウエスト部分を合わせてミシン縫い
	20	本縫い(裾の始末) (実習)	裾をミシンまたは手縫いで始末
	21	本縫い(かぎホック、仕上げ) (実習)	かぎホックを付ける
	22	プレスボール等のプレス用具を使用して、仕上げアイロンをかける	
学習成果・到達目標・基準	○C：服作りをするための正しい縫い方を判断することができる。 ◎E：ミシン・アイロン・縫製用具等を正しく使用できる。		
事前・事後学習	事前学習：基本的な縫い方(手縫い、ミシン等)を練習する。または既製服の組み立てを観察する(20分)。 事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次週までに作業を完了させておく(25分)。		
指導方法	プリントを使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点(評価)返却、④授業後による採点についての質疑対応		

アセスメント・成績評価の方法・基準	C：作品の構造を理解し、正しい製作手順を判断できるか評価する。 E：作品の完成度を評価する。（ルーブリック評価） 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布。
参考書	なし
履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子、高橋佐智子、平光くり子			
Subject Code : F13C12			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>服飾造形1を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。実習で修得した知識、技術を基に製図理論と製作技術を学び、課題として「ブラウス」を製作する。製作工程に関する配布プリントに沿って講義で学び、実習で技術を身に付ける。</p> <p>デザインとパターンの理解を深めた上で、衣服のシルエットやディテールとの関係を学修する。製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、完成度の高い作品作りを目的とする。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：製図理論に基づき、衣服のデザインとパターンの関係を理解できる。</p> <p>◎E：服飾造形1で学んだ技術を活かし、より完成度の高い作品を表現できる。</p>		
授業計画	1	採寸、作図（身頃）（実習） 課採寸を各自で行う 課題である作品の始まりから完成までの工程、課題製作に必要な生地や道具について説明 アイテム（ブラウス）の構造を研究し、デザインに関する知識を広げる	
	2	作図（袖）（実習） 各自のサイズで袖パターンを作図 素材決定、見積りの仕方を説明	
	3	作図（袖）（実習） 各自のサイズで袖パターンを作図 素材決定、見積りの仕方を説明	
	4	裁断、印つけ（実習） 生地の地直しを行ない、裁断 裁断終了後、各パターンに印つけ	
	5	芯の裁断と接着（実習） 見返しの芯を裁断 アイロンで生地に接着	
	6	組み立て（実習） しつけ糸を使用して身頃、袖を組み立て	
	7	試着、補正（実習） 試着を行ない身体の適合やシルエットを確認 補正のある場合はパターンを補正する	
	8	本縫い（ダーツ縫い、ロックミシン）（実習） ダーツを縫い、肩、見返しの布端をロックミシンで始末	
	9	本縫い（肩縫い）（実習） 表身頃、後身頃を中表に合わせ、肩を縫い合わせる	
	10	本縫い（見返しつけ）（実習） 身頃と衿ぐり見返しを中表にし、縫い合わせる	
	11	本縫い（袖つけ）（実習） 身頃と袖を合わせ、しつけをかける	
	12	本縫い（袖つけ）（実習） 身頃と袖を合わせ、しつけをかけた部分をミシン縫い 縫代をロックミシンで始末	
	13	本縫い（袖下、脇縫い）（実習） 袖下、脇を続けてミシン縫い 縫代をロックミシンで始末	
	14	本縫い（袖口、裾の始末）（実習） 袖口の始末 裾を上げ、ミシンでステッチ	
	15	仕上げ（実習） プレスボール、袖まん等のプレス用具を使用して、仕上げアイロン 作品提出	
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：ブラウスを製作するための正しい縫い方を説明できる。</p> <p>◎E：接着芯やロックミシンを使用してブラウスを製作できる。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習：服飾造形1で修得した縫い方の基礎や作業工程を、各回で使用できるように復習しておく（20分）。</p> <p>事後学習：授業終了後には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（25分）。</p>		
指導方法	<p>プリントを使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程と基礎理論が理解できるように指導を行なう。</p> <p>フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応</p>		



アセスメント・成績評価の方法・基準	D：作品の構造や製作手順を理解しているか評価する。 E：作品の完成度を評価する。（ルーブリック評価） 作品80%、授業への貢献度 20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	なし
履修上の注意	「服飾造形1」を履修した学生を対象としている。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
Subject Code：F23C13		実務家教員による授業	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾造形1・2を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。課題は「ノーカラージャケット」とし、配布プリントにより製作工程を学び、実習によりパターンの作図、縫製技術を身につける。ジャケットのデザインや素材、名称について知識を深め、総裏ジャケットの縫製工程を学修することができる。G1クラス対象、技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行う。 (授業目標) ○D：ジャケットのパターンの作図が理解できる。 ◎E：服飾造形1・2で学んだ技術を活かし、裏地付きの作品製作ができる。
授業計画	<p>1 採寸・パターン作図（実習） 採寸後、原型を使用してノーカラージャケットのパターンを作図</p> <p>2 パターン作図（実習） ノーカラージャケットのパターンを作図</p> <p>3 試着～補正（実習） 仮縫い組立ての後、試着をしてジャケットの出来上がりを確認する。シルエットや身体への適合性など、デザイン通りにできているかをチェックし、補正すべき箇所は補正してパターンを完成させる</p> <p>4 裁断・表地、裏地、芯地（実習） 表地、裏地と副資材の芯地等を裁断する</p> <p>5 下準備・本縫い（実習） 芯貼りなどの下準備を済ませたら本縫いに入る 本縫いは切替線を縫い、前身頃のポケットを作る</p> <p>6 本縫い（実習） 表地…肩線を縫う 裏地…見返しと裏地を縫い合わせ、肩線を縫う</p> <p>7 本縫い（実習） 表地…前端から衿ぐりにかけて縫い、縫い代を始末し表に返して形を整え、次に脇線を縫う 裏地…脇線にきせをかけて縫う</p> <p>8 本縫い（実習） 身頃に裏地の中とじをし、裾を始末する 裾の始末…表地は出来上がりに折り、千鳥がけで止めつける・裏地は裾から2cm控えて表地の縫い代に止めつける</p> <p>9 本縫い（実習） 裾の始末…表地は出来上がりに折り、千鳥がけで止めつける・裏地は裾から2cm控えて表地の縫い代にまつりつける</p> <p>10 本縫い（実習） 2枚袖の切り替え線を（表地・裏地共）縫う 表地の縫い代は割り、裏地の縫い代にはきせをかけ、中とじをする</p> <p>11 本縫い（実習） 袖口の始末…表地は縫い代分を折り、千鳥がけ、裏地は袖口から2cm控えて表地の縫い代にまつりつける</p> <p>12 本縫い（実習） 袖つけ…袖山にいせこみを入れアイロンで形を整え、合印を合わせて身頃に止めつけ、ミシンで縫う</p> <p>13 本縫い（実習） 袖の裏地の始末…裏地の縫い代を折り、身頃のアームホールにまつりつける</p> <p>14 本縫い（実習） 袖の裏地の始末…袖の縫い代を折り、身頃のアームホールにまつりつける</p> <p>15 本縫い（実習） 各自のデザインに応じて、前端から衿ぐりにかけて飾りのブレードを縫いつける 前中心に釦ホールを開け、釦をつけ、仕上げにアイロンをかける</p>
学習成果・到達目標・基準	○D：素材の選定とデザインに応じたパターンが理解できる。 ◎E：裏付きジャケットの縫製工程が理解できる。
事前・事後学習	事前学習：基礎縫い、ミシンの練習。またポケット等細部の縫い方を部分縫いで練習すること（30分）。 事後学習：授業で行った課題の作業工程を復習し、次回までに授業で目標とした作業を完成させておくこと（30分）。
指導方法	テキストとサンプルを使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後に採点についての質疑対応

アセスメント・成績評価の方法・基準	D：作品の構造や縫製手順を理解しているか評価する。 E：作品の完成度を評価する。（ルーブリック評価） 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし。 必要に応じてプリントを配布。
参考書	なし
履修上の注意	この授業は上級者向け（G1クラス）のクラスとなるので、自身の技術を見極めて履修すること。レベルに合ったクラスで技術向上、修得をすることが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、高橋佐智子、平光くり子			
Subject Code：F23C13			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾造形1、2を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。実習で修得した知識、技術を基に製図理論と製作技術を学び、課題として「ワンピース」を製作する。製作工程に関する配布プリントに沿って講義で学び、実習で技術を身に付ける。デザインとパターンの理解を深めた上で、衣服のシルエットやディテールとの関係について学修する。製作技術の向上と着心地の良さを考慮した衣服製作に取り組み、完成度の高い作品作りを目的とする。 G2、G3、G4クラス対象。 技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行なう。 (授業目標) ○D：製図理論に基づき、デザインに対応するパターンが理解できる。 ◎E：服飾造形1、2で学んだ技術を活かし、素材のバリエーションやデザイン展開によりオリジナル作品を表現できる。
授業計画	<p>1 採寸、アイテム研究（実習） 採寸を各自で行う 課題である作品の始まりから完成までの工程、課題製作に必要な生地や道具について説明 アイテム（ワンピース）の構造を研究し、デザインに関する知識を広げる</p> <p>2 作図（実習） 各自のサイズで身頃、見返し等パターンを作図</p> <p>3 作図、布地選択（実習） 各自のサイズで身頃、見返し等パターンを作図 素材決定</p> <p>4 裁断、芯の裁断と接着（実習） 生地の地直しを行ない、裁断 必要な部分にアイロンで芯を接着</p> <p>5 裁断、芯の裁断と接着、裁断（実習） 生地の地直しを行ない、裁断 必要な部分にアイロンで芯を接着</p> <p>6 組み立て、試着補正（実習） しつけ糸を使用して組み立て、試着補正</p> <p>7 組み立て、試着補正（実習） しつけ糸を使用して組み立て、試着補正</p> <p>8 本縫い（布端の処理）（実習） 布の表裏を確認しながら、布端をロックミシンで始末</p> <p>9 本縫い（切り替え線）（実習） 身頃の切り替え線を縫い合わせ、プレスボールを使用し縫代を割る</p> <p>10 本縫い（肩縫い、見返し）（実習） 身頃、見返しの肩を縫い、身頃と見返しの衿ぐり、袖ぐりを縫い合わせる 縫代に切込みを入れ、肩から後ろ身頃を引き出して表に返す</p> <p>11 本縫い（見返し）（実習） 見返しを控えて整え、適宜、押さえミシンをかける 身頃と見返しの脇を縫って縫い、布端を縫代に縫いとめる</p> <p>12 本縫い（ファスナーつけ）（実習） 後ろ中心を縫い、コンシールファスナーをつける 見返し端を縫いとめる</p> <p>13 本縫い（裾の始末）（実習） 裾をミシンまたは手縫いで始末</p> <p>14 本縫い（装飾）（実習） デザインに合わせて装飾をする</p> <p>15 作品発表（実習） プレスボール等のプレス用具を使用して、仕上げアイロンをかける 着装発表を行う</p>
学習成果・到達目標・基準	○D：デザインに対応するパターンを選択できる。 ◎E：素材を選択し、ワンピースが製作できる。
事前・事後学習	事前学習：服飾造形1、2で修得した縫い方や作業工程を各回で使用できるように復習しておく（20分）。 事後学習：授業終了時には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（25分）。
指導方法	プリントを使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：作品の構造や製作手順を理解しているか評価する。 E：作品の完成度を評価する。（ルーブリック評価） 作品80%、授業への貢献度20%

テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	なし
履修上の注意	「服飾造形1」「服飾造形2」を履修した学生を対象としている。本授業は習熟度別では初級者向け(G2、G3、G4)のクラスとなるので、自身の技術を見極めて履修すること。レベルに合ったクラスで技術を向上、修得することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
Subject Code：F33C14		実務家教員による授業	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾造形1・2・3を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。課題は「ビスチェ型ドレス」とし、配布プリントにより製作工程を学び、実習によりパターンの作図、縫製技術を身につける。デザインの決定から素材の選定、衣服製作の技術と幅を広げ、応用方法を学修する。 G1クラス対象、技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行う。 (授業目標) ○D：デザインに応じたパターンの作図ができる。 ◎E：デザインに適した素材の選定、素材に適した縫製ができる。		
授業計画	1	採寸・パターン作図（実習） 採寸後、身頃原型を使用してビスチェ型ドレスのパターンを作図	
	2	パターン作図（実習） ビスチェ型ドレスのパターンを作図	
	3	シーチング裁断・しるし付け（実習） 仮縫いにはシーチングを使用。シーチングで裁断し、印つけをする	
	4	仮縫い組み立て（実習） 裁断したシーチングをドレスの出来上がりの形に縫う	
	5	試着・補正（実習） 仮縫い組み立てが終わったら、試着をしてドレスの出来上がりを確認する。シルエットや身体への適合性など、目標通りにできているかをチェックし、補正すべき箇所は補正してパターンを完成させる	
	6	裁断・表地、装飾用の別布、裏地、芯地（実習） 表地、裏地、装飾用の別布がある場合は別布、芯地の裁断をする	
	7	下準備・本縫い（実習） 芯貼り、伸び止めテープ貼りなどの下準備をし、本縫い（スカートの布端始末）	
	8	本縫い（実習） 表・裏身頃共にパーツを縫い合わせる デザインに応じて別布がある場合は別布も縫う	
	9	本縫い（実習） 身頃の上側の布端を縫い、表に返して形を整える 表・裏・別布（デザインに応じて）のスカートの脇線をそれぞれ縫う	
	10	本縫い（実習） 表・裏・別布（デザインに応じて）のスカートの脇線をそれぞれ縫う	
	11	本縫い（実習） 表・裏・別布（デザインに応じて飾りつけなどを含む）のスカートを仕上げる	
	12	本縫い（実習） 表身頃と表スカートのウエスト部分を縫い合わせ、縫い代始末をする	
	13	本縫い（実習） 脇線にファスナーを付けて身頃の裏地を始末する	
	14	本縫い（実習） スカートの裾の始末をする、デザインに応じて別布がある場合は別布の裾も始末する	
	15	本縫い、仕上げ（実習） デザインに応じて装飾やスカートの裾の巻きロックなどをし、アイロンをかけて仕上げる	
学習成果・到達目標・基準	○D：デザインに対応するパターンの選択ができる。 ◎E：デザイン、素材に適した縫製工程が理解できる。		
事前・事後学習	事前学習：基礎縫いと本縫い（薄くつれやすい布地をミシンで縫う）の練習（30分）。 事後学習：授業で行った課題の作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておくこと（30分）。		
指導方法	プリントとサンプルを使用して説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：作品の構造や縫製手順を理解しているか評価する。 E：作品の完成度を評価する。（ルーブリック評価） 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	プリントを配布 必要に応じてプリントを配布		
参考書	なし		

履修上の注意	この授業は上級者向け（G1クラス）のクラスとなるので、自身の技術を見極めて履修すること。レベルに合ったクラスで技術向上、修得をすることが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子、平光くり子			
Subject Code：F33C14			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>服飾造形1、2、3を履修し、さらなる技術の向上を目指す学生を対象としている。実習で修得した知識、技術を基に製図理論と製作技術を学び、課題として「ノーカラーコート」を製作する。製作工程に関する配布プリントに沿って講義で学び、実習で技術を身に付ける。デザインに適した素材の選択、衣服の立体化、より高度な縫製方法を学ぶ。</p> <p>G2、G3クラス対象。技術的レベルに基づく習熟度別でクラス編成を行う。 (授業目標)</p> <p>○D：製図理論に基づき、オリジナルデザインのパターンを自ら作図できる知識を身につけ、美しい作品となるようパターン展開を理解できる。</p> <p>◎E：服飾造形の総仕上げとして、これまでに学んだ技術を活かし、美しく完成度の高い作品を製作できる。</p>		
授業計画	1	採寸、アイテム研究（実習） 採寸を各自で行う 課題である作品の始まりから完成までの工程、課題製作に必要な生地や道具について説明 アイテム（ノーカラーコート）の構造を研究し、デザインに関する知識を広げる	
	2	デザイン案提出、作図（身頃）（実習） オリジナルパターンを元に各自オリジナルデザインを提出 各自のサイズで身頃パターンを作図	
	3	作図（袖）（見返し）、布地選択（実習） 各自のサイズで袖パターンを作図 自分のデザインをカタチにするために適した布地を選択	
	4	トワルチェック（実習） トワルを組み、立体でデザインを確認	
	5	芯の裁断と接着、生地の裁断（実習） 生地の地直しを行ない、接着芯をアイロンでつけ、裁断 身頃・袖・見返しの裁断	
	6	芯の裁断と接着、生地の裁断（実習） 生地の地直しを行ない、接着芯をアイロンでつけ、裁断 身頃・袖・見返しの裁断	
	7	本縫い（端の始末）（実習） 伸び止めテープを貼る 肩、脇、見返し端、袖下をロックミシンで始末	
	8	本縫い（見返し、肩縫い）（実習） 見返しと身頃を縫い合わせる 肩縫い	
	9	本縫い（脇縫い）（実習） 脇を縫い、縫代を割る	
	10	本縫い（袖）（実習） 袖山をぐし縫い 袖下を縫い、縫代を割る 袖口にステッチ	
	11	本縫い（袖付け）（実習） 身頃と袖を合わせ、袖付けをミシン縫い 縫い代をロックミシンで始末	
	12	本縫い（袖付け）（実習） 身頃と袖を合わせ、袖付けをミシン縫い 縫い代をロックミシンで始末	
	13	本縫い（前端、裾の始末）（実習） 前端を始末し、裾を上げる	
	14	本縫い（ボタンホール、ボタンつけ）（実習） しるしをつけたところにボタンホールを開け、ボタンをつける	
	15	作品発表（実習） プレスボール等のプレス用具を使用して、仕上げアイロンをかける 着装発表を行う	
学習成果・到達目標・基準	○D：デザインに沿ったパターンが理解できる。 ◎E：シルエットと縫製が美しい作品を製作できる。		
事前・事後学習	事前学習：服飾造形1、2、3で修得した縫い方や作業工程を、各回で使用できるように復習しておく（20分）。 事後学習：作業終了時には学習した作業工程を復習し、次回までに作業を完成させておく（25分）。		
指導方法	プリントを使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応		



アセスメント・成績評価の方法・基準	D：作品の構造や製作手順を理解しているか評価する。 E：作品の完成度を評価する。（ルーブリック評価） 作品80%、授業への貢献度 20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	なし
履修上の注意	本授業は服飾造形1、2、3を履修し、G2、G3クラスの学生を対象とする。自身の技術を見極めて履修すること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
Subject Code：F23C15			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「きもの」は日本の風土の中で育った民族衣装である。課題として「ゆかた」を製作し、製作工程に関する配布プリントに沿って講義で学び、実習で技術を身に付ける。反物から1枚の着物が完成するまでの無駄のない裁断、美しい縫い方から日本の伝統的な文化を知ることができる。また、最後に着装発表を行い平面で構成された和服が人体に着装されることで立体化する過程を学修する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：ゆかたを縫製し、着装することで和服の構成を理解し、洋服との違いを説明できる。</p> <p>◎E：和服の基本的技法を的確に活用し、作品を正確に製作できる。</p>		
授業計画	1	採寸と寸法設定、反物選択（実習） 身丈、衽丈、ゆき等を計測する 課題である作品の始まりから完成までの工程、課題製作に必要な生地や道具について説明 反物を選択する	
	2	基礎縫い（実習） 糸の止め方、縫い方（運針等）、並縫い、三つ折りぐけ、耳ぐけ、本ぐけ	
	3	柄合わせ、裁断（実習） 柄合わせ、折り積もり、裁断	
	4	袖（実習） しるしつけ、袖下の袋縫い、丸みの始末	
	5	身頃、衽（1）（実習） 身頃と衽のしるしつけ	
	6	身頃、衽（2）（実習） 背縫い、衽下くけ、肩当てつけ	
	7	身頃、衽（3）（実習） 居敷当てつけ、衽つけ	
	8	身頃、衽（4）、掛け衽（実習） 衽の始末、掛け衽の柄合わせ	
	9	衽（1）（実習） しるしつけ、衽縫い準備	
	10	衽（2）（実習） 衽付け	
	11	衽（3）（実習） 三つ衽芯、衽先の始末、衽くけ	
	12	脇縫い（実習） 脇縫い、脇の縫い代の始末	
	13	身頃、衽（4）（実習） 裾くけ	
	14	袖つけ、掛け衽つけ（実習） 袖つけ、掛け衽つけ	
	15	作品発表（実習） 仕上げ 着装発表を行う	
学習成果・到達目標・基準	○D：ゆかたを縫製し、着装することで和服の構成を理解できる。 ◎E：和服の基本的技法を活用し、作品を製作できる。		
事前・事後学習	事前学習：基本的な縫い方（運針等）を練習する（60分）。 事後学習：授業終了後には学修した作業工程を復習し、次週までに作業を完了させておく（60分）。		
指導方法	プリントを使用して、説明を加えながら授業を進める。講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後による採点についての質疑対応		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：作品の構造や製作手順を理解しているか評価する。 E：作品の完成度を評価する。（ルーブリック評価） 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布		
参考書	なし		

履修上の注意	「服飾造形1」を履修していることが望ましい。作業に遅れないよう積極的に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
土岐幸子			
Subject Code : F13C16	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>パターンの基礎知識とパターン理論を学ぶ。スカートの種類やシルエットの表現方法を学習し、ブラウスの身頃、衿、袖の作図方法、と胸ダーツの処理方法を学び、デザインに応じた表現方法を習得する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：パターン設計の技術的展開ができる。</p> <p>◎E：実習をとおして、デザインに対応したアイテム別の表現ができる。</p>		
授業計画	1	<p>アパレルパターン概論 立体裁断と平面製図の基礎知識 用具説明と専門用語 マスカンと原型の関係 原型 基礎線の名称</p>	
	2	<p>スカートセオリーとスカートバリエーション (1) (実習2回～15回) スカート原型 平面製図 実寸</p>	
	3	<p>スカートバリエーション (2) 平面製図フレアスカート 実寸</p>	
	4	<p>スカートバリエーション (3) 平面製図セミフレアスカート 1/4縮尺</p>	
	5	<p>スカートバリエーション (4) 平面製図 ヨークスカート1/4縮尺 立体裁断準備</p>	
	6	<p>スカートの立体裁断 (グループワーク：立体裁断) フレアスカートの立体裁断</p>	
	7	<p>上身頃のセオリー (1) 上身頃原型 ゆとり入り原型製図 平面製図 実寸</p>	
	8	<p>上身頃のセオリー (2) ゆとり入り原型製図 平面製図 実寸</p>	
	9	<p>バストダーツの処理方法とダーツの種類 (1) 平面製図 実寸 1/4縮尺</p>	
	10	<p>バストダーツの種類 (2) 平面製図 1/4縮尺</p>	
	11	<p>衿のセオリー 衿の構造 衿の名称 衿ぐりと衿の関係 平面製図 シャツカラー 実寸</p>	
	12	<p>衿のバリエーション 平面製図 スタンドカラー、フラットカラー 実寸</p>	
	13	<p>袖のセオリー アームホールと袖山の関係 袖原型製図 平面製図 実寸</p>	
	14	<p>袖のバリエーション 平面製図パフスリーブ 実寸</p>	
	15	<p>身頃応用パターンエクササイズ タックとギャザー 平面製図 1/4縮尺</p>	
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：基礎的なパターン展開ができる。</p> <p>◎E：デザインに対応したダーツ移動ができる。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習：衣服のアイテム別名称について調べる。(15分) 事後学習：理解できない箇所を確認し、次回の授業に備えること。(30分)</p>		
指導方法	<p>平面の布と立体である衣服の関係について理論的に分かり易く説明し、理論と技術を指導する。</p>		
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>D：パターン設計の技術的展開ができるか課題によって評価する。 E：デザイン画に対応したアイテム別の表現が的確か課題によって評価する。 課題60%、授業への貢献度40%</p>		

テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布。
参考書	
履修上の注意	作業に遅れないよう積極的に取り組むこと。 「パターンメイキング2 (CAD)」を履修する場合は、必ず履修すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
Subject Code：F23C17			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>アパレルCADを使用しパターンデータの作図方法を学修する。アパレルCADとは、ファッションの製作現場で活用されているパターンメイキングシステムである。この授業では、東レACS社製アパレルCADシステム（CREA COMPO II）を用いてパターン作成を効率的に行うことを目指し、基本操作を身に付け、パターン展開に適した操作を判断する力と作図技能を修得する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：デザインとパターンの関係を思考し理解したうえで、アパレルCADの多様な操作機能を的確に判断できる。</p> <p>◎E：基本的なパターンおよびデザインに応じたオリジナルパターンを作図できる。</p>		
授業計画	1	アパレルCADの基本知識・基本操作（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及びデータ提出:1～15回） 入力方法、プロッターの使用法、データの保存方法	
	2	スカートのパターン作成 タイトスカートパターンを作成	
	3	スカートのパターン展開（1） タイトスカートからセミタイトスカートへ展開	
	4	スカートのパターン展開（2） タイトスカートからフレアスカートへ展開	
	5	スカートのパターン展開（3） タイトスカートからプリーツスカートへ展開	
	6	ブラウスのパターン作成 前身頃、後ろ身頃のパターンを作成	
	7	ブラウスのパターン展開（1） ダーツの移動、分散	
	8	ブラウスのパターン展開（2） バストダーツからネックラインギャザーへ展開	
	9	袖のデザイン展開（1） 袖の構造を復習、シャツスリーブのパターンを作成	
	10	袖のデザイン展開（2） 衿のデザイン展開（1） パフスリーブ、フレアスリーブ等のパターンを作成 衿の構造を復習	
	11	衿のデザイン展開（2） シャツカラー、フラットカラー等のパターンを作成	
	12	ワンピースのパターン作成（1） 身頃パターンからワンピースパターンへ展開	
	13	ワンピースのパターン作成（2） パーツ化、縫い代付け等	
	14	応用課題（1） 各自のデザインによるパターン作成 縮小データを提出	
	15	応用課題（2） 修得した操作方法により応用課題に取り組む 縮小データを提出	
学習成果・到達目標・基準	○C：アパレルCADの操作の中からパターン展開に適切な機能を判断できる。 ◎E：基本的なパターンを作図できる。		
事前・事後学習	事前学習：日常身に付けている衣服のパターンについて考えること。WebClassにアップされた資料を事前に閲覧しておくこと（25分）。 事後学習：授業時の指示に従い、新しく学修した操作方法を復習しておくこと（20分）。		
指導方法	操作方法のプリントを配布し、説明を加えながら授業を進めていく。細かい操作方法を理解し修得できるように、手元の操作を分かりやすく示し指導する。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②提出（学生）、③採点結果にコメント記載のうえ返却または返信、④授業後におけるコメントへの質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：アパレルCADの適切な機能を選択できるか提出物（縮小データ）で評価する。 E：基本的なパターンメイキングができるか応用課題で評価する。 応用課題50%、提出物（縮小データ）30%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する		

参考書	なし
履修上の注意	パソコンを使用したパターンメイキングの授業であるため、「服飾造形1」や「パターンメイキング1」の授業を履修していることが望ましい。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code：F13C18	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	服飾文化の歴史をデザインとアートの視点で解釈することからはじめて、伝説的なファッションデザイナー、ファッションエディター、ファッションフォトグラファーの作品やアート作品をもとに、多面的な視点からファッションデザインを考える。加えて、ファッションデザインの歴史の理解を通じて、理論や感性などの複眼的視点やアプローチ法を養う。後半では、ファッションを一つのスタイルと捉え、衣食住、遊、知、美、景にて構築し、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITA と事例としてのラグジュアリーブランドを比較し分析することで、右脳・左脳を使った複眼的な思考法を解説する。 (授業目標) ◎D：ラグジュアリーブランドのビジュアルを多く知ることで、美的センスを身につける。		
授業計画	1	ファッションデザインとは デザインの分類と、本学オリジナルブランドMARIE de TOITAについて	
	2	世界の文化史 中世からルネサンスまでのヨーロッパの服飾について	
	3	服飾文化史 古代からベルエポックまでの服飾について	
	4	伝説のエディター、ダイアナ・ヴリーランドに学ぶ BAZAARでのエディターとしての仕事、およびVOGUEでの編集長としての仕事について	
	5	ラグジュアリー百貨店について（バーニーズNY、バーグドルフグッドマン） セレクトショップの原点について	
	6	ファッション文化 デザイナーの歴史について	
	7	美術文化 ファッションとアートの関連	
	8	世界のフォトグラファー リチャード・アヴェドン、ブルース・ウェーバー、アーヴィング・ペン等のファッションフォトグラファーについて	
	9	エンタテインメントとファッション 舞台、映画、イベントの中のファッションについて	
	10	世界のダイニングスタイル ライフスタイル、フードとファッションの融合	
	11	ダイアナ・ヴリーランドとアナ・ウィンターの比較 ファッション業界伝説の編集長の対比	
	12	ラグジュアリーブランドのブランディング（1） ラグジュアリーブランドの歴史と変遷	
	13	ラグジュアリーブランドのブランディング（2） ラグジュアリーブランドのモノづくり 本学オリジナルブランドMARIE de TOITAのモノづくり	
	14	オリジナルファイル、レポート MARIE de TOITAのポートフォリオ作成	
	15	ファッションデザインのグローバリゼーション ライフスタイルとファッションデザイン	
学習成果・到達目標・基準	◎D：書籍から興味のある印象的なビジュアルを選び、ファッションデザインの観点から説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：本学図書館に於いて指定されている書籍でライフスタイルの知識を得ておくこと。（90分） 事後学習：発表した内容を更に授業時に得たヒントやアイデアを基に分析し要約しておくこと。（90分）		
指導方法	講義内容に関連する映像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。スタイルを解説する際は、ビジネス（左脳）と感性（右脳）の両視点をバランスを考え指導する。特に感性（右脳）面ではビジュアルを多く使用し、毎回テーマごとに進めていき、ポートフォリオを作成していく。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験を評価する。 定期試験 50%、課題 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	なし		



履修上の注意	本学図書館にて定期購読している書籍の中から、左脳として東洋経済、週刊ダイヤモンド、AERA、ファッション大辞典を、右脳としてWalter Van Beirendonck、Goddess : the classical mode、モードデザイナーの家、和楽、PEN、マリークレールビジュアール、VOGUE、BAZAAR、View、Wear、を必ず一読すること。レポート等の題材を記載の書籍から取り上げる。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F13C19			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションデザインに必要なデザイン画の基礎となる基本プロポーションやポーズから人体ディテールの研究、アイテム図の表現法や着装表現、基本シルエットと着彩表現、各種画材の特性について学ぶ。市場調査を交え、常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるよう、豊かな感性とその表現力を養うことを目標とする。 (授業目標) ○C：描く対象物やディテールに適した技法を判断し表現できる。 ◎E：デザイン力や色彩感覚を磨き、描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる。		
授業計画	1	ガイダンス、基本プロポーション（実習1回～15回） 基本プロポーション（正面、横）	
	2	アイテム図の表現（1） スカート、パンツの描き方	
	3	アイテム図の表現（2） ジャケット、シャツ、コートの描き方	
	4	着装（1） スカートのファッション画	
	5	着装（1） コピックマーカー、パステル、色鉛筆など、画材の違いによる描き方	
	6	着装（1） スカートのファッション画の着彩、仕上げ	
	7	着装（2） パンツスタイルのファッション画	
	8	着装（2） パンツスタイルのファッション画の着彩、仕上げ	
	9	着装（3） ジャケットのファッション画	
	10	着装（3） ジャケットのファッション画の着彩、仕上げ	
	11	着装（4）（ICT：スマートフォンを活用したコーディネート考案） メンズのファッション画	
	12	着装（4） メンズのファッション画の着彩、仕上げ	
	13	着装（5）（ICT：スマートフォンを活用したコーディネート考案） 2体レイアウトのファッション画	
	14	着装（5） 2体レイアウトのファッション画の着彩、仕上げ	
	15	学修成果発表（プレゼンテーション：個人） 各自自分の作品について発表、総評	
学習成果・到達目標・基準	○C：指定された課題を仕上げることにより、アイテムのディテールを理解する。 ◎E：人体にフィットする服をディテールを理解しながら描くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：流行している服や色について市場調査する習慣を身につける（30分）。 事後学習：授業で学んだ技術の復習を行い、分野を問わず、アートやデザインに触れて感性を磨く努力をする（30分）。		
指導方法	板書や配布プリントによって描く対象物を表現するための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：提出した作品は、トレーシングペーパーの上から加筆等を行い、上達のためのアドバイスを行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：授業で説明したプロポーションなどの注意点が提出課題にて意識できているかを、採点の際の基準とする。 E：授業で説明した描く対象物に応じた適切な画材の使用ができているかを、採点の際の基準とする。 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし		
参考書	必要に応じてプリント配布		

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げる事。</li> <li>・課題提出物の期限は厳守すること。</li> </ul>
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code：F23C20			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッションイラストレーション1」で学修した知識や技法をもとに、ドレスのデザインやディテールの表現法、ポーズの応用、ブーケやベールの表現法を学ぶ。常に広い視野を意識しながら、日々変化するファッション業界に対応できるよう、豊かな感性と表現力を養い、魅力的な独自のデザイン画が描けることを目標に指導していく。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：描く対象物やディテールによって異なる表現技法を修得する。</p> <p>◎E：デザイン力や色彩感覚を磨き、多様なディテールやデザインを表現する技術を身につける。</p>		
授業計画	1	ファッションイラストのポーズ、プロポーションの応用について ポーズ、プロポーションの応用について	
	2	画材研究 水彩絵の具の表現法	
	3	秋のコーディネートファッション（1）（ICT：スマートフォンを活用したコーディネート考案） コーディネート考案、線画の制作	
	4	秋のコーディネートファッション（2） 着彩、仕上げ	
	5	メンズファッション（1）（ICT：スマートフォンを活用したコーディネート考案） コーディネート考案、線画の制作	
	6	メンズファッション（2） 着彩、仕上げ	
	7	バロック風の装飾表現について バロック風のギャザー、ドレープ、バラ、小花などの表現法	
	8	カラードレス（1） 水彩絵の具による着彩表現、仕上げ	
	9	カラードレス（2） スケッチ、ドレスに似合うポーズの研究	
	10	カラードレス（3） フリル、リボン、ブーケの表現法	
	11	オリジナルコーディネートによる制作（1）（ICT：スマートフォンを活用したコーディネート考案） A3ボードにてオリジナルデザイン表現 コーディネート考案	
	12	オリジナルコーディネートによる制作（2） A3ボードにてオリジナルデザイン表現 構図、下絵制作	
	13	オリジナルコーディネートによる制作（3） A3ボードにてオリジナルデザイン表現 線画制作	
	14	オリジナルコーディネートによる制作（4） 水彩絵の具による着彩表現、仕上げ	
	15	学修成果発表（プレゼンテーション：個人） 各自自分の作品について発表	
学習成果・到達目標・基準	○C：指定された課題を仕上げることにより、技法による違いを判断できる。 ◎E：描く対象物によって適切な画材を選び、描くことができる。		
事前・事後学習	事前学習：服飾資材店や美術館で、レースやチュール等の素材やアート、デザインに触れる機会を多く持ち、自らの作品制作に使用できる素材を収集する（30分）。 事後学習：常に市場調査する意識を持ち、分野を問わずアートやデザインに触れて感性を磨く（30分）。		
指導方法	板書や配布プリントによって対象物を描くための技法を解説し、各自の個性を伸ばしながらデザイン画が描けるよう指導する。 フィードバックの仕方：作品にトレーシングペーパーの上から加筆等を行い、上達のためのアドバイスをを行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：描く対象物やディテールによって、描き方を工夫できているかを評価する。 E：提出課題により技術力を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし		

参考書	必要に応じプリント配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題内容を理解の上、課題作品を仕上げる事。</li> <li>・課題提出物の期限は厳守すること。</li> <li>・前期のファッションイラストレーション1を履修した学生のみ履修可能である。</li> </ul>
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
平光くり子			
Subject Code : F13C21			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	手を使いモノを作るハンドクラフトの基礎技術の修得を目的に、手縫いによるコサージュ、アートフラワーの製作を行う。布による造花の製作工程では、花の種類によって布や糸、コテなどを用い様々な手作業を学修する。まず、コサージュ製作を行うことで、加工、装飾する基本技術を習得し、次にアートフラワーの製作を通して、自身の理想のイメージを形にするための技術を磨く。後半部では、学びの仕上げとしてオリジナル作品を製作する。 (授業目標) ◎E：加工、装飾技術を身に付け、オリジナリティある作品製作ができる。		
授業計画	1	服飾資材を使用したコサージュ製作（1）（実習） ブレードを使用したコサージュの説明及び製作を行う	
	2	服飾資材を使用したコサージュ製作（2）（実習） ブレードを使用したコサージュの製作、仕上げ方法について説明	
	3	ビロード生地を使用したアートフラワー製作（1）（実習） ビロード生地の説明及びコテの使用方を説明	
	4	ビロード生地を使用したアートフラワー製作（2）（実習） ビロード生地コサージュを製作、仕上げ方法について説明	
	5	サテン生地を使用したアートフラワー製作（1）（実習） サテン生地の説明及びコテの使用方を説明	
	6	サテン生地を使用したアートフラワー製作（2）（実習） サテン生地を使用したアートフラワー製作及び仕上げ方法の説明	
	7	染色用生地を使用したアートフラワー製作（1）（実習） 染色方法の説明及び製作	
	8	染色用生地を使用したアートフラワー製作（2）（実習） 染色用生地を使用したアートフラワーの製作	
	9	染色用生地を使用したアートフラワー製作（3）（実習） 染色用生地を使用したアートフラワーの製作及び仕上げ方法	
	10	加工生地を使用したアートフラワー製作（1）（実習） アートフラワー用加工生地の説明及びコテの使用方を説明	
	11	加工生地を使用したアートフラワー製作（2）（実習） アートフラワー用加工生地を使用したアートフラワー製作	
	12	加工生地を使用したアートフラワー製作（3）（実習） アートフラワー用加工生地を使用したアートフラワー製作及び仕上げ方法の説明	
	13	自由製作（1）（実習） オリジナル作品のデザイン、製作方法説明	
	14	自由製作（2）（実習） オリジナル作品の製作	
	15	自由製作（3）（実習） オリジナル作品の製作、仕上げ、提出	
学習成果・到達目標・基準	◎E：加工、装飾するための製作技術の手順を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：様々なハンドクラフト作品を店舗やインターネット等で常に市場調査し、デザインの引き出しを作っておく（30分）。 事後学習：学んだ技術を普段の生活にとりいれられるよう、身近なハンドクラフト作品がどのような構造によりできているのかを考える（30分）。		
指導方法	毎回、「ビジュアル」と「技術」のポイントを伝え、講義も交えて指導していく。製作工程の各段階では、実習内容と使用器具の扱い方などの説明を行う。 フィードバックの仕方：①実習②作品提出③採点（評価）返却④授業後、採点についての質疑応答。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：作品の技術面、完成度を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布		
参考書	なし		

履修上の注意	作業工程に遅れないように積極的に課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ			
Subject Code : F23C23			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ニットは毛糸や綿糸を用いて、1本の糸を編み上げることにより形成されていく。かぎ針編み、棒針編み、アフガン編み、レース編み等の手法があるが、いずれも基準となる結ぶ目を作り、編み目の中に糸を通して目をつなぎ合わせることを繰り返すことで編地が作られる。基礎編みで編み図と技法を理解し、習得した編模様の技能を組み合わせることで応用作品の製作を行う。</p> <p>(授業目標) ○D：数種類の基礎編み技法を理解し、応用作品を製作することができる。 ◎E：基礎編みで修得した技能を組み合わせ、編地の表現方法を理解する。</p>		
授業計画	1	かぎ針編みによる基礎技法（実習：くさり編み） 編み図説明、かぎ針の持ち方、糸の扱い方、作り目、くさり編み	
	2	かぎ針編みによる基礎技法（実習：細（コマ）編み） 細（コマ）編みの技法	
	3	かぎ針編みによる基礎技法（実習：長編み技法） 長編みの技法	
	4	かぎ針編みによる基礎技法（実習：透かし編み技法） 透かし編み模様の技法	
	5	かぎ針編みによる基礎技法（実習：縄編み技法） 玉編み模様の技法	
	6	かぎ針編みによる基礎技法（実習：仕上げ方技法） 引き抜き編み技法、基礎編み地仕上げ、糸始末、仕上げアイロン	
	7	かぎ針編みによる基礎技法（実習：モチーフ編み技法） モチーフ編み円形（1）	
	8	かぎ針編みによる基礎技法（実習：モチーフ編み技法） モチーフ編み円形（1）	
	9	かぎ針編みによる基礎技法（実習：モチーフ編み技法） モチーフ編み四角形（2）	
	10	かぎ針編みによる基礎技法（実習：モチーフ編み技法） モチーフ編み六角形（3）、仕上げ、糸始末、仕上げアイロン	
	11	応用作品製作（1）（実習：同左） 応用作品に取組むためのデザインを決定する、作品製作についての相談	
	12	応用作品製作（2）（実習：同左） かぎ針の基礎編みを応用して編地を決定する、作品製作についての相談	
	13	応用作品製作（3）（実習：同左） 編地の整え方、糸変えの技法	
	14	応用作品製作（4）（実習：同左） 編地の仕上げ方法	
	15	応用作品製作（5）（実習：同左） 仕上げアイロン、完成	
学習成果・到達目標・基準	○D：編み図を理解することで、正しい編み方ができる。 ◎E：基礎編みの技能を組み合わせ、課題作品に応用することができる。		
事前・事後学習	基礎技術の理解と、技能の上達を図れるように事前事後学習をすること。 事前：必ず配布プリントに目を通し、予習をしておくこと（20分）。 事後：各回のテーマで学修した編み図を理解し、編地を仕上げしておくこと（25分）。		
指導方法	・製作工程に関するプリントを配布し、説明を加えながら指導をする。 ・講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程と基礎技術を理解できるように指導をする。 フィードバックの仕方：課題はルーブリック評価を行い返却する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：授業に臨む主体性と取り組む姿勢 E：説明に対する理解力と応用作品の完成度（ルーブリック評価） 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし プリント配布		
参考書			
履修上の注意	理解できるまで指導は行うが、進度に遅れている場合は空き時間などを利用して遅れないように注意すること		



	と。 数点の課題提出日を厳守し、すべて提出すること。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
森幸子			
Subject Code : F23C23			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>日本の人形史や国内外のドールデザインを手がかりに、手作りの人形作品を制作する。</p> <p>課題1は、「手のひらサイズ」のオリジナル作品を制作する。</p> <p>課題2は、2019年12月に発売された、新しいカスタムドール用素体を使用する。</p> <p>カスタムドールは瞳の色、髪の色などを自由に選択出来る。ここではMボックル（15cm）のドールを制作する。</p> <p>手縫いによる「きもの」や「洋服」、小物などを制作しながら、カスタムドールのストーリーを創り出し、オリジナルドールをかたちにする。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎C：現代社会における、地域のマスコットなどを紹介しながら、その現場を見極め、解決方法を学ぶことができる。</p> <p>◎E：ドールメイクや、裁縫（手縫い・接着剤）の技術や素材の研究を通して、繊細な技術と新しい表現力を身につける。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 日本人形史に触れながら、授業の概要について説明する。 カスタムドールの瞳の色、ウィッグを選ぶ。 課題1「手のひらサイズ」のテーマを発表する。</p> <p>2 手のひらサイズの作品（実習） 課題1「手のひらサイズ」のデザインと素材を考える。</p> <p>3 手のひらサイズの作品（実習）（ICT:WebClass） 課題1「手のひらサイズ」作品制作。 個別指導を行う。</p> <p>4 手のひらサイズの作品（実習） 課題1「手のひらサイズ」作品制作。 個別指導を行う。</p> <p>5 手のひらサイズの作品（実習、プレゼンテーション） 課題1「手のひらサイズ」作品とオリジナルファイルを作成させる。 作品発表と講評を行う。</p> <p>6 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」研究と制作。 資料収集の説明。</p> <p>7 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」デザインを決定する。 オリジナル作品「きもの」の説明を行う。 素材収集の説明。</p> <p>8 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」作品制作。 制作の指導を行う。</p> <p>9 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」作品制作。 制作の指導を行う。</p> <p>10 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」作品制作。 小物制作の指導を行う。</p> <p>11 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」作品制作。 オリジナル作品「洋服」の説明を行う。</p> <p>12 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」作品制作。 オリジナル作品を完成させるための指導を行う。</p> <p>13 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」作品制作。 作品（カスタムドール）の撮影に必要な背景の説明を行う。</p> <p>14 カスタムドール（実習） 課題2「カスタムドール」作品制作。写真撮影。 撮影および印刷（プリント）を行う。 オリジナルファイル作成の指導を行う。</p> <p>15 カスタムドール（プレゼンテーション） 課題2「カスタムドール」作品発表と講評。 カスタムドールとオリジナルファイルを使用して 作品発表と講評を行う。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎C：課題1では、自由な発想の中から、オリジナルな考え方や自律性を高めることに応用できる。課題2では、課題を完成させることを通して、判断力や協調性、計画性を体験できる。</p> <p>◎E：もの作りを通して、素材の特徴や技術の知識を学ぶことにより、オリジナルな作品を表現・提案出来るようになる。また、インスタグラムなど、社会に向けて、感性を生かしたデザインの発信ができる。</p>

事前・事後学習	事前学習：デザインの生きた勉強は、実際に体験や観察をすることである。普段から好きなデザイン、気になるデザイン、美しいモノや色を見つけたら、ノートやスマートフォンなどの画像に採集して、たくさんのアイデアの引き出しを持つと良い。(45分) 事後学習：技法や技術の工程は復習やメモなどに残し、今後デザインを考えるプロセスの一助にすること。(45分)
指導方法	自由な発想を活かしながら演習が進められるように個別指導を行い、創造的視点の獲得を促す。個人のオリジナルな考え方の中から、作品が完成するまで積極的な指導を行う。 制作・研究遂行能力を高め、それらの伝達と共有能力を育成する。 作品制作に必要な技術や手法をわかりやすく解説したプリント、画像など、授業課題のイメージ伝達を行う予定である。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C:課題1は、オリジナリティーのある作品の完成度を評価する。課題2では、個人の表現力・技術力を尊重しながら、制作過程の貢献度及び授業態度、作品及び提出物の完成度を評価する。 E:自らの技能や表現力を生かした作品の完成度を評価する。また、アート・ファッションのデザインを考えるプロセスも評価の対象となる。 課題1作品30%、課題2作品30%、提出物20%、授業態度・貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリント資料を配布
参考書	
履修上の注意	デザインや構成などの指導は積極的に行うが、提出期限を過ぎた作品は基本的には受け付け無い。 宿題や提出物の自己管理をしっかりと行うこと。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子			
Subject Code：F23C24	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>刺繍とは専用の糸を使用し、布地あるいはその他の素材に装飾を施すハンドクラフト（手芸）である。実習では様々な刺し方で図案を表現するフランス刺繍から始め、数種類の刺繍ステッチで作品を製作する。刺繍の図案を考え、ステッチで作品の表現をするが、製作過程で糸の色遣いを考えながら作品を進め、表現していくことも刺繍の学びの一つである。</p> <p>（授業目標） ○D：刺繍のデザインや図案に適した基礎ステッチが理解できる。 ◎E：基礎ステッチを正しく刺す事ができ、作品の表現ができる。</p>		
授業計画	1	<p>刺繍の概要と種類（実習） 刺繍の知識とステッチの種類、バリエーションを知り、使用する布地の種類、糸の種類、デザインとしての図案の考え方やトレースの方法なども総合的に学び、刺繍への理解を深め、フランス刺繍の基礎となるステッチを実習する</p>	
	2	<p>基礎ステッチ（1）（実習） ランニングステッチ、バックステッチ、ストレートステッチなどを実習</p>	
	3	<p>基礎ステッチ（2）（実習） アウトラインステッチ、チェーンステッチなどを実習</p>	
	4	<p>基礎ステッチ（3）（実習） レイジーデイズステッチ、バリオンステッチなどを実習</p>	
	5	<p>基礎ステッチ（4）（実習） サテンステッチ、フレンチノットステッチなどを実習</p>	
	6	<p>基礎ステッチの応用 作品の製作（実習） 基礎ステッチ（1）～（4）で修得したステッチを応用し、トートバッグに刺繍のデザインを考え、のちに図案化する。図案をトレースし、どのステッチで刺繍のデザインを表現するかを検討して作品を製作、完成させる</p>	
	7	<p>基礎ステッチの応用 作品の製作（実習） 今までに学び実習したステッチを応用し、作品（トートバッグ）を製作</p>	
	8	<p>基礎ステッチの応用 作品の製作（実習） 今までに学び実習したステッチを応用し、作品（トートバッグ）を製作</p>	
	9	<p>基礎ステッチの応用 作品の製作（実習） 今までに学び実習したステッチを応用し、作品（トートバッグ）を製作</p>	
	10	<p>クロスステッチ（実習） クロスステッチの刺し方を学び、各自で飾りフレーム（内側の生地）に刺すクロスステッチのデザインを考え、図案化し、作品として製作、完成させる</p>	
	11	<p>クロスステッチ（実習） クロスステッチの技法で作品を製作</p>	
	12	<p>クロスステッチ（実習） クロスステッチの技法で作品を製作</p>	
	13	<p>ビーズワーク（実習） ビーズを使用し刺繍として表現する刺し方を学び、フランス刺繍の基礎ステッチも加え、各自のデザインを図案化し、作品としてブローチを製作する</p>	
	14	<p>ビーズワーク（実習） フランス刺繍のステッチとビーズワークで作品を製作</p>	
	15	<p>ビーズワーク（実習） フランス刺繍のステッチとビーズワークで作品を製作</p>	
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：刺繍のデザインに適したステッチを理解する。 ◎E：基礎ステッチの名称と刺し方を説明できる。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習：多くの作品に触れ、刺繍を理解すること。基礎ステッチの練習をしておく（20分）。 事後学習：授業終了後には実習したステッチの刺し方を復習し、作品の完成に努めること（25分）。</p>		
指導方法	<p>パワーポイント、サンプルを使用し、基礎ステッチそれぞれの刺し方、図案のトレースの方法を指導する。ステッチの刺し方は小グループに分かれ、実習指導をする。基礎ステッチを修得した後、それぞれのステッチを使用して作品を製作する。 フィードバックの仕方：①実習、②作品提出、③採点（評価）返却、④授業後に採点についての質疑対応</p>		

アセスメント・成績評価の方法・基準	D：それぞれのステッチの刺し方を正しく理解しているかを評価する。 E：作品の完成度を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布
参考書	
履修上の注意	作品は授業時間内での完成を目指す、提出期日までに間に合わなかった場合は、各自で時間外に実習を進めること。
アクティブ・ラーニング	実習
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
小椋啓司			
Subject Code：F23C25	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	リングやネックレス、ブレスレットなど、普段使いできるアクセサリの課題制作を行うことで、金属材料からつくる彫金技法での基礎的な制作技術を体験・学修する。また制作の過程で素材や流通の知識を学ぶ。基礎的なアクセサリの制作技術を理解した上で、様々なデザインや素材に触れ、自由な発想でオリジナルのアクセサリ制作を行う。講義全体の前半部分では基礎を学び、後半部分では応用としてオリジナリティある作品のデザイン、制作を行う。 (授業目標) ◎E：金属材料によるアクセサリ制作の基礎技法を理解し、応用してオリジナルデザインの制作ができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業概要・各課題の説明、工具の知識、評価方法の説明</p> <p>2 シンプルデザインのリング制作（実習：2～14回） 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作</p> <p>3 シンプルデザインのリング制作 基礎的な制作方法として、棒状の材料から指輪の制作</p> <p>4 ロストワックス技法による金属パーツの原型制作 ロストワックス技法の説明、デザイン、原型制作</p> <p>5 ワックス原型制作 デザイン、原型制作</p> <p>6 リング制作応用 ワイヤーを用いたオリジナルデザインリングの制作</p> <p>7 チャームアクセサリの制作 ロストワックス技法により鑄造された金属パーツのアクセサリへの組み立て</p> <p>8 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 デザインシート作成、素材集め など</p> <p>9 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 デザインシート作成、素材集め など</p> <p>10 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など</p> <p>11 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など</p> <p>12 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など</p> <p>13 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作 など</p> <p>14 オリジナルセットアクセサリの制作 2アイテム以上のアクセサリの制作 実制作、展示パッケージ、ディスプレイの制作 など</p> <p>15 作品講評（プレゼンテーション）（ICT：クリッカー） クリッカーを活用し、学生評価を加味したうえで選定した優秀作品制作者によるプレゼンテーション。 展示した作品をビデオでプロジェクターの投影し、デザインのポイントや作品のコンセプトなどを説明する。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：課題に沿った内容の基礎的なアクセサリ制作をすることができる。
事前・事後学習	事前学習：アクセサリ専門店や展示会などで実物に触れてみる。（30分） 雑誌やインターネットなどでアクセサリの多様なデザインを知る（30分） 事後学習：各課題に対する制作方法の手順について参考資料を見直し復習する。（30分）
指導方法	各課題の実習の際に、プロジェクターでの動画紹介や配布資料による説明を行う。 各課題終了時に完成した課題作品を提出してもらい評価をする。 フィードバックの仕方：課題制作の詳細については担当講師が制作実演、またサポート、デザインなどのアドバイスを行う。 オリジナル作品課題について、講師より作品への評価、アドバイスをコメント記載し、返却する。

アセスメント・成績評価の方法・基準	E：それぞれの提出課題と、オリジナリティを求めて授業へ取り組む姿勢を評価する。 課題提出80%、授業姿勢20%、
テキスト	なし プリント資料を配布
参考書	各ファッション雑誌、SNSなど
履修上の注意	細やかで地味な作業もある集中力のいる実習であることを理解したうえで受講すること。 積極的な好奇心と自由な発想でもって制作に取り組むこと。 薬品や火器、その他怪我をする可能性のある工具による作業があるので、十分に注意して作業に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	なし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
平林芳子			
Subject Code : F13C28			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	染色の基礎技法であるロウケツ染め、型染め、絞り染めの表現方法、素材との関係、工程について学ぶ。基本の染め方による試作を行なった後、各技法に適したデザインを考え染色作品を完成させる。染色の基礎技法を実習することにより、ファッションやインテリアにおけるテキスタイルデザインの特徴についての理解を深める。 (授業目標) ◎D：既存の染色作品に関心を持って知識を深め、技法や工程を理解した上で作品に活かすことができる。 ◎E：技法や素材、工程について理解した上で、その特徴を活かしたオリジナルのデザインによる染色作品を制作することができる。		
授業計画	1	ロウケツ染め (1) (実習：1～15回) 素材、技法、表現についての説明 ・ サンプル試作	
	2	ロウケツ染め (2) サンプル試作・デザインを考える	
	3	ロウケツ染め (3) ロウ置き (防染) ・ 反応染料による彩色	
	4	ロウケツ染め (4) 反応染料による彩色・脱ロウ処理・仕上げ	
	5	ロウケツ染め (5) 脱ロウ処理・仕上げ	
	6	型染め (1) 素材、技法、表現についての説明・サンプル試作	
	7	型染め (2) デザインを考える	
	8	型染め (3) 型紙を彫る 顔料による捺染	
	9	型染め (4) 顔料による捺染・仕上げ	
	10	絞り染め (1) 素材、技法、表現についての説明・サンプル試作	
	11	絞り染め (2) デザインを考える	
	12	絞り染め (3) 布を縫う	
	13	絞り染め (4) 縫った布を絞る	
	14	絞り染め (5) 天然染料、藍についての説明・藍による浸染	
	15	絞り染め (6) 絞った糸を解く・仕上げ・作品講評	
学習成果・到達目標・基準	◎D：既存の染色作品から興味あるデザインをセレクトして模倣することができる。 ◎E：基本的な技法による染色作品を制作することができる。		
事前・事後学習	事前学習：積極的に展覧会や美術館に行くなど、さまざまな商品、作品を見て見識を深めておくこと。(60分) 事後学習：授業で学んだ表現方法をもとにアイデアを進展させておくこと。また、技法や工程などをプリントで復習しておくこと。(30分)		
指導方法	実習作品の全体像を把握できるように、技法と表現について解説する。 課題毎にサンプルを試作し、理解度を高める。 参考作品を提示して具体的なデザインの考え方や作業工程、注意事項などを説明した上で実習を進める。 フィードバックの仕方：デザインアイデアのスケッチに対して技法に適したアドバイスをする。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：提出課題により、技法についての理解度を評価する。 E：提出課題の完成度を評価する。 提出課題90%、授業態度・貢献度10%		
テキスト	なし プリント資料を配布する		



参考書	なし
履修上の注意	探究心と興味を持って作品の制作に取り組むこと。 課題の作業工程を把握し、進行状況にも気を配りながら作品の完成度を高めること。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code：F14C30	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ファッション小売業において、良い商品、価値のある安さの提供は、どこの店でも当たり前であり、店の差別化の条件とはいえなくなっている。そのため、お客様に豊かな衣料サービスを提供できる販売スタッフが求められている。本講義では、ファッション販売に必要な接客技術や事務管理、商品知識、売場づくりの方法について解説する。また、ファッション小売業の現状と課題、進展についても取り上げて講義を行う。7月、12月に実施される「ファッション販売能力検定3級」の受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。</p> <p>(授業目標) ファッション業界で活躍できる人材として「ファッション販売能力検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：日々のニュース、店舗調査などからファッション小売業の現状と課題をあげ、解決方法を述べるができる。</p>		
授業計画	1	ファッションビジネスの知識 ファッション産業の分類、商品計画の流れについて	
	2	ファッション小売業の構造と特徴 ファッション小売業の業態、百貨店、専門店の特徴について	
	3	SPAとセレクトショップ 企画から販売方法、組織形態の違いについて	
	4	ファッション小売業のマーケティング戦略 セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニングの設定について	
	5	コンセプトの策定 トレンド情報の収集、シーズンコンセプト、スタイリングテーマについて	
	6	営業計画の策定 営業期、品揃え計画、販売促進計画、売場レイアウトについて	
	7	売場構成、商品陳列の基本知識 VMDにおける3つの手法、空間構成の種類、商品陳列の基本技術について	
	8	販売員の業務内容と基本マナー 開店から閉店までの基本的な業務内容、接客用語、電話対応、クレーム対応と処理について	
	9	購買心理の7段階 販売の流れと販売員の基本動作、コンサルティングセールスについて	
	10	顧客管理の基本知識 顧客満足経営の重要性、固定客づくりについて	
	11	売場における計数管理 予算比、前年比、客単価、値入高と粗利益、商品回転率について	
	12	ファッション商品の知識 アイテム・デザインによる分類、ディテール、シルエット&ラインについて	
	13	素材の知識 素材の種類、その長所と短所、柄について	
	14	サイズ・品質表示 サイズの読み方、組成表示、取扱表示、原産国表示、品質マーク表示について	
	15	競合店調査の方法 商品特性、商品構成、価格帯、売場づくり、客層、接客サービスについて	
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション販売員に必要な基礎知識である業務内容、商品知識、売場づくりの方法について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日々の新聞やニュース、店舗調査などからアパレル小売業の現状に触れる。分からない専門用語を調べてまとめておくこと（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュース、店舗調査内容をまとめる（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心掛けることが大切である。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、受講態度・貢献度20%、小テスト10%、課題10%		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	「ファッション販売3 ファッション販売能力検定試験3級公式テキスト」著者：大沼 淳 出版社：一般財団法人日本ファッション教育振興協会 「ファッション販売能力検定3級試験問題集」著者：財団法人日本ファッション教育振興協会 出版社：日本ファッション教育振興協会		

履修上の注意	「ファッション販売能力検定試験3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「服飾造形論」「ファッション素材論」を併せて受講することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code：F14C31		実務家教員による授業	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	マーケティングの基本理念は、消費者の利益を第一に考えた経営活動を行うことにある。その消費者のニーズに対応した商品を仕入れたり、つくらせたりする計画と管理の機能をマーチャダイジング（商品計画）とよぶ。本講義は、商品計画の業務内容である商品企画から商品の選定、仕入活動、在庫管理に至る一連の流れについて明らかにしながら、価格設定の考え方、利益の構造などについて解説していく。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：小売業における商品企画のしくみを理解し、現状と課題を述べるができる。		
授業計画	1	マーケティングとマーチャダイジングの違い メーカーと小売業における4Pの違いについて	
	2	小売業のマーケティング戦略 外部環境と内部資源の把握、標的市場と商圈の設定について	
	3	マーケティング・ミックスの構築 商品構成、商取引流通の設定、販売促進策について	
	4	顧客管理の基本的役割 顧客満足経営の基本知識、FSP（フリークエントショッパーズプログラム）について	
	5	売場の基本知識 ゾーニングの構築から売場レイアウトの設計について	
	6	マーチャダイジングの構成要素 商品計画から商品管理、5つの適正について	
	7	商品計画の意義およびその構造 具体的な内容と策定方法、品揃えの幅と奥行について	
	8	仕入計画の立て方 商品カテゴリー別の予算編成と留意点について	
	9	仕入方法と発注方法 大量仕入と当用仕入、定量発注法と定期発注法について	
	10	売価決定の要素 売価と原価と利益の関係、値入高と値入率について	
	11	利益の構造 商品ロス的基本的原因、粗利益高、粗利益率について	
	12	在庫管理の意義 過剰在庫の発生原因、金額および数量管理について	
	13	商品回転率と交差比率 商品回転率および日数の算出方法、貢献度分析手法について	
	14	POSシステム POSシステムのしくみ、販売データの活用方法について	
	15	戦略的な価格政策と心理的価格政策 端数価格、段階価格、慣習価格、名声価格、均一価格、ハイ・アンド・ロープライス、エブリデイロープライスについて	
学習成果・到達目標・基準	◎D：小売業における商品計画の流れを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新製品やヒット商品、ロングセラー商品に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。		
指導方法	教科書、プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、受講態度・貢献度20%、小テスト10%、課題10%		
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストI」日本商工会議所・全国商工会連合会編		
参考書	「商品戦略と診断」著者：大江 宏・村松 幸広・首藤 禎史 出版社：同友館		
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「販売と経営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除さ		

	れる。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code：F14C32		実務家教員による授業	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>小売業における販売管理とは、事務管理から人事管理、店舗管理まで多岐にわたる。本講義は、販売管理の基礎知識を学修し、販売に関わる事務管理や計数管理の必要性、照明や色彩技術を活用した売場演出の方法について解説していく。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。</p> <p>（授業目標） 流通業界におけるバイヤーや店長となる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を修得する。 ◎D：小売業経営に必要な人事管理、店舗管理の留意点、財務や法規の理解を深め、現状と課題を述べることができる。</p>		
授業計画	1	販売員の目的と役割 販売員と顧客の関係、クレームや返品への対応について	
	2	顧客の購買心理過程 顧客心理と接客販売技術について	
	3	小売業の販売業務 ワークスケジューリング、人時生産性について	
	4	商品陳列の基本知識 陳列器具と販売方法における基本陳列の種類について	
	5	売場演出の技術 店内照明の種類と役割、ディスプレイ効果を高める色彩の活用について	
	6	慶弔進物の基礎知識 包装の種類、和式進物包装について	
	7	金銭管理の基本知識 金券類の扱いと代金支払い方法の種類について	
	8	販売活動に関する法規 売買契約、割賦販売、訪問販売、通信販売に関する法規について	
	9	不当景品類の規制 総付景品、一般懸賞、共同懸賞の最高額および総額の制限について	
	10	不当表示の防止 規制の目的、商品名原材料、性能・品質、信用誤認の表示について	
	11	小売店経営における計数管理の必要性 売上・利益・原価の関係、値入高と粗利益高の違いについて	
	12	損益計算書の見方 4つの費用と5つの利益について	
	13	売買損益の計算法 売上高、売上原価、売上総利益について	
	14	商品の安全確保に関する法規 薬事法、PL法、JAS法、消費期限と賞味期限の違い、トレーサビリティについて	
	15	小売業におけるリスクマネジメント 万引き防止対策とセキュリティシステムについて	
学習成果・到達目標・基準	◎D：販売員に必要な接客技術や売場づくりの方法について説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で小売経営や販売に関するニュースを確認し、分からない専門用語を調べてまとめておく（90分）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（90分）。		
指導方法	教科書、プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることを心がけることが大切である。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度によって評価する。 定期試験60%、小テスト20%、受講態度・貢献度20%		
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅡ」日本商工会議所・全国商工会連合会編		
参考書	「営業管理実務」著者：営業管理研究会監修 出版社：産業能率大学出版部		
履修上の注意	「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す学生は、本科目と「消費と流通」「商品企画」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する		

	予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code：F24C31	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	現代の企業経営では、“マーケティングなくして経営なし”と言われるように、マーケティングは不可欠な位置づけにある。企業のマネジメントを遂行するためには、マーケティング機能をいかに統合的に組み合わせて展開するかが課題である。本講義では、企業経営におけるマーケティングの役割やポイントについて理解を深める。 (授業目標) 企業経営や組織運営に不可欠なマーケティングの役割を理解し、自分の見解や主張をまとめることができる。 ◎D：理論にもとづいて、企業や組織が取り組むマーケティング戦略の事例について考察し、現状と課題を述べることができる。		
授業計画	1	マーケティングとは マーケティングの歴史の変遷、現代企業におけるマーケティングの役割について	
	2	顧客価値と顧客満足 顧客が得られるベネフィットとコストとの関係について	
	3	マーケティング環境の分析 SWOT分析とポーターの5つの競争要因について	
	4	マーケティング・ミックスの重要性 STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）戦略、ペルソナ分析について	
	5	マーケティング・リサーチ 定性と定量調査、アンケート調査、観察調査、行動観察、インタビュー調査について	
	6	ブランド戦略 ブランド・エクイティ、ブランド要素、ブランド拡張について	
	7	製品戦略 製品ライフサイクル理論とイノベーション普及理論について	
	8	価格戦略 上澄み吸収価格と市場浸透価格、消費者心理を考慮した価格政策、参照価格について	
	9	流通戦略 直接流通と間接流通チャネルの特徴、オムニチャネル戦略の課題について	
	10	販売促進戦略 プッシュ戦略とプル戦略の違い、値引きのネガティブ効果、景品表示法について	
	11	マーケティング・コミュニケーション 広告の変遷、消費者反応プロセス、コミュニケーションのノイズについて	
	12	サービス・マーケティング サービスの特性（無形性、同時性、消滅性など）、優れたサービスの定義（SERVQUAL）について	
	13	リレーションシップ・マーケティング パレートの法則、CRM（カスタマーリレーションシップマネジメント）について	
	14	経験価値マーケティング SENSE（感覚）、FEEL（喜怒哀楽）、THINK（思考）、ACT（行動）、RELATE（交流）について	
	15	ソーシャル・マーケティング 企業の社会的責任（CSR）、コズ・リレーテッド・マーケティングについて	
学習成果・到達目標・基準	◎D：マーケティングの基礎理論および用語を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：日々のニュースから企業が取り組むマーケティング戦略について確認しておくこと（90分）。 事後学習：興味ある新聞記事やニュース内容をまとめておくこと（90分）。		
指導方法	プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で授業を行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がかかることが大切である。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験70%、受講態度・貢献度20%、課題10%		
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	「基礎コース マーケティング」 著者：小原 博 出版社：新世社		
履修上の注意	日頃からニュースなどで企業が取り組むマーケティング戦略を確認しておくことで、マーケティングの基本的な発想法を単なる知識としてではなく、感覚として身につけることを望む。		
アクティブ・ラー	特になし		



ニング	
ICT・オープン エデュケーション の活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code：F24C32	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッションの「買い方」や「選び方」は、この10年間で大きく変容し多様化した。「服」は脇役となり、日本のファッションビジネスはいま大きな壁にぶつかっている。本講義は、ファッションビジネスで多面的視点からより豊かな衣生活を提案できるようになることを目的に、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITAの本社および店舗で働く社員を想定してすすめる。事例としてラグジュアリーブランドやファストファッションブランドを取り上げ、消費者を惹きつけるブランドのコミュニケーション戦略について概説し、ファッションをあらゆる視点から考察する。さらに、ファッション業界でのあらゆる職種に役立つ20世紀のアート活動やカルチャー等の基礎知識も取り上げる。 (授業目標) ◎D：ファッション業界で必要となる文化・アートの知識を理解する。
授業計画	<p>1 MARIE de TOITAの組織 ファッション産業の特性と現状 ファッションとは、モードとは、コミュニケーションとは</p> <p>2 MARIE de TOITAのブランドビジネス（1） モードの誕生（パリモードとウォルト） 日本のファッション産業の現状</p> <p>3 MARIE de TOITAのブランドビジネス（2） モードの成長（ファッションビジネスとポール・ポワレ） デジタルとファッション</p> <p>4 MARIE de TOITAのブランドビジネス（3） モードの成長（ココ・シャネルとシャネルN05） 香水ビジネスとバッグ</p> <p>5 MARIE de TOITAのブランドビジネス（4） ファッションとアート活動（シュルレアリスムとスキヤパレリ） ハリウッドスターとラグジュアリーブランド</p> <p>6 MARIE de TOITAのブランドビジネス（5） モードの発展（ライセンスビジネスとディオール、サンローラン） ファッション誌の変遷</p> <p>7 MARIE de TOITAのブランド戦略（1） ファッションとアート活動（ポップアートとサンローラン） アイドル産業から学ぶ</p> <p>8 MARIE de TOITAのブランド戦略（2） モードの発展（日本人ファッションデザイナーBIG3） 西洋と日本の服作り（わびとさび）</p> <p>9 MARIE de TOITAのブランド戦略（3） モードの確立（垂直統合ビジネスとルイ・ヴィトン） 米国のファッションビジネス</p> <p>10 MARIE de TOITAのブランド戦略（4） モードのグローバルゼーション（ファストファッションビジネス） ZARA、ユニクロ、H&amp;M</p> <p>11 MARIE de TOITAのコミュニケーション戦略（1） ラグジュアリーブランドのコミュニケーション戦略（シャネルとカール・ラガーフェルド） ファッションテックとデジタル戦略</p> <p>12 MARIE de TOITAのコミュニケーション戦略（2） ラグジュアリーブランドのコミュニケーション戦略（グッチとケリング） 伝説のファッションイニシタ</p> <p>13 MARIE de TOITAのコミュニケーション戦略（3） ラグジュアリーブランドのコミュニケーション戦略（ルイ・ヴィトンとLVMH） スター建築家、ファッションフォトグラファー</p> <p>14 MARIE de TOITAのコミュニケーション戦略（4） ラグジュアリーブランドのコミュニケーション戦略（エルメス） ラグジュアリーブランドのポイント</p> <p>15 MARIE de TOITAのコミュニケーション戦略（5） ラグジュアリーブランドのコミュニケーション戦略（ディオール）</p>
学習成果・到達目標・基準	◎D：ファッション業界に影響を及ぼした文化・アート活動を説明できる。
事前・事後学習	事前学習：日本経済新聞、日経MJ、WWD、アエラそしてビジネスサイトに目をおし、最新のビジネス情報を得る。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておくこと（90分）。 事後学習：授業で得た知識やスキルを深めるため図書館やインターネット等で調べる（90分）。
指導方法	パワーポイントやビデオ・映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、およびレポート提出がある。

アセスメント・成績評価の方法・基準	D：毎回のリアクションペーパー・定期試験を評価する 定期試験 60%、課題 25%、授業態度・貢献度 15%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示する
参考書	授業内で指示する。
履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどでファッションビジネスに関する記事をチェックすること。 映画、舞台芸術、美術館へ行き感性を養うこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F14C35			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザインやデジタル制作の技術は専門家の限られた仕事だけでなく、教育や日々の暮らしの中でも使われるようになってきた。本講座ではそれらを基礎から段階的に修得し、学業や仕事で継続的に活用および実践することを目指す。 「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」を用いてイラストや写真の基礎的な加工方法を修得する。 (授業目標) ◎E：デジタルの制作技術を活用し、オリジナルのグラフィック作品が作成できる。		
授業計画	1	デジタルツールを活用した制作方法 PC基本操作 制作用のツール・パソコンの使い方、インターネットでの資料収集の方法/著作権について	
	2	画像の加工方法（1）Adobe Photoshop Adobe Photoshopを用いた写真などの画像のトリミングについて	
	3	画像の加工方法（2）Adobe Photoshop Adobe Photoshopの色調補正などを使用した色彩表現の応用について	
	4	画像の加工方法（3）Adobe Photoshop アナログで描いた線画のイラストをもとにした、Photoshopを用いた加工方法について	
	5	ロゴ、フォント制作（1）Adobe Illustrator Adobe Illustratorの図形ツールを使用したロゴ制作について	
	6	ロゴ、フォント制作（2）Adobe Illustrator Adobe Illustratorのペンツールを使用した線画の制作について	
	7	ロゴ、フォント制作（3）Adobe Illustrator Adobe Illustratorによる、オリジナルのフォントの制作について	
	8	ポスター制作（1）Adobe Photoshop、Adobe Illustrator Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを併用した制作について 構成決め	
	9	ポスター制作（2）Adobe Photoshop、Adobe Illustrator Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを併用した制作について 作品完成	
	10	参考作品模写（1）Adobe Photoshop、Adobe Illustrator Adobe Illustratorを中心とした参考作品の模写による、これまでの技術の確認	
	11	参考作品模写（2）Adobe Photoshop、Adobe Illustrator Adobe Photoshopを中心とした参考作品の模写による、これまでの技術の確認	
	12	オリジナルポスター制作（1） Adobe Photoshop、Adobe Illustrator テーマ、構成決め	
	13	オリジナルポスター制作（2）Adobe Photoshop、Adobe Illustrator 写真の加工、フォント、ロゴ等の素材作成	
	14	オリジナルポスター制作（3）Adobe Photoshop、Adobe Illustrator 作品完成	
	15	プレゼンテーション：講評 オリジナルポスターのプレゼンテーションと講評	
学習成果・到達目標・基準	◎E：「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」の基本的な技術を用いて画像の加工ができる。		
事前・事後学習	事前学習：雑誌やWebサイトにて、身の回りの広告物をよく観察する(30分) 事後学習：授業で学修した知識や技能が、どのようにデザインに応用できるか考えながら、操作の復習を行う(30分)		
指導方法	プロジェクターにて制作の過程を表示し、学生と同時の進行にて指導を行う。 操作に遅れの出る学生の出ないように、質問を受け付ける時間を設け、作業を進めていく。 フィードバックの仕方：各学生からのデザインに関する質問については応用技術の指導を行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題提出物、受講態度及び授業への貢献度を評価する。 課題提出物70%、授業態度・貢献度30%		
テキスト	オンライン教材及びプリントを提供する。		
参考書	Webサイト：伝わるデザイン <a href="http://tsutawarudesign.com/">http://tsutawarudesign.com/</a>		

	<p>書籍：伝わるデザインの基本 増補改訂版 (2016/8/5)          著者：高橋 佑磨，片山 なつ 出版社：技術評論社</p> <p>書籍：Webポートフォリオ・デザインブック SNS時代のクリエイティブの見せ方・伝え方 (2018/2/27)          著者：小島 幸代，草野 恵子，北川 貴清 出版社：エムディエヌコーポレーション</p>
履修上の注意	デジタル技術はあくまでも表現の手段として活用するので、専門的なPCの知識や画力・デザイン経験は必要ない。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code：F24C35	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ICTの進化とスマートフォンの普及により、表現の進化が促され、ビジネスパーソンにとってデジタルリテラシーは必須のものとなっている。本授業は、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITAのデジタル部門の仕事を想定してすすめる。ファッション業界の仕事に必要なデジタル関連の情報や知識を概説し、仕事に役立つテクニックを磨くために「Keynote」「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」の基本操作を身につける。さらに、デジタルでの課題制作をとおして表現力や独創性を高める。 (授業目標) ◎E：Macintoshの操作方法を理解し、「Keynote」「Adobe Photoshop」「Adobe Illustrator」の基本操作を身につける。		
授業計画	1	Macintoshの使い方（実習） Macintosh (MacBook Pro) の基本操作とスマートフォンの設定について	
	2	Keynoteの基本操作（1）（実習） Keynoteを使用した個人ワークと写真撮影について	
	3	Keynoteの基本操作（2）（実習） Keynoteを使用した個人ワークとInstagramアプリでの画像加工	
	4	Adobe Photoshopの基本操作（1）（実習） Adobe Photoshopを使用した個人ワーク	
	5	Adobe Photoshopの基本操作（2）（実習） Adobe Photoshopを使用した個人ワーク	
	6	Adobe Photoshopの課題制作（1）（実習） Adobe Photoshopを使用したMARIE de TOITAのポスター制作	
	7	Adobe Photoshopの課題制作（2）（実習） Adobe Photoshopを使用したMARIE de TOITAのポスター制作	
	8	プレゼンテーション（個人課題作品のプレゼンテーション） コンテスト形式での課題作品のプレゼンテーション	
	9	Adobe Illustratorの基本操作（1）（実習） Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	10	Adobe Illustratorの基本操作（2）（実習） Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	11	Adobe Illustratorの基本操作（3）（実習） Adobe Illustratorを使用した個人ワーク	
	12	グループでの課題制作（1）（グループワーク） Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワークおよびグループワーク	
	13	グループでの課題制作（2）（グループワーク） Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用した個人ワークおよびグループワーク	
	14	プレゼンテーション（1）（グループによる課題作品のプレゼンテーション） 各グループによるコンテスト形式での作品発表	
	15	プレゼンテーション（2）（グループによる課題作品のプレゼンテーション） 各グループによるコンテスト形式での作品発表	
学習成果・到達目標・基準	◎E：Macintoshの基本的な操作ができる。		
事前・事後学習	事前学習：VOGUE、Harper's BAZAAR、ELLE DECOなどのファッション誌およびインテリア誌のレイアウトを中心にデザインについての知識を深めておく（20分）。 事後学習：あらゆるメディアをビジュアルの視点から比較検討する（25分）。		
指導方法	Macintosh (MacBook Pro) を操作する演習が中心で、Keynote、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorのソフトを使いながら、使用方法や活用法を指導する。パワーポイント、映像を使つての講義や、課題制作を行う。後半部からは、チームで作品を制作するグループワークをとりいれプレゼンテーションを行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題作品制作のオリジナリティとこだわりを評価する 課題作品 40%、チーム課題作品 40%、授業への貢献度 20%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示。		
参考書	授業内で指示する		
履修上の注意	授業では、自身のスマートフォンを活用する。		

	また毎日、あらゆるメディアでデジタル関連の記事をチェックすること。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習</li> <li>・グループワーク</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code：F34C36		実務家教員による授業	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デジタルテクノロジーの急速な進化により、今や動画は、個人が気軽に発信し視聴できるものとなった。本授業は、本学オリジナルブランドであるMARIE de TOITAのデジタル部門の仕事を想定してすすめる。インターネットを通じたコミュニケーション関連の情報や知識を概説し、仕事に役立つ動画制作スキルを磨くために「iMovie」「Adobe After Effects」「Adobe Premiere Pro」の基本操作を身につける。さらに、デジタルでの課題制作をとおして表現力や独創性を高める。 (授業目標) ◎E：Macintoshの操作方法を理解し、「iMovie」「Adobe After Effects」「Adobe Premiere Pro」を使用した動画作成ができる。		
授業計画	1	Macintoshの使い方 Macintosh (MacBook Pro) の基本操作	
	2	iMovieの基本操作(1) (実習) iMovieを使用したスライドショー作成	
	3	iMovieの基本操作(2) (実習) iMovieとKeynoteを使用した動画作成	
	4	iMovieの基本操作(3) (実習) iMovieとKeynoteを使用した予告編作成	
	5	iMovieの課題制作(実習) iMovieとKeynoteを使用したMARIE de TOIOTAの動画制作	
	6	プレゼンテーション(個人課題作品のプレゼンテーション) コンテスト形式での課題作品のプレゼンテーション	
	7	Adobe After Effectsの基本操作(1) (実習) テキストアニメーション制作	
	8	Adobe After Effectsの基本操作(2) (実習) テキストアニメーション制作	
	9	Adobe Premiere Proの基本操作(1) (実習) Adobe Premiere Proを使用した動画編集	
	10	Adobe Premiere Proの基本操作(2) (実習) Adobe Premiere Proを使用した動画編集	
	11	Adobe Premiere Proの基本操作(3) (実習) Adobe Premiere Proを使用した動画編集	
	12	MARIE de TOITAの動画制作(1) (グループワーク) iMovie、Adobe After Effects、Adobe Premiere Proを使用したグループワーク	
	13	MARIE de TOITAの動画制作(2) (グループワーク) iMovie、Adobe After Effects、Adobe Premiere Proを使用したグループワーク	
	14	MARIE de TOITAの動画制作(3) (グループワーク) iMovie、Adobe After Effects、Adobe Premiere Proを使用したグループワーク	
	15	プレゼンテーション(グループによるプレゼンテーション) 各グループによるコンテスト形式での作品発表	
学習成果・到達目標・基準	◎E：「iMovie」「Adobe After Effects」「Adobe Premiere Pro」の基本的な操作ができる。		
事前・事後学習	事前学習：VOGUE、Harper's BAZAAR、ELLE DECOなどのファッション誌およびインテリア誌のレイアウトを中心にデザインについての知識を深めておく(20分)。 事後学習：あらゆるメディアをビジュアルの視点から比較検討する(25分)。		
指導方法	Macintosh (MacBook Pro) を操作する演習が中心で、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、iMovieのソフトを使いながら、使用方法や活用法を指導する。パワーポイント、映像を使つての講義や、課題制作を行う。後半部からは、チームで作品を制作するグループワークをとりいれプレゼンテーションを行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題作品制作のオリジナリティとこだわりを評価する 課題作品 40%、チーム課題作品 40%、授業への貢献度 20%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示。		
参考書	授業内で指示する		
履修上の注意	授業では、自身のスマートフォンを活用する。		



	毎日、あらゆるメディアでデジタル関連の記事をチェックすること。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・グループワーク</li> </ul>
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
佐野みゆき			
Subject Code : F15C39			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	漠然としたウエディング業界について、深く理解することができるようになる、ウエディング業界のナビゲーター、案内役としての位置づけの授業。ウエディングの仕事に携わるために必要な仕事の哲学や、ウエディング独特のホスピタリティなどの基本的姿勢、仕事に欠かせない共感力コミュニケーション、および業界のしくみ、業種や職種など、最新の情報を学ぶことができる。リアルな現場で働くプロフェッショナルも講師として迎え、ウエディング業界を将来の就職の選択肢の一つとして捉えるための、客観的な判断ができるようになる。 (授業目標) ○C：ウエディングの仕事と役割から適性を判断し、自己のキャリアデザインに結びつけられる。 ◎D：ウエディングビジネス業界についての幅広い知識を身に付け、共感力コミュニケーション、ウエディングホスピタリティの考え方を理解する。
授業計画	<p>1 ウエディング業界に求められるホスピタリティ ウエディングビジネスに必要なホスピタリティの理論と姿勢をウエディングの視点から学ぶ</p> <p>2 ウエディングビジネスに必要な共感力コミュニケーション 人にしかできない仕事であるウエディングの仕事に欠かせない共感力コミュニケーションについて学ぶ</p> <p>3 ウエディング・マーケットの現状と未来 ウエディングビジネスが対象とする『結婚適齢層』について学ぶ また、今後のウエディングビジネスについてデータを元に予測する</p> <p>4 ウエディングビジネスの歴史 第二次世界大戦後からを中心にその歴史を学ぶ</p> <p>5 ウエディングビジネスの種別 会場編 ハードを中心とした会場ビジネスについて深く知る</p> <p>6 現場から見るウエディング会場の現状(ゲスト講師・衣川雅代氏) ゲストハウスを事例にした、会場ビジネスの現状を学ぶ 同時にウエディングビジネスの中心的な職業であるウエディングプランナーという仕事についてリアルな現状を知る</p> <p>7 ウエディングビジネスの種別 衣裳編 ウエディング業界で大きな役割を担う婚礼衣装業について詳しい知識を得る 同時にドレススタイリストという職業の魅力や特徴を知る</p> <p>8 現場から見る婚礼衣装業(ゲスト講師・梶丸三屋 頼金氏) 前回の講義で勉強した衣裳会社のビジネスを現場の視点でさらに深く理解する</p> <p>9 花嫁のためのホスピタリティを学ぶ(ゲスト講師・宝田ひろみ氏) 花嫁の美しさに責任を持って仕事をするとはどのような事かを、ドレスのアンダーウェアのコーディネーターの視点から学ぶ</p> <p>10 ウエディングビジネスの種別 集客業 ウエディングビジネスの要ともいえる集客ビジネスについて深く知る</p> <p>11 ウエディングビジネスの種別 宴会サービス編 ウエディングの現場オペレーションの花形職業であるの中心である宴会キャプテンの仕事について学ぶ</p> <p>12 ウエディングビジネスの種別 写真、映像編 女性に人気のフォトグラファー、ビデオグラファーについて仕事について深く知る</p> <p>13 ウエディングビジネスの種別 ヘアメイク編 花嫁ビューティの要、ヘアメイクやサロンワークについて深く知る</p> <p>14 ウエディングビジネスの種別 その他の業種 ジュエリー、フロリスト、S&amp;Lプランナー、司会者など、周辺業務について深い知識を得る</p> <p>15 ウエディングビジネスのキャリアデザイン 自分がウエディング業界に進む場合のキャリアデザインを行う</p>
学習成果・到達目標・基準	C○：ウエディングの仕事と役割を理解し、自己のキャリアデザインの参考にすることができる D◎：ウエディングビジネスの種別を説明することができる
事前・事後学習	事前学習：授業内で興味を持ったビジネス種別や企業についてWEBなどで調べてみること。(90分) 事後学習：授業内での未知のワードやウエディングビジネスの種別について、まとめのノートを作成する。(90分)
指導方法	基本は座学形式。最新の正しい情報を提供しつつ、可能な限り具体的な企業名、商品名、企画名などを紹介し正確な業界の姿を伝える。なお、ゲスト講師の授業回では、ゲスト講師の所属する企業を事前調査させ、授業内質問コーナーを設け、エキサイティングな時間とする予定である。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：レポートや発言が授業で知り得た知見に基づいたものであるか評価する。 D：授業内の質問シート、お礼状、テキストのリーディングシート、3種別の提出物等の出来映えで評価する。 授業への貢献度20% 質問シート10% お礼状10% リーディングシート10% 定期試験50%

テキスト	究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト(スタンダード) BIA公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会 ブライダルのお仕事 プリント配布 テキスト『共感力の鍛え方』を精読するためのリーディングワークシート ウエディング業界基本用語クエスチョンシート 業種特性比較一覧表
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングセレモニー」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 ブライダルコーディネーター技能検定要件科目
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
Subject Code：F25C40	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	我が国における結婚式という儀式の意味を正しく理解し、それを通じて広く人生儀礼の重要性について気づきを得る。模擬結婚式の企画と実施を学生チームで行うことから、チーム内のコミュニケーション能力を磨き、結婚式に携わる仕事の楽しさと責任を経験し、ウエディングに求められる実践的な能力を修得する。 (授業目標) ◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って最後までチームでやり遂げることができる。 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングすることができる。		
授業計画	1	ウエディングセレモニーに求められるホスピタリティ ウエディングセレモニーに関わる上で必要とされるホスピタリティの理論と姿勢	
	2	結婚式の意味と意義 何故結婚式が必要なのか？その大切さを人生儀礼の視点から学ぶ	
	3	結婚式の歴史とハード 結婚式のスタイルの変遷と結婚式が行われる舞台の種類と特徴を学ぶ	
	4	キリスト教式の結婚式 ウエディングビジネスに必要なキリスト教の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	5	神前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な神道の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	6	人前式の結婚式 ウエディングビジネスに必要な人前式の知識とセレモニーの進行を学ぶ	
	7	人前式の企画手法 人前式を企画する企画理論を学び、事例を通じてより理解を深める 学んだ企画理論をもとにケーススタディとして人前式の進行を考える	
	8	コンセプト立案 グループワーク 1 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) 具体的なカップル像をケーススタディとし、コンセプトを創る	
	9	進行の決定 グループワーク 2 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPより拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る (音楽演出手法を学ぶ)	
	10	進行の決定 グループワーク 3 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を創る	
	11	進行の決定/ドレスとその他ウエディングビューティ グループワーク 4 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン、HPよりアイデア拾い出し) コンセプトに基づいた進行を作る コンセプトに基づいた花嫁、花婿、その他全員のビューティを企画する	
	12	進行の確認とリハーサル グループワーク 5 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 進行を再確認し、『場当たり』をする	
	13	進行の確認とリハーサル グループワーク 6 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする	
	14	進行の確認とリハーサル グループワーク 7 (ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習) (スマートフォン：リハーサル撮影、チーム内検証) 最終進行表に基づいてリハーサルをする	
	15	模擬結婚式 (夏期休暇中) ゲスト講師：赤星講師・鈴木講師) (グループワーク、実習、プレゼンテーション) (スマートフォン：リハーサル・本番撮影、チーム内検証) 会場入り→準備→リハーサル→本番→引き上げまでを実施	
学習成果・到達目標・基準	◎A：模擬結婚式を責任感を持って実施することができる。 ○E：ウエディングセレモニーの進行に人前式の3つの柱を正しく組み込むことができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業毎にアイデアが必要になるため、メモを書き留めておくなどの準備をする。(30分) 事後学習：模擬結婚式の実施に必要な知識を正しく理解し、ノートに図示する。(60分)		
指導方法	第1回目から第7回目までは知識の修得が中心で、パワーポイントを使った講義形式。 また、毎回穴埋め式のオリジナルプリントを用い、ノートがもう一つの教材になるような仕組みとする。画像、映像などビジュアルツールを豊富に使用し、また具体的な事例も挙げ、興味を持って授業に臨める環境をつくる。		

	第8回目から第12回目までは、グループワークとなるため、毎回の授業のテーマや着地点などが明確になるように、オリジナルワークシートを活用する。 フィードバックの方法：ワークシートにより担当教員と双方向コミュニケーションをとることが可能となり、実習に対する不安や悩みの解消につなげる。なお、これにより、授業の最後に目標とした作業が完了しているかどうかを確認可能となり、次回授業までの課題が明確になる。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎A：模擬結婚式を主体性と協調性と責任感を持って実施しているかの観点 ○E：自由な発想に富んだウエディングセレモニーをプランニングできているかの観点 A：第2回から第7回までの授業内で行う前回授業についてのミニテスト 模擬結婚式準備貢献度  模擬結婚式の完成度20% 模擬結婚式準備貢献度20% 模擬結婚式実施貢献度20% 振り返りシート20% ミニテスト20%
テキスト	究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
参考書	
履修上の注意	夏のオープンキャンパスにて模擬結婚式の実施を予定 ウエディングの知識をさらに高めるため、「ウエディング ナビゲーション」、「ウエディングビューティデザイン」の履修が望ましい。 ブライダルコーディネーター技能検定要件科目
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
佐野みゆき			
Subject Code : F15C41			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティデザインの手法を学ぶ。各学生グループが、ウエディングアクセサリーの企画・デザインを行うことを通じて、実際の商品としてできあがるまでを学習する。また、同時に各ドレスショップ企業の取組をドレスコーディネートの視点から学習し、ウエディングビューティデザインのトレンドを探る。 (授業目標)花嫁心理についても学び、デリケートな花嫁との接客力も身に付ける。 ○D：ウエディングドレス、ヘアメイク、フラワー、ジュエリーなど企業研究を通じてウエディングビューティビジネスに関わる基本的知識を身に付ける。 ◎E：マーケットに合致したコンセプトづくりから具体的なウエディングアクセサリーのデザイン企画提案ができる。</p>
授業計画	<p>1 ウエディングビューティに必要なホスピタリティ (クリッカー・意識調査) ウエディングビューティに関わるスタッフが持つべきホスピタリティの理論と姿勢 および共感力コミュニケーションを駆使した花嫁心理の理解とカウンセリング手法</p> <p>2 ウエディングドレスアワードの制度化 (グループワーク) (クリッカー：意識調査) ドレスアワードの選考基準、および企業研究の手法と発表形態を理解する</p> <p>3 婚礼衣装の基礎知識 (クリッカー：意識調査) 国内外の婚礼衣装の歴史と衣装の基礎知識を学ぶ。また、コーディネート手法についても触れ、ウエディング小物デザイン実習の告知をする</p> <p>4 招待客の装い (クリッカー：意識調査) ウエディングゲストの衣装の正しいマナー、知識を得る</p> <p>5 トータルウエディングビューティ (クリッカー：意識調査) 花嫁ビューティをトータルに提案する手法を学ぶ(プライズカルテの活用)小物デザインワーク?</p> <p>6 ウエディングドレスの種類と選び方 (クリッカー：意識調査) ウエディングドレスのディテールの名称やデザインの種類とパーソナルカラーとパーソナルスタイルに基づいたドレス選びの手法小物デザインワーク</p> <p>7 ウエディングのヘアメイクとネイル (クリッカー：意識調査) ウエディング特有のヘアメイクの考え方とその手法と手法小物デザインワーク</p> <p>8 ドレス企業研究① (グループワーク) 市場に支持されているドレス企業10社を発表し、研究発表の担当グループを決める また、プレゼンテーションのデモを見て、プレゼンテーションのフォーマットの使い方について理解する 小物デザインワークの共有後、クリエイターに発注する</p> <p>9 ドレス企業研究② (クリッカー：意識調査) グループごとに企業研究のプレゼンテーションの準備をする また、プレゼンテーションの基本テクニックを学ぶ(立ち方、話し方など)</p> <p>10 ドレス企業研究③ (グループワーク) (クリッカー：意識調査) 各グループごとに企業研究準備をする また、プレゼンテーションのオープニングパートのロールプレイングをする 第15回に開催するミニドレスショーの流れを知る</p> <p>11 ドレス企業プレゼンテーション① (グループワーク) (クリッカー：意識調査) 企業研究をした内容をグループごとに発表する 見学者は、フォーマットにそって企業とプレゼンテーションについて評価する ミニドレスショーの担当を決める</p> <p>12 ドレス企業プレゼンテーション② (グループワーク、プレゼンテーション) (クリッカー：意識調査) 企業研究をした内容をグループごとに発表する 見学者は、フォーマットにそって企業とプレゼンテーションについて評価する 小物デザインの作品を手にし、それに合わせたヘアメイクをデザインする またショーの構成(3分間)を考える</p> <p>13 ドレス企業プレゼンテーション③ (グループワーク、プレゼンテーション) (クリッカー：意識調査) 企業研究をした内容をグループごとに発表する 見学者は、フォーマットにそって企業とプレゼンテーションについて評価する ミニドレスショーの台本制作とプレリハーサルを行う</p> <p>14 ドレス企業アワードの決定 (グループワーク) (クリッカー・意識調査) 全企業のプレゼンテーションの内容をレビューした後、最優秀企業の投票を行う (同時に最優秀プレゼンテーション賞も確定) 見学者は、フォーマットにそって企業とプレゼンテーションについて評価する ミニドレスショーのリハーサルを行う</p> <p>15 ドレス企業アワードの発表とミニドレスショー ドレス企業アワードの獲得グループとプレゼンテーション賞獲得のグループのプレゼンテーションを行う</p>

	同時にドレスコーディネートのミニショウも行う
学習成果・到達目標・基準	○D：洋装、和装、ヘアメイク、ネイル、エステティック、ブーケなどウエディングに関するトータルビューティについて説明できる。 ウエディング企業をリサーチする視点を持てる。 ◎E：ウエディングに相応しいビューティアクセサリーのデザインをすることができる。
事前・事後学習	事前学習：授業で紹介されたブランドや企業について、ウェブや雑誌等で調査する。(30分) 事後学習：授業ノートをまとめ、カウンセリングのロールプレイングの練習をする。(60分)
指導方法	クリッカーを使って学生の意識や理解を確認しながらすすめる。ビジュアルが大切な講義なので、画像や映像を豊富に使用。毎回知識についてのミニテストを実施。第7回から第15回は実習形式。トータルビューティの提案のためのブライズカルテを使用する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：新郎新婦の衣裳、およびウエディングコスチューム企業についての知識を持っているか。 E：ウエディング小物のデザインの精度とコンセプトとの整合性を評価する。 授業への貢献度30%、プレゼンテーション30%、小物デザイン30%、ミニテスト10%
テキスト	・究極のホスピタリティを実現する「共感力」の鍛え方 安東徳子著 ・ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会参考書 ・プリント配布 ブライズカルテ、企業研究シート、 ・パワーポイントフォーマット配布 プレゼンテーションのプロセス
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、1年次の「ウエディングナビゲーション」「ウエディングセレモニー」を履修することが望ましい。なお、ウエディングの接客についての知識は、アパレルをはじめあらゆる接客業に役立つものである。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
鈴木はるみ			
Subject Code : F25C40			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングプランニングに必要な①傾聴、②企画、③提案を基本にした23段階の理論（23-Step）を学び、あらゆるカップルに対し、コンセプトualウエディングをプランニングする手法を学ぶ。 (授業目標)コンセプトメイクの手法を修得する。後半のケーススタディを通じて、ウエディングをはじめとするイベントプランニングの具体像を理解する。 ◎C：①傾聴、②立案、③提案の順序に沿ってコンセプトを導き出し、ウエディングのプランニングができる。 ○D：ウエディングのプランニングの23段階の理論（23-Step）を正しく説明できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プランニングとは？（クリッカー：理解の確認） 演出の基本的概念と演出に使われる用語の意味を理解する。</li> <li>2. プランニングの23-stepメソッド（クリッカー：理解の確認） 演出のための23段階の理論（23-Step）にわたるメソッドのしくみを理解する。</li> <li>3. コンセプトメイク1（クリッカー・理解の確認） コンセプトの概念とコンセプトメイクの手法を学ぶ。</li> <li>4. コンセプトメイク2（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） 事例に沿ってコンセプトメイクについての理解を深める。</li> <li>5. ログラインとテーマ（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ログラインとテーマの概念学び、事例分析をする。</li> <li>6. コンセプトストーリーメイク（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） コンセプトストーリーの概念を理解し、コンセプトメイクの全体像を把握する。</li> <li>7. アイテムへの落とし込み（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） コンセプトを各アイテムに落とし込む手法を学ぶ。</li> <li>8. プランニングに必要なアウトプットフォーマット（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） 演出の現場で使われるフォーマットの種類と使い方を学ぶ。</li> <li>9. レイアウト手法（クリッカー：理解の確認）（実習） レイアウトの基本とフォーマットへの落とし込み手法を学ぶ。</li> <li>10. スクリプトの書き方（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） アイテムの選定、レイアウトの確定に沿ったスクリプトの書き方を学ぶ。</li> <li>11. 音楽・照明・映像の演出手法（クリッカー：理解の確認） 音楽、照明、映像という時間軸演出の手法を演出機器の知識とともに学ぶ。</li> <li>12. ケーススタディ①（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ヒアリングデータ1を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを考えてみる。</li> <li>13. ケーススタディ①（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ヒアリングデータ1を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを発表する。</li> <li>14. ケーススタディ②（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習） ヒアリングデータ2を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを考えてみる。</li> <li>15. ケーススタディ②（クリッカー：理解の確認）（グループワーク、実習、プレゼンテーション） ヒアリングデータ2を元に23段階の理論（23-Step）に沿ってプランニングを発表する。</li> </ol>
学習成果・到達目標・基準	◎C：提示されたコンセプトに沿ってプランニングをすることができる。 ○D：ウエディングのプランニングシート23段階の理論（23-Step）の概要が言える
事前・事後学習	事前学習：用語帳の復習のうえ、ヒアリングデータを読みこんでおく。（90分程度） 事後学習：演出の専門用語を用語帳にまとめる。（90分程度）
指導方法	プランニングの基礎となる23段階の理論（23-Step）についての講義。 その理解を深めるために後半ではケーススタディを導入。授業の進行とともに学生自身が作成する専門用語の用語帳を活用。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：示されたケーススタディに対して、ふさわしいコンセプトを選ぶことができるか評価する。 D：示されたケーススタディからプランニングシートに記入することができるか評価する。 授業への貢献度50% 定期試験50%
テキスト	ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会 究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』著者 安東徳子



参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングレセプション」の履修が望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	クリッカー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
越智亮二			
Subject Code： F25C41			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングにおいて営業や集客のためのプレゼンテーションや広報する技術は、大変重要である。企業のホームページ、SNS、口コミ等のメディアや情報ツールの比較検討やSWOT分析を通じて広報の重要性とテクニックを学ぶ。実務の専門家によるペーパーアイテム2回、写真2回、コラージュ2回、Webメディア2回、映像2回、グラフィックデザイン2回、プレゼンテーション1回の授業構成からウエディングに係るプレゼンテーションの理論と技術を修得する。 (授業目標) ○B：対象に合わせたプレゼンテーションを複数のビジュアル表現ツールを活用し、作成することができる。 ◎E：ビジュアル表現ツールを活用し、伝えるためのメディアデザインをすることができる。
授業計画	<p>1 ウエディングとビジュアル・プレゼンテーション&lt;ガイダンス&gt; ビジュアル・プレゼンテーションの必要性を理解し、活用事例で理解を深める</p> <p>2 webメディアデザイン① &lt;講師：越智&gt;(クリッカー：理解の確認) 集客業務に必要なwebメディアの種類とクロスメディア手法</p> <p>3 写真① &lt;ゲスト講師：奥野講師&gt; 撮影の基本を学ぶ</p> <p>4 写真② &lt;ゲスト講師：奥野講師&gt;(実習) データの活用手法を学ぶ(web、アルバム、ペーパーアイテム、パンフレット等)</p> <p>5 webメディアデザイン② &lt;講師：越智&gt;(クリッカー：理解の確認) 最新のHPメディアと今後の流れとSNSメディアの具体的活用法と今後の流れ(色・フォント・デザイン)を学ぶ</p> <p>6 映像① &lt;ゲスト講師：田口講師&gt;(グループワーク) 撮影の基本を学ぶ</p> <p>7 映像② &lt;ゲスト講師：田口講師&gt;(グループワーク) データの活用手法を学ぶ(web、披露宴映像演出、PV等)</p> <p>8 コラージュの手法 &lt;ゲスト講師：高本講師&gt; コラージュで表現する世界観を学ぶ</p> <p>9 コラージュの活用 &lt;ゲスト講師：高本講師&gt;(グループワーク) 目的別コラージュの活用方法を学ぶ</p> <p>10 イメージデジタルデッサン① &lt;ゲスト講師：相川講師&gt; 創り上げたヴィジュアルイメージを伝えるためのデジタルデッサンの手法を学ぶ ロゴ、エンブレムなどの活用手法を学ぶ</p> <p>11 イメージデジタルデッサン② &lt;ゲスト講師：相川講師&gt;(実習) デジタルデッサンのワークショップ</p> <p>12 ペーパーアイテム① &lt;ゲスト講師：久保田講師&gt; ウエディングのペーパーアイテムの種類とトータリティを学ぶ</p> <p>13 ペーパーアイテム② &lt;ゲスト講師：久保田講師&gt;(実習) ウエディングのペーパーアイテムの種類とトータリティ</p> <p>14 効果的なプレゼンテーション① &lt;講師：越智&gt;(クリッカー：理解の確認) パワーポイントを活用し効果的なウエディングプレゼンテーションを学ぶ。</p> <p>15 まとめとデモンストレーション (クリッカー：理解の確認) 各メディアを活かしたトータルプレゼンテーションのデモを通じてヴィジュアルプレゼンテーションの全容を理解する</p>
学習成果・到達目標・基準	○B：得意とする1種類のビジュアル表現ツールを使い、プレゼンテーション資料を作成することができる。 ◎E：各ビジュアル表現ツールの活用方法がわかり、使用方法も理解している
事前・事後学習	事前学習：実習ノート(事前学習)に沿って課題に取り組む(90分) 事後学習：実習ノート(事後学習)のワークページを必ず完成させておく。(90分)
指導方法	毎回、高い専門性をもつゲスト講師を招き、知識と技術を合わせて学ぶ。 実習ノートを活用し、ビジュアルプレゼンテーションをトータルに理解できるようにする。 学習した内容を学内HPに反映させ、現実性のある学びの場とする。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：授業内のワークで課題に相応しい表現ができること。 E：ウエディングに相応しいビジュアル表現ツールを活用した資料の作成方法を理解しているか。 定期試験50%、授業内のワークで作成した制作物30%、授業への貢献度20%
テキスト	ブライダルコーディネーターテキスト(スタンダード) B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会
参考書	

履修上の注意	ウェディングモデル希望者は、pptの基本操作修得を履修条件とする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
河田淳鼓			
Subject Code：F35C44		実務家教員による授業	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>これまで修得したウエディングの知識と技術を駆使し、模擬挙式、模擬披露宴を計画し、実施する。チームで行うことを通じて授業目標を達成する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎A：ウエディングプランナー、ドレススタイリストなどのプロフェッショナルの視点で主体性をもって模擬披露宴を企画し実施することができる。</p> <p>○E：プランニングの23-stepに基づき、コンセプトに沿ったウエディングアイテムの制作、台本の執筆ができる。</p>		
授業計画	1	セレモニーとレセプション ウエディングの全体像を理解し、レセプションの役割を明確にする。	
	2	パーティのスタイル 時間帯およびフォーマリティの違いによるパーティスタイルについて学ぶ。	
	3	ウエディングメニュー ウエディングメニューの概念、条件、および種類について学ぶ。	
	4	ウエディングビバレッジ ウエディングビバレッジの概念、条件、および種類について学ぶ。	
	5	レセプションの進行 レセプションの進行とスクリプト作成の復習	
	6	サービスコンセプトとオペレーション サービスコンセプトの考え方とオペレーションの種類について学ぶ。	
	7	ヒアリングの手法 4つのヒアリングの手法を理解し、ロールプレイングを通じて体得する。	
	8	23段階の理論（23-Step）に基づく、コンセプトメイク ウエディングプランニングで学んだ23段階の理論（23-Step）に基づきコンセプトメイクの実習をする。	
	9	レセプション実習①（グループワーク、実習）（スマートフォン） カップルデータに基づき、コンセプトメイク	
	10	レセプション実習②（グループワーク、実習）（スマートフォン） テーマカラー、テーマアイテムなどのコンセプトのアイテムへの落とし込み	
	11	レセプション実習③（グループワーク、実習）（スマートフォン） ウエディングビューティプラン	
	12	レセプション実習④（グループワーク、実習）（スマートフォン） 会場レイアウトとテーブルコーディネート、ウエディングメニューの確定	
	13	レセプション実習⑤（グループワーク、実習）（スマートフォン） 進行表とスクリプトの作成およびオペレーションプラン	
	14	レセプション実習⑥（グループワーク、実習）（スマートフォン） オペレーションプランに基づいたシュミレーション	
	15	模擬披露宴（グループワーク、プレゼンテーション）（スマートフォン） 模擬披露宴の準備、本番、片付け	
学習成果・到達目標・基準	◎A：模擬披露宴における自分の役割を責任をもってやり遂げることができる。 ○E：施行準備を通じて、プランニングの23-stepの必要性が理解できる。		
事前・事後学習	事前学習：B I A検定のテキストを読んでおくこと。（30分） 事後学習：講義ごとにワークシートを完成させる。（60分）		
指導方法	これまでに修得した知識に加え、この授業における第1回～第8回の座学で得た知識を総動員し、チーム内で模擬挙式にむけた計画を立案する。また、第9回～第14回までの講義にて、レセプションの準備をしつつ模擬披露宴を実際に運営することを通じて目標達成まで主体的に学ぶ力を身につける現場力を育成する なお、模擬披露宴は学内で行う計画である。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：主体性をもって参加できているか、また、グループメンバーとチームワークをとりながら自分の業務を責任をもって行うことができたかの観点 E：コンセプトに基づいた表現や行動になっているかの観点 模擬披露宴の完成度30%、模擬披露宴実施準備の貢献度30%、模擬披露宴の実施日の貢献度20%、実習ノートの提出20%		
テキスト	①ブライダルコーディネーターテキスト（スタンダード） B I A公益社団法人 日本ブライダル文化振興協会		

	②究極のホスピタリティを実現する『共感力の鍛え方』 安東徳子著 コスモ21 ③ウエディング演出の23段階 (23-Step) ④セレモニー実習ノート ⑤世界ブライダルの基本 出版社 日本ホテル教育センター
参考書	
履修上の注意	ウエディングの知識をさらに高めるため、2年次の「ウエディングプランニング」、「ウエディングビジュアルプレゼンテーション」、「ウエディングビジネス論」を履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
平本貴子			
Subject Code : F15C43			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	浴衣の着方では、自分で着ることの練習を重ね段階に合わせ帯結びを学ぶ。着付けでは、二人一組になりお互いに着付け合うことで技術を修得する。半幅帯の創作は、グループでテーマを考え基礎を応用して作品を仕上げ。 (授業目標) ○D：浴衣に関する全般的知識を身に付ける。 ◎E：浴衣を自分で正確に美しく着ることができる。 ◎E：相手の体形、雰囲気にあった着付けができる。		
授業計画	1	きもの基礎知識 授業概要 きもの名称等を説明	
	2	浴衣の扱い（実習2回～14回） 浴衣のアイロン掛け、小物の確認	
	3	浴衣の着方（1） 浴衣の着方の練習	
	4	浴衣の着方・半幅帯結び（2） 浴衣の着方と基本の帯結びの練習	
	5	浴衣の着方・半幅帯結び（3） 浴衣の着方と基本の帯結びの練習	
	6	浴衣の着方の確認 着方の実践と応用編帯結びの練習	
	7	レベルチェック 一人で浴衣を着て基本の帯結びまで、正確に着ることができているかを確認する	
	8	浴衣の着付け（1）（グループワーク：ペアで課題に取り組む） 二人一組で、浴衣を着付ける練習	
	9	浴衣の着付け・帯結び（2）（グループワーク：ペアで課題に取り組む） 二人一組で、浴衣の着付けと帯結びの練習	
	10	浴衣の着付け・帯結び（3）（グループワーク：ペアで課題に取り組む） 二人一組で、浴衣の着付けと帯結びの練習	
	11	浴衣の着付けの確認（グループワーク：ペアで課題に取り組む） 着付けの実践	
	12	レベルチェック（グループワーク：ペアでレベルチェックを受ける） 二人一組で着付けをし、正確な着付けができているかを確認する	
	13	半幅帯の創作（1）（グループワーク：グループで課題に取り組む） グループで帯結びを考える	
	14	半幅帯の創作（2）（グループワーク：グループで課題に取り組む） グループで帯結びを考え、浴衣姿、創作帯の写真を撮り、自身でも修得レベルを確認する	
	15	レベルチェック（グループワーク：グループごとに作品発表） グループごとに作品発表をする	
学習成果・到達目標・基準	○D：浴衣各部の主な名称が説明できる。 ◎E：浴衣を自分で着ることができる。 ◎E：浴衣の着付けができる。		
事前・事後学習	事前学習：日頃からきものや浴衣に関心を持ち、雑誌等で多くの情報を得る。（20分程度） 事後学習：授業で学んだ技術を復習する。（40分程度）		
指導方法	マネキンを使用し手順の説明をする。一斉に演習に入るが、個々の技術レベルに合わせ指導していく。 レベルチェックの結果により、お昼休み等空き時間を利用して補習を行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：レポートを評価する。 E：レベルチェック、グループ作品発表で評価をする。 レベルチェック50%、グループ作品発表10%、レポート20%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし プリント配布		
参考書	授業内で紹介する。		
履修上の注意	第1回目の授業で、以下各自用意する物の説明をする。 第2回目の授業時に用意してくること。（貸出なし）		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合ったサイズの浴衣・浴衣用肌着・半幅帯</li> <li>・ひも3本・伊達<del>ズ</del>1本・ふろしき約90cm (浴衣・小物を包む)</li> </ul>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code：F16C47	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	人はなぜその人らしい装いをするのだろうか。自分を適確に表現しようとするとき、人は言語だけではなく外観を重視する。また逆に、初対面の相手がどのような人かを私たちは外観を手がかりにすることが多い。装うことは自己表現や対人行動を促し、個人の自信やアイデンティティの形成といった心身の健康に大きく貢献している。装うという着装行動の要因について服装心理学的側面から改めて考える。また、自分らしい装いには欠かせないパーソナルカラーコーディネートの基本知識を、色の3属性にもとづき、修得する。 (授業目標) ◎C：自分らしく装うためのパーソナルカラーコーディネートに必要な幅広い知識を身につける。 ○D：人はなぜ装うのかという着装行動の要因を個人的、対人的、集团的、社会的・文化的側面で理解する。		
授業計画	1	着装行動の要因 着装行動の要因 マズローの欲求5段階理論 衣服の感覚的特性 衣服と感情	
	2	自己概念と装い ライフステージと衣服 自己概念・アイデンティティと装い 身体イメージと装い 現実的自己と理想的自己	
	3	体型によるコーディネート プロポーション測定 体型・顔型の見分け方 体型補正のコーディネート	
	4	情報伝達と装い 装いと非言語コミュニケーション 装いの情報伝達機能	
	5	社会的役割・社会的規範と装い TPOをふまえたコーディネート フォーマルウェアの基礎知識 社会的規範と装い 制服、ユニフォーム	
	6	流行と装い 流行普及のプロセス ファッショントレンドのしくみ 流行採用の動機 流行の文化的・社会的要因	
	7	化粧・装いと心身の健康 化粧の心理的効用 化粧行動と意識 装いが心身に及ぼす影響 ファッションセラピー、メイクセラピー	
	8	カラーによるトータルコーディネート 色の3属性による配色 主な配色技法による配色 TPOをふまえた配色 パーソナルカラー配色	
	9	パーソナルカラーコーディネートの基本(1) パーソナルカラー診断 パーソナルアイデンティティ イエローベースとブルーベース	
	10	パーソナルカラーコーディネートの基本(2) 4タイプの3属性の特徴 カラーイメージワード分類 4タイプ別慣用色名	
	11	パーソナルカラーコーディネートの基本(3) 身体(肌・髪・眼)の色素の見分け方 パーソナルアイデンティティとは チャームポイントとコンプレックス	
	12	パーソナルカラーコーディネートの基本(4) 似合う色・似合わない色の見分け方 カラーペーパーによる診断 4タイプ別・3属性別の診断方法	
	13	パーソナルカラーコーディネートの基本(5) 似合う色の取り入れ方	



	<p>14 4タイプ別カラーコーディネート パーソナルカラーコーディネートの基本(6) 似合う柄・質感の取り入れ方 4タイプ別コーディネート</p> <p>15 自分のなりたいイメージと似合う色 なりたいイメージと似合う色のズレの原因 パーソナルアイデンティティ形成と自分らしいコーディネート</p>
学習成果・到達目標・基準	◎C：自分らしく装うためのパーソナルカラーコーディネートに必要な基本的知識を身につける。 ○D：人はなぜ装うのかという着装行動の主要因を理解できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの相当部分を項目ごとにまとめる(90分)。 事後学習：小テストに向けて、項目ごとに問題集に取り組む(90分)。
指導方法	テキスト、パワーポイントを使用し、視覚的にわかりやすく順序だてて論理的に学べるように指導する。 「色彩活用パーソナルカラー検定3級」受験に対応し、トータルコーディネートに必要な知識と技術を確実に養うことで、自信につながるよう指導する。 WebClassによる小テストを行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：小テスト・定期試験を評価する。 D：小テスト・定期試験を評価する。 定期試験50%、小テスト30%、授業態度・貢献度20%、
テキスト	「装いの心理と行動」編著：小林茂雄・藤田雅夫、著：内田直子ほか(アイ・ケイコーポレーション) 「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版(産経新聞出版) 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」(一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会) 「新配色カード199a」(日本色研事業株式会社)
参考書	「被服行動の社会心理学」神山進編集(北大路書房)
履修上の注意	「カラーコーディネート論」を履修済みであることが受講の条件である。 また、「トータルコーディネート演習」は、本科目が履修済みであることが条件となる。 日頃から、人はなぜその人らしい装いをするのかについて自ら深く考え、人の個性の多様性、ファッション商品・技術の多様性に興味を持ち情報収集をしておく。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子			
Subject Code：F26C46	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「トータルコーディネート論」をふまえて、トータルコーディネートの理論と実践を結びつける授業である。人の個性と服飾の個性について、色・形・素材・イメージの視点からトータルバランスのとり方を探る。特に自分らしい装いに必要な似合う色の選び方を身につけることにより、自分自身のアイデンティティ形成に寄与でき、他人へのコーディネート提案に結びつくように授業を進める。後半はパーソナルカラーを生かしたビーズブレスレットを制作し、自分らしい装いによる自己表現を体験する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>ファッションが自分らしさの自己表現として機能することをワークを通して学び、目的に合ったトータルコーディネート提案ができる。</p> <p>◎A：パーソナルカラー診断をグループワークで行う時、接客力にも繋げてグループワークで診断ができる。</p> <p>◎E：パーソナルカラーを生かしたブレスレットを制作し、プレゼンテーションすることができる。</p>
授業計画	<p>1 トータルコーディネートの条件と要素 コーディネート説明による自己紹介 色・形・素材・イメージの視点 色彩学の基本の復習</p> <p>2 パーソナルカラーコーディネート（1）（演習：各自、配色カードでExercise） 配色技法とパーソナルカラーへの活用 色相配色・トーン配色 ドミナントカラー・ドミナントトーン・トーンオントーン・グラデーション</p> <p>3 パーソナルカラーコーディネート（2）（演習：各自、配色カードでExercise） クライアントを中心にしたアドバイス 色素をもとにしたコミュニケーション</p> <p>4 パーソナルカラーコーディネート（3）（演習：各自、配色カードでExercise） 色素（肌・髪・眼）のアドバイス 似合う色と似合わない色の根拠</p> <p>5 パーソナルカラーコーディネート（4）（グループワーク：グループごとに診断） 3属性に基づくドレーピングの方法 カラーペーパーによる4タイプ別・3属性別の診断</p> <p>6 パーソナルカラーコーディネート（5）（グループワーク：グループごとに診断） 3属性に基づくドレーピングの方法 ドレープによる4タイプ別・3属性別の診断</p> <p>7 パーソナルカラーコーディネート（6）（グループワーク：グループごとに診断） 3属性に基づくドレーピングの方法 ドレープによる4タイプ別・3属性別の診断</p> <p>8 パーソナルカラーコーディネート（7）（演習：各自、配色カードでExercise） 似合う色・柄・質感の様々なアイテムへの取り入れ方 ファッション・ヘアメイク・ネイル・ブライダル・ブーケ</p> <p>9 パーソナルカラーコーディネート（8）（演習：各自、配色カードでExercise） アドバイステクニック 似合う色を生かした配色の応用 小テスト</p> <p>10 パーソナルカラーを生かしたブレスレット制作（1）（実習） 色の心理効果とパーソナルカラーを生かしたビーズ選び ブレスレット制作①</p> <p>11 パーソナルカラーを生かしたブレスレット制作（2）（実習） 色の心理効果とパーソナルカラーを生かしたビーズ選び ブレスレット制作②</p> <p>12 パーソナルカラーを生かしたブレスレット制作（3）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） 色の心理効果とパーソナルカラーを生かしたビーズ選び ブレスレット制作③</p> <p>13 パーソナルカラーを生かしたブレスレット制作（4）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） ブレスレット制作④ 配色説明パーソナルイメージカラーのパワーポイント課題</p> <p>14 パーソナルカラーを生かしたブレスレット制作（5）（実習、ICT:WebClassによる資料の配布及び課題の説明） ブレスレット制作⑤ 配色説明パーソナルイメージカラーのパワーポイント課題 ブレスレット提出</p> <p>15 パーソナルカラーを生かしたブレスレット制作（6）（プレゼンテーション） WebClassに各自が提出したパワーポイントのプレゼンテーションを行う パーソナルカラーを生かしたトータルコーディネートの振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>◎A：パーソナルカラー診断をグループワークで行うことができる。</p> <p>◎E：色の特徴を生かしたビーズブレスレットを制作することができる。</p>

事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容を確認し、テキストの予習、課題の準備を行う（20分）。 事後学習：授業終了後、学んだことを振り返り、課題に取り組む（25分）。
指導方法	トータルコーディネートに必要な技術の一つとして、パーソナルカラー診断を理解し使いこなせるように指導する。 パーソナルカラーの考え方を生かしたファッションコーディネート、ビジュアルコラージュ作成やビーズブレスレット制作の実習を通して指導する。「色彩活用パーソナルカラー検定2級」に対応し、色の実践的活用方法を具体的に学べるよう指導する。 パワーポイントを使用する。 WebClassで課題を配信し、提出を求める。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループワークでの主体性・責任感を評価する。 E：作品制作の完成度を評価する。 作品50%、小テスト30%、授業態度・貢献度20%
テキスト	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト2級」改訂版（産経新聞出版） 「色彩活用パーソナルカラー検定 3級・2級公式問題集」（一般社団法人 日本カラーコーディネーター協会） 「新配色カード199a」（日本色研事業株式会社）
参考書	「色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級」改訂版（産経新聞出版）
履修上の注意	「トータルコーディネート論」を履修済であることがこの科目を受講する条件である。
アクティブ・ラーニング	実習 グループワーク プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	WebClass

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	服専：選択
担当教員			
有村美保			
Subject Code : F16C49			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	スキンケア、メイクアップ、顔分析、皮膚、化粧品の知識、色彩の知識を修得し、日常に取り入れるようにする。将来様々な現場において、専門以外の知識を豊富に知ることによって円滑に進められるような幅広い知識を身に付ける。 「日本メイクアップ知識検定試験ベーシック」に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設ける。 (授業目標) ◎D：それぞれの人に合ったメイクアップの必要性を理解し、提案できる。		
授業計画	1	メイクアップの効果 化粧の心理効果、道具の基礎知識（メイクアップツール・ブラシ・衛生管理）	
	2	皮膚の基礎知識① パーツの名称、骨格、筋肉、皮膚の特徴	
	3	皮膚の基礎知識② 皮膚構造の働き、皮膚の生理作用	
	4	スキンケア スキントイプ別、スキンケアの目的とスキンケア化粧品の目的・種類・特徴 紫外線知識	
	5	色彩とメイクアップ 色彩の基礎知識、色相によるイメージ、色の感情効果	
	6	ベースメイク① ベースメイク化粧品とファンデーションの目的・種類・特徴	
	7	ベースメイク② 肌色の知識、コントロールカラー、コンシーラーの目的・種類・特徴	
	8	チーク・ハイライト・ローライト 顔型分析、チーク・ハイライト・ローライトの目的・種類・特徴	
	9	パーツ理論① 眉、目のバランス分析 アイブロウ、アイシャドウ、アイライン、マスカラの目的・種類・特徴	
	10	パーツ理論② 唇のバランス分析、リップの目的・種類・特徴 錯覚とメイクアップ（線と円による錯視効果）	
	11	イメージメイク① 4つのイメージ分類「キュート・フレッシュ・エレガント・クール」 個性分析の診断方法	
	12	イメージメイク② 4つのイメージ別の特徴と注意点	
	13	パーソナルカラー パーソナルカラーの基礎知識とメイクアップ	
	14	トレンドヒストリー 時代背景とトレンドファッション・ヘアメイク	
	15	メイクのお仕事 各ブランドテーマ 各ブランド（各化粧品会社）が作り出すメイクアップの特徴	
学習成果・到達目標・基準	◎D：メイクアップにおけるそれぞれの特徴や必要性を理解し、積極的に自分に取り入れ人に伝えたり提案ができる。		
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売り場でメイクアップに関する知識を深めておく（90分） 事後学習：授業内で学んだことを復習しておく。（90分）		
指導方法	テキストやパワーポイントを使用して、講義形式で行う。 前講義内容の復習小テストを適宜実施する。 メイクアップの理論の課題を提出する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：定期試験、課題を評価する。 定期試験50%、課題30%、授業への貢献度20%		
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト3・2級 一般社団法人JMA		
参考書			

履修上の注意	メイクアップの理論を実践的に習得するために、自主的に自分の顔で実習する。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。 「メイクアップ演習1」は、本講義の履修者に限り受講できる。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	服専：選択
担当教員			
本田真理			
Subject Code : F16C50	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップの目的と効果を理解し、実際に自分の顔にメイクアップすることで体感し技術を身につける。客観的な視点から顔を分析し、メイクアップを日常に取り入れるようにする。前半はメイクアップのそれぞれの基本的な方法を修得し、自分の顔でビジネスメイクが表現できるようにする。後半はイメージ理論に沿ったメイクアップの方法を理解し、自分の顔でそれぞれのイメージメイクが表現できるようにする。また、「セルフメイク検定（JMA）」に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) ◎E：イメージと現状との違いを的確に把握し、自分の顔にメイクアップで表現することができる。		
授業計画	1	化粧の心理効果と顔分析（実習：1～15回） 自己実現のためのメイクとそれに必要な客観的理解のための分析ワーク	
	2	スキンケア理論とテクニック 皮膚の基礎知識からわかるスキントypesと肌トラブル 正しいスキンケアの方法を実習する	
	3	ベースメイク理論とテクニック 肌色知識とメイクによる肌トラブル対応知識 コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・パウダーを実習する	
	4	チーク・ハイライト・ローライトの効果と顔分析・修整テクニック実習 骨格の把握と立体の理解 顔分析に応じたチーク・ハイライト・ローライトを実習する	
	5	アイブロウの錯覚効果とテクニック 基本バランスと毛流の理解 ペンシルとパウダーで自然なアイブロウを実習する	
	6	アイメイクの演出効果とテクニック 目元の立体と色・形の効果の理解 基本のアイシャドウ・アイライン・ビューラー・マスカラを実習する	
	7	リップの血色効果とテクニック 基本バランスとバリエーションによる修整の理解 パーツ分析に応じたリップを実習する	
	8	バランスメイクトータルテクニック 顔分析に応じた修整をトータルメイクで表現 好印象を持たれるビジネスメイクを実習する	
	9	イメージメイク理論と強弱理論 色・形・質感によるイメージ表現と強弱によるポイントメイクの比重を理解 イメージメイク・ワード分類ワーク	
	10	キュートメイク理論とテクニック 色彩によるイメージの理解 キュートメイクを実習する	
	11	フレッシュメイク理論とテクニック 質感によるイメージの理解 フレッシュメイクを実習する	
	12	エレガントメイク理論とテクニック 形によるイメージの理解 エレガントメイクを実習する	
	13	クールメイク理論とテクニック 立体によるイメージの理解 クールメイクを実習する	
	14	マイベストメイクの選定 目的と現状と修正から考えるマイベストメイクをデザイン デザイン画ワーク	
	15	マイベストメイクトータルテクニック デザインしたメイクを実習する	
学習成果・到達目標・基準	◎E：メイクアップのそれぞれの目的を理解したうえで、イメージと現状との違いを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：メイク情報誌や化粧品売場でメイクアップに関する知識を深めておく。（30分） 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3回は自分の顔で実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。（60分）		
指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に自分の顔にメイクアップ実習を行う。 定期的な技術小テストを実施する。 メイクアップデザインの課題を実施する。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	E:トータルメイクの実技試験を評価する。 実技50%、課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	JMAセルフメイク検定公式テキスト 一般社団法人JMA
参考書	
履修上の注意	実習は自分の顔で行うので、ノーメイクになることが前提となる。 実習のために肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専:選択
担当教員			
有村美保			
Subject Code : F16C51			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップする技術を身に付ける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップをできるようにする。演習10回まではスキンケアテクニックやベースメイクテクニックを重点にするため、ポイントメイク演習においても、スキンケアの工程を加えながら進める。尚、ポイントメイクは、将来創造性を育むための土台として基本（標準）をマスターし、バランスやメイク強弱を修得する。 また、「日本メイクアップ技術検定3級（JMA）」に対応し、授業の中で傾向と対策を設けている。 (授業目標) ◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを施術できる。
授業計画	<p>1                   メイクアップの事前準備（実習：1～15回） 技術者としての身だしなみとメイクアップツールの衛生管理</p> <p>2                   ポイントメイククレンジングテクニック 目・唇の皮膚構造を踏まえたアイメイク・リップメイククレンジング</p> <p>3                   クレンジング・化粧水・乳液テクニック 骨格・筋肉を意識したベースクレンジング・化粧水塗布・乳液塗布</p> <p>4                   ベースメイクテクニック（1） 肌色知識とファンデーション・パウダーのフィンガー・スポンジ・パフ・ブラシワーク</p> <p>5                   ベースメイクテクニック（2） 肌色調整理論とコントロールカラー・肌トラブル理論とコンシーラー</p> <p>6                   チーク・ハイライト・ローライトテクニック 道具のセッティング、顔分析・修整理論に基づいたチーク・ハイライト・ローライト お顔全体のクレンジングオフ</p> <p>7                   アイブローテクニック 標準バランスとペンシル・パウダーテクニック、アイメイク（眉・目）オフテクニック</p> <p>8                   アイシャドウテクニック アイバランスと3色グラデーション（濃淡グラデーション） アイメイク（眉・目）オフテクニック</p> <p>9                   アイライン・マスカラテクニック ペンシル・リキッドライナーとビューラー・マスカラ アイメイク（眉・目・マスカラ）オフテクニック</p> <p>10                  リップテクニック リップバランスと基本の塗り方、リップオフテクニック</p> <p>11                  肌・顔方分析と修整メイクプラン モデルのスキントypes・顔型分析と修整メイクプランを作成、各自苦手ポイントメイク練習</p> <p>12                  修整ベースメイク仕上げ 前回作成した修整メイクプランをもとにスキンケア～ベースメイク・チーク・ハイライト・ローライトを仕上げる</p> <p>13                  トータルバランスメイク～復習～ 化粧水～ベースメイク～バランスポイントメイク仕上げ</p> <p>14                  トータルメイクアップ（1） 道具のセッティング、50分でバランスメイクアップ（スキンケア～フルメイクアップ仕上げ）</p> <p>15                  トータルメイクアップ（2） 道具のセッティング、50分でバランスメイクアップ（スキンケア～フルメイクアップ仕上げ）</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを提案できる。
事前・事後学習	事前学習：技術を自己研究する（30分） 事後学習：授業内で実習したことを次授業までに最低3人に実践したり、自分自身にも取り入れることで確実に技術が身に付けられるようにする。（60分）
指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に相モデルでメイクアップ実習を行う。 設定時間内での技術チェックを実施する。 メイクアップ技術理論の課題を提出する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：トータルメイクの実技試験を評価する。 実技50%、課題30%、授業への貢献度20%
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト3・2級 一般社団法人JMA
参考書	



履修上の注意	<p>「メイクアップ論」を履修することが必須となる。          実習は相モデルで行うので、ノーメイクになることが前提となる。          相モデルで行うので、肌状態を万全にし、授業に臨むこと。          メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。          検定試験に合格するためには、課題に則って行うためオリジナルにならないよう授業外での自宅での復習が重要となる。</p>
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
本田真理			
Subject Code：F26C50	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップの必要性を理解し、人にメイクアップをする技術を身につける。相モデルの実習を繰り返し行うことで、モデルの特徴を捉えたメイクアップをできるようにする。前半は基本テクニックをマスターすることを重点的に行う。後半は接客を意識したタッチアップをするためのテクニックを行う。 また、「日本メイクアップ技術検定2級（JMA）」の取得を目指し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 （授業目標） ◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを施術できる。
授業計画	1      メイクアップの事前準備（実習：1～15回） 技術者としての身だしなみとメイクアップツールの衛生管理 メイクアップ演習1の復習 2      アイラインテクニック・スキんケアテクニック リキッドアイライナーテクニック ポイントメイククレンジング・ベースクレンジング・化粧水塗布・乳液塗布 3      リップテクニック・スキんケアテクニック リップテクニック ポイントメイククレンジング・ベースクレンジング・化粧水塗布・乳液塗布 4      ベースメイクテクニック ブラシワークで肌の質感調整 つや肌ベースメイクテクニック 5      チーク・ハイライト・ローライトテクニック ベースメイクテクニック ハンドワークで肌の質感調整 クリームタイプのチーク・ハイライト・ローライトテクニック 6      アイブローテクニック・アイラインテクニック・リップテクニック ペンシルとパウダーを使用したアイブローテクニック アイラインテクニック リップテクニック 7      アイメイクテクニック 3色を使用したアイシャドウテクニック アイラインテクニック ビューラーテクニック マスカラテクニック 8      スキンケアタッチアップ 接客を意識したスキンケアテクニック 9      ベースメイク・リップメイクタッチアップ 接客を意識したベースメイク・リップメイクテクニック 10     アイブロー・アイメイクタッチアップ 接客を意識したアイブロー・アイメイクテクニック 11     肌分析とスキンケアテクニック 15分でモデルの肌状態を把握するポイントクレンジング・ベースクレンジング・化粧水・乳液 12     顔分析と修整ベースメイクテクニック 15分でモデルの顔分析に応じた修整ベースメイク コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー・フェイスパウダー・チーク・ハイライト・ローライト 13     顔分析と修整ポイントメイクテクニック 20分でモデルの顔分析に応じた修整ポイントメイク アイブロー・アイシャドウ・アイライン・マスカラ・リップ 14     トータルメイクアップ（1） 50分でバランスメイクアップ スキンケア～ベースメイク・ポイントメイク 15     トータルメイクアップ（2） 50分でバランスメイクアップ スキンケア～ベースメイク・ポイントメイク
学習成果・到達目標・基準	◎E：顔分析を行ったうえで、人にバランスメイクアップを提案できる。
事前・事後学習	事前学習：技術を自己研鑽する。（30分） 事後学習：授業内で実習したことを次の授業までに最低3人に実践することで、確実に技術が身につけられるようにする。（60分）

指導方法	技術解説とデモンストレーションを行い、実際に相モデルでメイクアップ実習を行う。 定期的に技術小テストを実施する。 メイクアップ技術理論の課題を提出する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	E:トータルメイクの実技試験を評価する。 実技試験 50%、課題 30%、授業への貢献度 20%
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト3・2級 一般社団法人JMA
参考書	
履修上の注意	「メイクアップ演習基礎」「メイクアップ演習1」「メイクアップ論」を履修済であることが必須となる。 実習は相モデルで行うので、ノーメイクになることが前提となる。 相モデルで行うので、肌状態を万全にし、授業に臨むこと。 メイクアップ実習に必要な道具類を必ず各自で用意すること。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。 実習費を徴収する。
アクティブ・ラー ニング	実習
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
上野リサ			
Subject Code : F36C51			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	メイクアップを施す対象である「顔」についての理解を深め、社会における「顔」の役割やメイクアップの必要性について見識を深める。多様性の時代において、それらを理解し、自らのフィールドで学んだことを実践できる力を修得する。メイクアップの持つ可能性について自身の見解を述べられるようにする。 ◎E：状況に合わせて必要なメイクアップを判断し、表現できる。 ○D：顔の持つ社会的な役割とメイクアップの多彩な方法を説明できる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、これまで学んだ事と応用演習について。メイクアップの役割を幅広く捉え、可能性を考えていく。</p> <p>2 「顔」「化粧」とは（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 社会活動における顔の役割、なぜ化粧をするのかを考える。課題シートに記入し、シェア、プレゼンテーションを行う。</p> <p>3 ファッション業界とメイクアップ（ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる） ファッション業界では、どのようなメイクアップの役割があるのかを考える。具体的にブランドを設定してメイクアップ実習を行う。</p> <p>4 表現とメイクアップ（ブレイン・ダンプ 与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる） 舞台、映像などの世界では、どのようなメイクアップの役割があるのか考える。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。</p> <p>5 女性の顔、男性の顔（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 性別における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。</p> <p>6 子どもの顔、老人の顔 年代における顔の違いについて考える。考察した内容に基づき、実習を行う。デモンストレーションを見て、感じたことを発表する。</p> <p>7 世界の「顔」と「化粧」 多様な人種と文化の元、違った顔の特徴や文化としての化粧、風習としての化粧について考える。</p> <p>8 顔と心（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 顔と心のつながりについて考える。メイクアップセラピーについて。</p> <p>9 自分の顔、他者の顔（シンク・シェア・ペア 質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う） 自分の顔の特徴を客観的に理解する。自分の理想とするイメージに近づけるためにはどんなメイクアップが必要か考える。他者の顔を観察し、魅力を見つける。主観的な良し悪しとなる表現は避け、説明することに挑戦する。</p> <p>10 人の魅力と美しさ 人の魅力と美しさとは何か、多様な美しさについて考える。</p> <p>11 時代と顔 時代と共に移り変わる化粧と、その背景にある社会情勢や精神性について知る。</p> <p>12 似合うメイクアップ（1） ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル実習。</p> <p>13 似合うメイクアップ（2） ペアワーク・課題シート提出。似合うメイクアップについて検討し、提案しあう。相モデル実習。</p> <p>14 メイクアップの可能性について（1）（プレゼンテーション） 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。</p> <p>15 メイクアップの可能性について（2）（プレゼンテーション） 授業を通じ、各々に深めた顔やメイクアップについての見識を交え、メイクアップが持つ可能性について発表する。</p>
学習成果・到達目標・基準	◎E：メイクアップの方法によって顔の印象が変わることを理解している。 ○D：メイクアップの多彩な方法を理解している。

事前・事後学習	事前学習：次回授業のテーマに沿った情報収集をする。(30分) 事後学習：課題となったテーマに該当する顔について、授業内容を振り返りながら観察する。電車の中、街中、身近な人、web上の画像など、題材となる顔を観て感じたことを課題シートに記入する。(30分)
指導方法	講義は、板書、パワーポイントなどの資料を用いる。アクティブラーニングやデモンストレーションを行い、実習(セルフ、相モデル)を行う。
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎E：試験でシチュエーションに合ったイメージのメイクアップを提案できるかを評価する。 ○D：課題において、メイクアップの方法を具体的に記述できているかを評価する。 実技30%、プレゼンテーション30%、課題20%、授業への貢献度20%
テキスト	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト 3級2級 ※履修条件をクリアしている学生は所持している。
参考書	なし
履修上の注意	「メイクアップ基礎演習」「メイクアップ演習1」「メイクアップ演習2」「メイクアップ論」を履修済みであることが必須となる。 一般的な「女性が美しくなるためのメイクアップ」に限らず実習(セルフ、相モデル)を行う。授業終了時にメイクを落とす必要がある場合も考えられるので、簡易的なメイク落としシートやメイク直しの道具を準備すること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション シンク・シェア・ペア(質問に対して個人で回答後、ペアで共有と議論し全体にプレゼンテーションを行う) ブレイン・ダンプ(与えられたトピックについて知っていることをすべて書かせる)
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
浜口アヤ			
Subject Code : F16C54			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ネイルとジェルに関する基礎理論を学ぶ。爪の名称や用具用材の特徴を知り、シンプルなデザインから繊細なアートまでを学ぶ。自分の爪を使って、ネイルケアやジェルネイルを施術する。ネイルデザインはネイルチップを使い、ジェルカラーの選び方、デザイン・色彩・パーツのバランスなどの演習を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を学び、理解する。 ◎E：課題に応じたネイルアートを作成し、いろいろな技法を修得する。 個人制作では、ベーシックデザインを活かしてネイルチップの上にオリジナルのデザインを表現する。</p>		
授業計画	1	<p>ネイルアート演習 1 について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明、教材の説明。 学科：ジェルネイルの基礎知識。どうして光で固まるのか？メリット・デメリット</p>	
	2	<p>爪の構造・爪の形・爪の病気 学科：予防法・ハンドケアの仕方</p>	
	3	<p>マニキュア・ジェルネイルなどセルフネイルについて 学科：プレパレーション（ジェルネイルをするための下準備/ドライケア） サンディング・ノンサンディングとは マニキュア・ジェルネイルの種類について</p>	
	4	<p>ネイル実習（実習：4～12回） 教材配布 実技：ワンカラー（単色、ラメ）、オフの仕方</p>	
	5	<p>基礎デザイン（1） ラメグラデーション、ラメがけ、2色使い ホログラム・ホイルなど</p>	
	6	<p>基礎デザイン（2） カラーグラデーション、マーブル。 爪の長さ、太さによっての見極め。バランス感覚を養う</p>	
	7	<p>基礎デザイン（3） フレンチネイル（王道フレンチ、斜め、ストレート、バルーンなど）</p>	
	8	<p>アート筆を使ってできること（1） ドット、アニマル、花。紙に描くようなアート</p>	
	9	<p>アート筆を使ってできること（2） ロングライナーを使って、ラメライン、ボーダー、チェック柄 規則的なアートを描く</p>	
	10	<p>アート筆を使ってできること（3） 天然石ネイル、塗りかけなど、感性とバランスで描く</p>	
	11	<p>個性を出すアート ジェルを使って立体アートに挑戦。3D、パーツの埋め方 撮影用と日常用の違い</p>	
	12	<p>作品制作前の学科～ゼロから始めるデザイン力～ 色彩学を交えて、作品作りをするための準備、デザインのヒント ゼロから100を作り出すための学科とデザインの時間</p>	
	13	<p>個人制作（1） テーマ：「イベントネイル」5本セット ※授業後に提出。</p>	
	14	<p>個人制作（2） テーマ：「自分の為の成人式ネイル」5本セット ※授業後に提出。</p>	
	15	<p>個人制作（3） テーマ：「いつか自分が結婚した時にやりたブライダルネイル」5本セット ※授業後に提出</p>	
学習成果・到達目標・基準	<p>○D：ネイルに関する用語、デザインの知識を身に付け、デザインの名前、用具の名前を説明できる。 ◎E：課題に応じたネイルアートを作成できる。個人制作では、自ら考えたデザインを表現できる。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習：ファッションや雑貨のデザイン、インターネットなどからネイルアートとして表現できるデザインの知識を得ておくこと。また、次週のネイルデザインの色決めをしておくこと。（30分） 事後学習：授業で伝えた内容に関してレポートにまとめ、デザインの名前、用具の名前を覚えること。制作物は期日までに提出すること。（30分）</p>		
指導方法	<p>ネイル概論では爪の構造・名称を知り、レポートを提出をもって理解度を確認する。 2・3回目に自身の爪を使ってネイルケア実習を行い、2・3回目以外はネイルチップを使い、デザインのバランスを考えながら指導する。</p>		

	基礎アート、応用アートを修得し、修得後はグループ作品・個人作品を提出する。制作物で授業への理解度を 確認し、評価する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：ネイルに関する用語、デザインの知識を理解し、表現できているのかを評価する。 E：課題に応じたネイルアートの完成度を評価する。 課題70%、授業貢献度30%
テキスト	プリントを配布
参考書	・NAIL MAX      ・NAIL VENUS      ・NAIL UP ・その他ファッション雑誌など
履修上の注意	2・3回目の授業では、自身の爪を使用するため、ジェルネイルやスカルプチュアネイルなど、実習の妨げに なるので外しておくこと。 初心者の方でも安心して受講できるよう、ネイルの基礎デザインから応用デザインまで幅広く学ぶことができ る。 授業で制作したアート作品は全て提出し、成績として評価する。 使用教材は個人教材・共通教材のため大切に使うこと。
アクティブ・ラー ニング	実習
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
浜口アヤ			
Subject Code : F26C53			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	JNECネイリスト技能検定試験3級の受験可能なレベルの知識・技能を修得する。 手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング、キューティクルクリーン、カラーリング、フラットアート「フラワー」の相モデル演習を行なう。 (授業目標) ○D：爪の構造と働き、皮膚科学、爪の病気とトラブルなどJNECネイリスト技能検定試験3級の知識を身につける。 ◎E：ネイルケア、カラーリング、ネイルアートなどJNECネイリスト技能検定試験3級の技能を修得する。		
授業計画	1	ネイルアート演習2について 授業内容、授業の進め方、評価方法に関する説明 ネイル検定3級受験、検定モデルについて 検定試験内容DVD鑑賞	
	2	フラットアート(実習：2～15回) 3級フラットアート展示・実習 検定の持ち物について	
	3	爪の構造と働き、皮膚科学 ネイル概論 小テスト ネイルケア	
	4	テーブルセッティング 教材配布 テーブルセッティング ネイルケア	
	5	ネイルケア(1) 手指消毒～キューティクルプッシュ	
	6	ネイルケア(2) 手指消毒～ブラシダウン	
	7	ネイルケア(3) 手指消毒～ガーゼクリーン	
	8	ネイルケア(4) カラーリング 手指消毒～リムーブ～ガーゼクリーン	
	9	ポリッシュカラーリング(1) カラーリング～リムーブ	
	10	ポリッシュカラーリング(2) カラーリング～リムーブ	
	11	ネイルケア一連の流れを知る 手指消毒～ガーゼクリーン	
	12	検定試験全般の流れを知る(1) ネイルケア～カラーリング～ネイルアート タイム入れ 80分	
	13	検定試験全般の流れを知る(2) ネイルケア～カラーリング～ネイルアート タイム入れ 80分	
	14	検定試験模擬実習(1) タイム入れ 試験同様の流れ 70分 ※モデル用意	
	15	検定試験模擬実習(2) タイム入れ 試験同様の流れ 70分 ※モデル用意	
学習成果・到達目標・基準	○D：JNECネイリスト技能検定試験3級の受験可能なレベルの知識を修得する。 ◎E：JNECネイリスト技能検定試験3級の受験可能なレベルの技能を修得する。		
事前・事後学習	事前学習：3級ネイルアート「フラワー」のデザインを考える。 ネイル検定に必要な物の確認・用意をしておく。(20分) 事後学習：モデルのネイルケア、カラーリング、ネイルアートを行う。 過去問題を繰り返し行い覚える。(40分)		
指導方法	JNECネイリスト技能検定試験3級試験内容を把握するため、1回目のみDVDを使用する。 授業で伝えた内容はレポートにまとめ提出し、理解度を確認する。 過去問題を使用し、小テストを行う。		



	14・15回目はモデルを用意して検定試験同様のタイム入れを行い、演習の理解度を確認する。
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：JNECネイリスト技能検定試験3級の知識を提出課題で評価する。 E：JNECネイリスト技能検定試験3級の技能を工程、仕上りで評価する。 技術行程・仕上り50%、授業態度・貢献度30%、小テスト20%
テキスト	プリントを配布
参考書	
履修上の注意	実習の妨げになるため、ジェルネイル・スカルプチュア・マニキュアは禁止。 検定試験に合格するためには、授業外での自宅での復習が重要となる。
アクティブ・ラー ニング	実習
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
関根教史			
Subject Code : F16C56	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関する基礎知識、マナー、基礎動作、道具・器具の使い方、ヘアアレンジの基礎、応用、流行、モード、ブライダル、イメージヘア、カジュアルアレンジヘアを取り入れた実習を行い、メイク、衣服との関連性や調和を解説しながらバランス感覚を養う。 (授業目標) 相モデル(ペア)演習、グループ演習を通し、コミュニケーション能力、協調性を高めながら、自身をキレイにし相手もキレイにすることを身に付ける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、コミュニケーション能力を高めることができる。 ◎E：ヘアメイク演習を通し、トータル(ヘア、メイク、洋服)バランス能力を高めることができる。		
授業計画	1	ガイダンス、道具の使い方(実習：1～5.7.9.11.15回) ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	2	ヘアアレンジ基礎 一束・お団子シニヨン・三つ編みシニヨン、ピンング ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー	
	3	ヘアアレンジ基礎 シニヨン・すき毛の使い方 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	4	ヘアアレンジ基礎 逆毛 ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	5	ヘアアレンジ基礎 三つ編み・編み込み ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	6	ヘアアレンジ基礎(ペアワーク、グループワーク) アイロン ・ヘアデモンストレーション	
	7	流行ヘアアレンジ・メイク(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	8	流行ヘアアレンジ・メイク(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション	
	9	カジュアルヘアとモードヘアの違い(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	10	カジュアルヘアとモードヘアの違い(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	11	ブライダルヘア(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用	
	12	ブライダルヘア(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション	
	13	トータルで考えるイメージヘア(1)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン	
	14	トータルで考えるイメージヘア(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション ※スマートフォン	
	15	スタイル作成 ・技術確認	
学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し相手に提案することができる。 ◎E：ヘアアレンジの基礎(編み込み、カジュアルアレンジスタイル)ができる。		
事前・事後学習	事前学習として、ファッション誌、ビューティ情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。(45分) 事後学習として、授業で学んだ技術を復習しておくこと。(45分)		

指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	実習、ペアワーク、グループワーク
I C T・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
関根教史			
Subject Code：F26C55	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容に関するマナー、動作、道具の種類等の基礎技術の確認を行う。ヘアアレンジ応用、道具の応用、美容器具の扱い方、流行アレンジヘア、ブライダルヘア、和装・洋装ヘア、創作ヘア、アレンジポイントテクニック、アレンジイメージ力を取り入れ、ヘアカウンセリングを通しトータルバランスを解説しながら創造力を養う。 (授業目標) 相モデル(ペア)演習、グループ演習、ヘアカウンセリングデスクッション能力、ヘアメイクを通し、トータルバランスを考えながらイメージをしたことを形にする力を身につける。 ○B：ペアワーク、グループワークを通し、ヘアカウンセリングのコミュニケーション能力を身につける。 ◎E：ヘアメイク実習を通し、イメージしたことをバランスを考慮し解説しながら形にする技能を高める。
授業計画	1 ガイダンス、道具の使い方、基礎技術確認(実習：1~6.8.9.11.15回) ブラシ・コーム・ピン類・ウィッグ・キーパー ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 2 ヘアアレンジ確認と応用(1) ポイントスタイルアレンジ ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 3 ヘアアレンジ確認と応用(2) すき毛を使った応用テクニック ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 4 ヘアアレンジ応用(1) ボリュームスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 5 ヘアアレンジ応用(2) ルーズスタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 6 ヘアアレンジ応用(3) 飾りの付け方バランス ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 7 ヘアアレンジ応用(4)(ペアワーク、グループワーク) 浴衣スタイル ・ヘアデモンストレーション 8 ヘアアレンジ応用(5) パーティースタイル ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 9 カジュアルヘアとショーヘアの違い(1) ・ヘアデモンストレーション ※ウィッグ、キーパー使用 10 カジュアルヘアとショーヘアの違い(2)(ペアワーク) ・ヘアデモンストレーション 11 ブライダルヘア ・ヘアデモンストレーション 実習 ※ウィッグ、キーパー使用 12 トータルで提案するヘアメイク(1)(ペアワーク) ・トータルプランニング説明 ※スマートフォン 13 トータルで提案するヘアメイク(2)(ペアワーク) ※スマートフォン 14 トータルで提案するヘアメイク(3)(ペアワーク) ※スマートフォン 15 スタイル作成 ・技術確認
学習成果・到達目標・基準	○B：ペアワーク、グループワークを通し、キレイさと身だしなみを意識したヘアアレンジを身につける。 ◎E：ヘアアレンジの応用(美容器具の扱い方、TPOアレンジスタイル)ができる。

事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、ビューティー情報誌、ヘアカタログを読んで流行を捉えておくこと。(45分) 事後学習：授業で学んだ技術を復習しておくこと。(45分)
指導方法	技術デモンストレーションを行い、実際に髪の毛に触れながら、イメージを形にして行く作業をすることでバランス感覚を養いながらヘアアレンジの楽しさを伝える。
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：ペアワークにおいて積極的な姿勢（話しかけ）を評価する。 E：イメージを形にすることができる。 課題40%、レポート課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	相モデル（ペア）、グループ実習有り
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code : F17C59	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「変化が日常」の現在、今までの慣習やかつての成功例が役立たない時代となった。テクノロジーの進化は、新しい芸術形態や表現手段を生み出し、学びやライフスタイルにおいても多様化をもたらした。ビジネス環境が目まぐるしく変わる今日、人生100年時代を乗り切るセルフプロデュース力が必要となる。本講義は、人の感情に働きかける、エンタテインメント業界とファッション業界の事例を取り上げて解説する。</p> <p>(授業目標) ◎C：自身のライフスタイルを創造する思考力を身に付ける。</p>		
授業計画	1	ライフスタイルプロデュースとは 人生100年時代に備える戦略的セルフプロデュース	
	2	プロデューサーの役割（1）ファッション業界 プロデューサーの仕事内容とキャリアと求められる力	
	3	プロデューサーの役割（2）エンタテインメント業界 プロデューサーの仕事内容とキャリアと求められる力	
	4	ファッションライフスタイル（1） ファッション企業、ライフスタイル企業の情報発信	
	5	ファッションライフスタイル（2） コレクション（ファッションショー）の企画立案	
	6	ファッションディレクター（1） ラグジュアリーブランドのクリエイティブ・ディレクターの仕事	
	7	ファッションディレクター（2） コレクション（ファッションショー）の運営とスタイル	
	8	エンタテインメントの世界（1） エンタテインメントでのプロデューサーの役割とキャストとスタッフ	
	9	エンタテインメントの世界（2） 商業演劇としてのミュージカルのプロデュース	
	10	エンタテインメントの世界（3） 文化・芸術としてのオペラ、バレエのプロデュース	
	11	エンタテインメントの世界（4） 映画のプロデュース	
	12	ライフスタイルプロデュース（1） ビジネスパーソンの学びのプロデュース	
	13	ライフスタイルプロデュース（2） 「仕事」と「余暇」のプロデュース	
	14	ライフサイクルモデル キャリア目標と生活スタイルの確立	
	15	セルフプロデュース 学び続けるために自身をプロデュースする	
学習成果・到達目標・基準	◎C：自身のライフスタイルやキャリアについての考えを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション業界とエンタテインメント業界での最新のニュースやビジネスの知識を得ておくこと（60分）。 事後学習：講義の中で生じた「疑問」や「問い」をまとめ、それを調べ、理解を深めること（120分）。		
指導方法	講義内容に関連する映像やパワーポイントを使用し、視覚媒体を多くとり入れながらの講義形式で行う。人生設計100年時代のビジネスパーソンのライフスタイルをテーマとしたポートフォリオを作成する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：定期試験を評価する。 定期試験 50%、ポートフォリオ 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	なし		
履修上の注意	毎回決められたテーマの資料作りを欠かさないこと。		

アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code：F27C60	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	プロデューサーの仕事は、クリエイターが作った「作品」を、「売れる」商品に仕上げることであり、必要とされる要件は企業経営者と同等である。本授業は、グループワークをとおして「ファッションショー」「商業演劇」「学内イベント」等を題材に企画立案・運営からコスト回収までの事例研究を行うことで、クリエイティブとビジネスのバランス感覚を養う。 (授業目標) ◎E：「クリエイティブ面」と「ビジネス面」のバランス感覚を身につける。		
授業計画	1	「ファッションショー」プロデュース（1）（グループワーク） 個人ワークによるファッションショーの企画立案	
	2	「ファッションショー」プロデュース（2）（グループワーク） グループワークによるファッションショーの企画立案	
	3	「ファッションショー」プロデュース（3）（グループワーク） グループワークによるファッションショーの運営とコスト管理研究	
	4	「ファッションショー」プロデュース（4）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによるファッションショーのプレゼンテーション	
	5	「ファッションショー」プロデュース（5） グループのプレゼンテーションの評価と振り返り	
	6	「舞台」プロデュース（1）（グループワーク） 個人ワークによる舞台の企画立案	
	7	「舞台」プロデュース（2）（グループワーク） グループワークによる商業舞台の企画立案	
	8	「舞台」プロデュース（3）（グループワーク） グループワークによる商業舞台の運営とコスト管理研究	
	9	「舞台」プロデュース（4）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによる商業舞台のプレゼンテーション	
	10	「舞台」プロデュース（5） 各グループのプレゼンテーションの評価と振り返り	
	11	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（1）（グループワーク） 個人ワークによるTOITA Fes ファッションショーの企画立案	
	12	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（2）（グループワーク） グループワークによるTOITA Fes ファッションショーの企画立案	
	13	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（3）（グループワーク） グループワークによるTOITA Fes ファッションショーの運営とコスト管理研究	
	14	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（4）（グループによるプレゼンテーション） 各グループによるTOITA Fes ファッションショーのプレゼンテーション	
	15	「TOITA Fes ファッションショー」プロデュース（5） 各グループのプレゼンテーションの評価と振り返り	
学習成果・到達目標・基準	◎E：イベント企画を作成し、人前でプレゼンテーションすることができる。		
事前・事後学習	事前学習：授業テーマに沿った動画や資料を本学図書館で探すこと（20分）。 事後学習：インターネット等で最新のコレクションの情報を得ること（25分）。		
指導方法	パワーポイントや映像を使用した講義とワークショップ形式で授業をすすめる。個人ワーク、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：プレゼンテーションを評価する プレゼンテーション50%、課題30%、授業態度・貢献度20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	なし		
履修上の注意	毎回決められたテーマの資料作りを欠かさないこと。 本学図書館に於いてファッション、ビューティ、インテリア、グルメ、アート等ライフスタイル関連の参考文献		



	献に必ず目を通す事。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・グループワーク</li> </ul>
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
都築千佳			
Subject Code : F17C61			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ファッションという言葉が、最近ではライフスタイル全般を表すようになりました。なぜ、ライフスタイルまで領域が広がったのか、ライフスタイルとはなにか、ファッションとライフスタイルの関係は、ということ。「衣・食・住」＋「遊・知・健・美」＋「働」というアプローチで分析し、自身のライフスタイルを含めて考察する力を身につけるための講義である。</p> <p>(授業目標) ◎D：ライフスタイルとは何かについて理解するとともに、自身の価値を高めるために、ライフスタイルに関する情報に触れ、それを考察する習慣を身につける。</p>		
授業計画	1	ライフスタイルとは	ライフスタイルとファッション、ビューティの関係性について
	2	ライフスタイル (衣)	ファッションの領域がなぜライフスタイルに広がっているのか
	3	ライフスタイル (衣)	ライフスタイルにおけるファッションの重要性について
	4	ライフスタイル (衣)	ライフスタイル型のファッションブランドについて
	5	ライフスタイル (美)	ライフスタイル観点からみたビューティの位置付け
	6	ライフスタイル (美)	ライフスタイルにおけるビューティの重要性について
	7	ライフスタイル (美)	ライフスタイル型のビューティブランドについて
	8	ライフスタイル (食)	食を得意とするファッションのいま
	9	ライフスタイル (住)	住に重きをおくファッションのいま
	10	ライフスタイル (住)	ファッションと環境について
	11	ライフスタイル (知)	「知」とファッションの関わり
	12	ライフスタイル (遊・休)	遊・休というアプローチからみたファッションとライフスタイル
	13	ライフスタイル (健・交)	健・交というアプローチからみたファッションとライフスタイル
	14	ライフスタイル (働)	働くとはどういうことか？
	15	ライフスタイル・まとめ	ライフスタイルを取り巻く世界の変化
学習成果・到達目標・基準	◎D：ライフスタイルとは何かについて説明ができる。		
事前・事後学習	<p>事前学習：ファッション、インテリア、ビューティなどライフスタイル全般に関する最新情報に触れておく。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておく（90分）。</p> <p>事後学習：最新情報を自らのライフスタイルにどう反映させ、それがどう消費につながっているか、ショッピングエリアに足を運んだり、友人たちから情報収集することで、体感につなげていく。感性を磨くために、アート・芸術に触れる（90分）。</p>		
指導方法	パワーポイントや映像、雑誌、新聞などを用いて講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、2回のレポート提出がある。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：リアクションペーパー、定期試験を評価する。 定期試験50%、課題35%、授業態度・貢献度15%		
テキスト	WWDジャパン		
参考書	授業内で指示する		

履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどからライフスタイルに関する情報・記事をチェックし、それについてどう考えるかの意見を持つこと。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	服専：選択
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code：F17C59	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>経済のグローバル化とデジタルテクノロジーの急速な進化は、個人にさまざまな選択肢を増やし、そこから生じた価値観の多様化は、同時にライフスタイルの多様化をもたらした。本講義は、美的感性を高めるために世界の文化、アート、エンタテインメントについてを学ぶことを目的に、ライフスタイルを「衣」「食」「住」「遊」「知」「美」の観点に分け、ファッション視点でスタイルある生き方や美しい暮らしについてを概説する。 (授業目標) ◎D：自身の価値を高めるために、文化・アート・エンタテインメントを考察する習慣を身につける。</p>		
授業計画	1	ライフスタイルとライフコース スタイルある暮らし、生き方とは	
	2	ライフスタイル・「美」(1) 美術館と博物館	
	3	ライフスタイル・「美」(2) 絵画とファッション	
	4	ライフスタイル・「美」(3) オペラ、バレエ、パフォーミングアーツ	
	5	ライフスタイル・「美」(4) 日本の伝統芸能	
	6	ライフスタイル・「遊」(1) ブロードウェイとウエストエンド	
	7	ライフスタイル・「遊」(2) ハリウッド映画と映画スター	
	8	ライフスタイル・「衣」 ファッションとエンタテインメント 映画衣裳、舞台衣裳とデザイナー	
	9	ライフスタイル・「遊」(3) ヨーロッパ映画、アジア映画	
	10	ライフスタイル・「知」(1) 読書と図書館、小説家	
	11	ライフスタイル・「住」(1) 世界の名建築と建築家	
	12	ライフスタイル・「住」(2) 庭園、別荘、インテリア	
	13	ライフスタイル・「食」、アートと食 無形文化遺産と食文化、スターシェフ	
	14	ライフスタイル・「美」(5) 日常と非日常 美しい暮らし	
	15	ライフスタイル・「知」(2) アートとチャリティ	
学習成果・到達目標・基準	◎D：スタイルある暮らしを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌、インテリア雑誌などでライフスタイル全般について自身の好みを明確にしておく。毎回の小レポート対策として、次回授業計画の内容を調べておく(90分)。 事後学習：自身の価値を高めるため美術館に行き直接アートに触れ、映画・舞台芸術をとおして感性を養う(90分)。		
指導方法	パワーポイントや映像を使用し講義形式で行う。毎回授業内でのリアクションペーパーの提出、および「映画鑑賞」「美術鑑賞」のレポート提出がある。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：リアクションペーパー、定期試験を評価する 定期試験 60%、課題 25%、授業態度・貢献度 15%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布、また参考文献に関してはその都度指示		
参考書	授業内で指示する。		

履修上の注意	毎日、新聞・テレビ・インターネットなどで文化、芸術、エンタテインメントに関する記事をチェックすること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C T・オープンエデュケーションの活用	WecClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code : F17C60	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ビジュアルアートとは視覚を介して鑑賞される芸術のことで、一般的には絵画、彫刻、工芸、建築、写真などが含まれる。現在、ファッションとエンタテインメントの世界は一段と、ビジュアルアーツが持つ力を必要としている。本講義は、世界の文化史から始まり、意味深いアートやファッションの事例や現象を取り上げる。これからのビジュアルアーツを考えられることを目的に、ポイントを絞って視覚芸術を解説する。さらに、大変革期にあるファッションの現象や最新情報との比較対象も行う。 (授業目標) ファッションとエンタテインメントの二つの世界を様々なビジュアルアートを題材に想像し創出できる。 ◎D：独自の表現力を身に付けるため、視覚芸術を理解する。		
授業計画	1	ビジュアルアートとは 授業に関するガイダンス	
	2	世界の文化史 ビジュアルアートと文化史	
	3	ビジュアルアートのカテゴリー ビジュアルバリエーションの説明	
	4	スクリーンから観たビジュアル 名作映画からのアイデア	
	5	スクリーンから観たアート 名作映画からヒントを得る	
	6	ビジュアルアートとシンボルマーク 彫刻、工芸を含む オリジナルマーク、ロゴの解説、作り方	
	7	表現のグローバリゼーション 絵画について 西洋絵画とピオトープ	
	8	インテリアから観たビジュアルアート 工芸と建築 中世から現代までの建築とインテリア	
	9	建築とファッションとエンタテインメント 住宅から観たビジュアルアート、有名住宅からのヒント	
	10	フードから観たビジュアルアート 日本の食文化とグルメ、フード雑誌からのヒント	
	11	ビジュアルアートとライフスタイル (1) スタイル誌「View」とフォルナセッティ	
	12	ビジュアルアートとライフスタイル (2) スタイル誌「Wear」とフォルナセッティ	
	13	ビジュアルアートとグローバリゼーション (1) 個々のスタイルとフォルナセッティのMIX	
	14	ビジュアルアートとグローバリゼーション (2) 個々のスタイルとビジュアルアートのMIXの構築	
	15	ビジュアルアートの役割 今後のファッションとビジュアルアートによるイメージ伝達について	
学習成果・ 到達目標・基準	◎D：自分独自のスタイルを説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：文化・芸術における知識や最新のニュースを得ておくこと (60分)。 事後学習：講義の中で生じた「疑問」や「問い」をまとめ、それを調べ、理解を深めること (120分)。		
指導方法	講義内容に関連する映像やパワーポイント等を使用して、視覚媒体を多く取り入れながら講義形式で行う。文化を含めたポートフォリオが作成できるように指導する。		
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	D：ポートフォリオ、定期試験を評価する。 定期試験 50%、ポートフォリオ 30%、授業態度・貢献度 20%		
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する		
参考書	本学図書館にあるストーリー性の高い書籍として、「Fornasetti」「Emilio Pucci fashion story」「Tim Walker pictures」等。情報力が強い雑誌として「View」「Wear」。文化情報としては、「ビジュアル教養大辞典」「世界服飾大図鑑」。		
履修上の注意	参考書に指定した書籍は、本学図書館にて定期購読しており、社会の第一線で活躍する人材が参考にし、就職活動や就業の際にも役立つものであるため、必ず一読してアイデア、レイアウトに至る中で自身の情報力を		

	ためておくこと。なお、レポートの題材は本学図書館所蔵の上記雑誌より考案する。
アクティブ・ラーニング	特になし
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F27C61			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>エンタテインメント業界やアパレル業界での雑誌やポスターなどの印刷物等をデザイン的に美しく、かつ読みやすく作成、編集するために必要な構成手法や造詣を身につけることを目的とする。デザインの構成の基礎から始まり、世界のアート作品やファッションフォトグラファーの作品およびラグジュアリー誌のビジュアルを分析することで、美しいビジュアルを作り上げる方法について学ぶ。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎E：色や形の特性を理解し、表現の目的に応じ使い分け、オリジナリティある作品を作ることができる。</p>		
授業計画	1	ビジュアルアート演習について 自分の理想に適したイメージを作る	
	2	レイアウトについて（1） 参考作品を用いた構図の基礎	
	3	レイアウトについて（2） 色彩の配置やマチュールの変化による表現の違いについて	
	4	コラージュについて 参考作品を用いたコラージュの表現手法について	
	5	スケッチについて 参考作品を用いた、人体パーツのスケッチについて	
	6	パターンの制作について 参考作品を用いたオリジナルのパターンの制作	
	7	オリジナルドローイング制作（1） 本学図書館にて資料を収集し、オリジナルのコンセプトを基にドローイング	
	8	オリジナルドローイング制作（2） 本学図書館にて資料を収集し、オリジナルのコンセプトを基にドローイング	
	9	作品分析 制作したい方向性のWebサイトや雑誌などを観察し、見せ方の工夫がされている点をレポート形式にてまとめる	
	10	作品制作（1）（ICT：スマートフォンを活用し、作品のテーマ設定） オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、4点以上の作品制作 テーマ決め	
	11	作品制作（2） オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、4点以上の作品制作 素材集め	
	12	作品制作（3） オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、4点以上の作品制作 制作作業	
	13	作品制作（4） オリジナルのブランド、デザインのコンセプトを基に、4点以上の作品制作 作品の仕上げ	
	14	プレゼンテーション 制作した作品の発表を行う	
	15	作品講評、優秀作品紹介 全体の講評と優秀作品の講評を行う	
学習成果・到達目標・基準	◎E：色や形でイメージを表すことができる。		
事前・事後学習	事前学習：図書館や美術館にて多くの作品を鑑賞する(30分)。 事後学習：自分の作品に応用することができる資料や情報を収集する(30分)。		
指導方法	テーマに沿ってパワーポイントを使用し、画像も使い講義を進める。 講義と個別指導を交えながら、作品完成までの工程が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：作品にコメントを添付し、表現の幅を広げ、技術向上のためのアドバイスを行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	E：提出作品を評価する。 作品80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。		



参考書	本学図書館の中のファッション、アート、エンタテインメントに関する図書
履修上の注意	図書館の資料や美術館などで作品に触れる機会を積極的に持つこと。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F27C62			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	アート作品、エンタテインメント作品を参考に、自分が決めたテーマに即した製作を行い、美的センスを養う。平面構成の基礎を習得し、商品やパッケージ、絵コンテや空間構成を学び、作品を製作することを目的とする。 (授業目標) ◎E：エンタテインメントの世界性を踏まえたアート制作の知識を理解し、オリジナリティある作品を作ることができる。		
授業計画	1	エンタテインメントアートとは 平面構成、絵コンテ、空間構成の重要性	
	2	平面構成基礎 点、線、面などのシンプルな形を扱い平面構成の基礎を学ぶ 平面作品における装飾と空間表現について	
	3	アイデアの発想方法について 自らのアイデアを生むための情報収集方法 アイデアの元となるドローイングの作成を行う	
	4	平面構成応用 構成の基礎を、衣服などのデザインに落とし込む	
	5	メインビジュアル、パッケージデザイン（1）（ICT：スマートフォンを活用し、作品のテーマ設定）（実習） 自分のアピールしたい商品や企画のパッケージ、またはメインビジュアルを作成する テーマ決定	
	6	メインビジュアル、パッケージデザイン（2）（実習） 自分のアピールしたい商品や企画のパッケージ、またはメインビジュアルを作成する 製作作業	
	7	メインビジュアル、パッケージデザイン（3）（実習） 自分のアピールしたい商品や企画のパッケージ、またはメインビジュアルを作成する 作品の仕上げ	
	8	映像作品のパンフレット制作（1）（実習） 映画や舞台のイメージを用いて、選んだ作品を紹介するためのパンフレットを制作する 素材収集	
	9	映像作品のパンフレット制作（2）（実習） 映画や舞台のイメージを用いて、選んだ作品を紹介するためのパンフレットを制作する レイアウト	
	10	映像作品のパンフレット制作（3）（実習） 映画や舞台のイメージを用いて、選んだ作品を紹介するためのパンフレットを制作する 仕上げ	
	11	空間構成（1）（ICT：スマートフォンを活用し、作品のテーマ設定）（実習） ショーウィンドウや舞台のレイアウトを想定し、紙などを用いて立体構成を制作する テーマ決定	
	12	空間構成（2）（実習） ショーウィンドウや舞台のレイアウトを想定し、紙などを用いて立体構成を制作する 素材集め	
	13	空間構成（3）（実習） ショーウィンドウや舞台のレイアウトを想定し、紙などを用いて立体構成を制作する 製作作業	
	14	空間構成（4）（実習） ショーウィンドウや舞台のレイアウトを想定し、紙などを用いて立体構成を制作する 作品の仕上げ	
	15	学修成果発表、講評（プレゼンテーション：個人） 最終課題を中心としたプレゼンテーションと講評	
学習成果・到達目標・基準	◎E：アート制作の知識を理解し、作品に活かすことができる。		
事前・事後学習	事前学習：作品制作に活かせる資料の収集を行う(30分)。 事後学習：作品を良く見せるために適した素材を調べる(30分)。		
指導方法	実習が中心となるが、テーマに関する映像や画像などをパワーポイントを使用して説明を加えながら授業を進める。エンタテインメント性のある作品作りを出来るよう指導を行う。 フィードバックの仕方：作品は改善のポイントを添付し、表現の幅や技能の上達のためのアドバイスを行う。		

アセスメント・成績評価の方法・基準	E：課題を評価する。 作品70%、授業への貢献度30%
テキスト	なし
参考書	本学図書館の中のファッション、アート、エンタテインメントに関する図書
履修上の注意	図書館の資料や美術館などで作品に触れる機会を積極的に持つこと。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	服専：選択
担当教員			
ニールマーツ			
Subject Code：F37C65	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	概論として演劇・映画のメイキャップや衣裳デザインの歴史や理論としての色彩を学ぶ。その後、実際にプロフェッショナルが使用する材料、ツールを用いて特殊メイクに必要とされるデザイン、彫塑、型どりのベーシックな手法での実技を行う。後半部では、特殊メイクの実演を通して技術の修得を図る。 (授業目標) ○D：色彩理論を学ぶことで得た知識を、日々の生活に応用できる ◎E：特殊メイクの基礎知識を学修することで、多様な表現力を身に付ける		
授業計画	1	特殊メイクアップ概論 演劇映画等のメイキャップ、服飾デザインの歴史 実技 タトゥーを描く	
	2	メイクアップ概論(1) カラーについて、PAX PAINT作成 (タトゥー カバー)	
	3	メイクアップ概論(2) 色彩について	
	4	メイクアップ概論(3) デザインについて	
	5	特殊メイク基礎スキル(実習：5～15回) 接着と除去の基礎知識、鼻の造形についての説明	
	6	ライフキャスト(LIFECAST) 人体の型どり 自身の顔型取りを行う	
	7	型のクリーン 石膏を削り、顔型を完成させる	
	8	SCULPTURE 塑造(1) 粘土で自身の制作したい鼻のデザインを行う	
	9	SCULPTURE 塑造(2) 粘土で自身の制作したい鼻の造形を行う	
	10	SCULPTURE 塑造(3) 鼻の造形物を原型とし石膏で型をおこす	
	11	型(MOLD)と形(CAST) 型どりの手法を理解し作成する	
	12	ラテックスの取扱使用方法とCLEAN & CAST (LATEX) 液体ラテックスを型にコーティングする	
	13	特殊メイク実演(1) ゾンビメイク実演方法の説明、及び実技. 血のりの基礎知識と使用方法	
	14	特殊メイク実演(2) 特殊メイクデモンストレーション及び造形鼻に色を塗る	
	15	実演 これまでに学んだ技術を基にペアにて特殊メイクを行う。	
学習成果・到達目標・基準	○D：色彩理論を学ぶことで、自身が思い描く色に関してを説明できる ◎E：特殊メイクの基本実技を説明できる		
事前・事後学習	事前学習：映画や映像等、常に特殊メイクを意識することで、記憶し表現の引き出しを作っておくこと(90分)。 事後学習：色彩理論に関しては、その種の参考文献をよみ理解を深めること(90分)。		
指導方法	1回から4回までのメイクアップ概論については、講義を中心に理論を学ぶ。 6回から15回の特殊メイク基礎スキルについては、実習が中心となる。 本科目は、90分授業を2コマ連続で行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	D：色彩環の完成度を評価する D：ペアで行う特殊メイクの実技のデザインを評価する E：ペアで行う特殊メイクの実技の完成度を評価する 授業時の態度・実技評価50%、技術査定50%		
テキスト	なし		
参考書	なし		

履修上の注意	作業工程に遅れないよう、積極性を持って課題に取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	実習
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子、平光くり子			
Subject Code：1年生F38C66		Subject Code：2年生F38C64	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ1は、事前、事後研修を含み、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>(授業目標) インターンシップ1は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（6月2日（火）課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（6月16日（火）および7月7日（火）課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかから出席する。（ゲスト講師） ① ウェディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。</p> <p>5 インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が5日間以上(40時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修終了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後研修（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修後面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。</p> <p>◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解をしておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。</p>
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>事前、事後研修、実習を5日間以上(40時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。</p> <p>なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。また、以下項目を基準に評価する。</p> <p>A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。</p>

テキスト	なし
参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	<p>インターンシップ1は授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。</p> <p>従って夏期は1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。</p> <p>インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2の違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。</p> <p>事前研修を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前研修の補講は原則行わないものとする。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し
ICT・オープンエデュケーションの活用	特に無し

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	服専：選択
担当教員			
楠香代子、平光くり子			
Subject Code：1年生F38C67		Subject Code：2年生F38C65	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>インターンシップ2は、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)の実習・研修などの就業体験をするプログラムである。インターンシップ研修を通じ、主体性・チームワーク・責任感、コミュニケーション能力などの社会人として必要な能力を身に付けていくことを目的とする。プログラム参加希望者全員は必ず事前研修へ参加をし、研修先決定後に各企業でのインターンシップ研修を実施、研修終了後に事後研修を受講すること。研修先は、履修モデルとリンクした業界から選ぶことができる。また、自ら研修先を探すこともできる。</p> <p>(授業目標) インターンシップ2は、自己の職業適性や将来設計について思考し、主体的な職業選択や高い職業意識を育成することを目的とするが、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付けなければいけないという自覚を持ち、行動していく自主性を持つことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感を養うことができる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携の必要性を養うことができる。</p>
授業計画	<p>1 説明会（6月2日（火）課外時間にて実施予定） インターンシップの意義と目的について、インターンシップの進め方、日程、研修先案内等の説明</p> <p>2 事前研修（6月16日（火）および7月7日（火）課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） 個人情報保護、守秘義務、マナー、研修の受け方等を行うほか、研修先企業の探し方、案内を行う。</p> <p>3 業界別事前研修 業界により内容が異なるため①・②・③のいずれかに出席する。（ゲスト講師） ① ウエディング業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ② ホテル業界インターンシップ（課外時間にて実施予定） ③ 事務、サービス系（アパレルその他を含む）インターンシップ（課外時間にて実施予定）</p> <p>4 インターンシップ選考 インターンシップにあたっては、あくまでも企業スケジュールに準じて実施されるものである。希望により研修先を選ぶことができるが、各企業の参加学生枠に制限がある。希望者多数の場合は、学内選考または企業内選考を実施し、選考から外れた場合は希望企業での研修が受けられない可能性がある。また、研修日程や実習内容は企業の意向に準ずるため、決定に時間を要する場合がある。</p> <p>5 インターンシップ研修 事前に企業ごとに各自、面接、日程調整を行い、実習を行う。 実習日は必ず日報を作成し、担当者より捺印またはサインをもらうこと。 最終日には、研修担当者より修了証明書を交付いただくこと。 勤務体系は実習先の規定に準ずる。基本的に夏期休暇中、原則として実習期間が6日間以上(45時間相当、事前研修、事後研修時間を含む)とする。 ・場所：研修先による。 ・報酬：基本的にはないが、研修先による。研修修了後アルバイト契約で継続することを推奨する。 実施を予定する夏期・春期休暇中は、企業スケジュールに準じて研修が実施されるものであり、私的な予定等による欠勤は原則認めない。 実習中は戸板生の代表として実習へ参加していることを忘れず、実習先に迷惑にならないように配慮すること。</p> <p>6 事後学習（課外時間にて実施予定）（ゲスト講師） インターンシップ研修修了後、実施報告書の提出と振り返りを行い、その結果を学科ゼミナール、戸板ゼミナールで発表する。</p> <p>7 担当教員との研修后面談 インターンシップ研修修了後、提出した実施報告書をもとに担当教員と実習の振り返り等を含めた面談を実施し、総合的な評価のもと単位認定の決定がなされる。</p>
学習成果・到達目標・基準	<p>自分の資質、特性を理解し、自分に合った業界、職種を選び、将来を決めることのできる自主性を養えるようになるなど、社会に出るにあたりA・Bの能力をさらに身に付け、行動していくことを目標とする。 ◎A：社会にて主体性・チームワーク・責任感の必要性を理解できる。 ○B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携を理解する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：希望する業界・職種に関して、あらかじめインターネット等で研究・情報収集をし、理解しておくこと。またインターンシップ研修を通じ、どのような学びや経験を得たいか等の目標を設定することが望ましい。</p> <p>事後学習：自身の経験をポートフォリオ作成しまとめることで、就職活動で活かせるよう準備する。また、事後研修で振り返り・発表を行う中で、その他の学生の経験談から幅広い業界・職種の知見等の情報共有を図る。</p>
指導方法	担当教員の他、業界に精通する専門家、キャリアセンターの協力により実施する。
アセスメント・成績評価の方法・基準	<p>事前、事後研修、実習を原則として実習期間が6日間以上(45時間相当)実施し、研修先の評価表（出勤状況、勤務態度含む）、日報、発表内容をもとに、実習後の担当教員との面談により総合的に評価する。 なお、実施しても資料の不備（研修先の印がない等）、期限後の提出者には単位不可となる場合がある。 また、以下項目を基準に評価する。 A：社会での主体性・チームワーク・責任感の必要性を経験している。 B：スタッフ間、お客様、上下関係、他部署と連携に必要性があることを経験している。</p>
テキスト	なし



参考書	インターンシップ説明会にて配布
履修上の注意	<p>インターンシップ2は、授業時間外に説明会、事前研修、実習、事後研修、発表を行う。夏期休暇中と春期休暇中に実施するが、春期については、一部の業界のみ実施する予定である。履修登録はインターンシップ研修終了後に登録する。</p> <p>従って夏期は、1年後期、春期は2年前期に単位取得となる。</p> <p>自ら探した研修先は、学校との覚書を締結した企業のみ、インターンシップの履修を認める。</p> <p>インターンシップ1、2の説明会、事前・事後研修は、合同で開催する。1と2との違いは総研修日数(時間)の違いである。1は5日間以上(40時間相当)、2は6日間以上(45時間相当)、1、2ともインターンシップ終了後は、引き続きアルバイト契約にて実務経験を継続することを前提とする。</p> <p>事前学習を欠席した場合、単位は認定不可。また、事前学習の補講は原則行わないものとする。</p>
アクティブ・ラーニング	特に無し
ICT・オープンエデュケーションの活用	特に無し

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code：F39A68	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッション プランニングモデル」                  学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。                  講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。                  本ゼミナールは、ファッション業界の本部（本社）での職種の役割と仕事内容を理解する。                  （授業目標）                  ○B：グループワークにおける自分の役割を実行しながら、主体的に自分の考えをまとめることができる。                  ◎C：自分の考えを論理的にプレゼンテーションすることができる。</p>		
授業計画	1	ファッション業界について（1） 本ゼミナールの概要、ファッション業界の職種について	
	2	キャリア講座（1）「就職活動の準備」（キャリアセンター） 就職活動のスケジュール、現状、活動内容について	
	3	「本部の職種研究」（1）（個人ワークおよびペアワーク） ファッション業界における本部の役割、職種について	
	4	ファッション業界の現状（1）（外部講師） ファッション業界における現状と課題について	
	5	「本部の職種研究」（2）（プレゼンテーション） ペアワークによる「本部の職種研究」のプレゼンテーションおよび評価とリフレクション	
	6	2年生内定者による就職活動体験講話 2年生内定者の紹介、就職活動の注意点とアドバイス	
	7	キャリア講座（2）（キャリアセンター） 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う	
	8	「本部営業職の研究」（1）（グループワーク） 営業の仕事内容、必要な力を考える 履歴書の書き方	
	9	「本部営業職の研究」（2）（グループワーク） 営業として担当店舗の売上増加戦略を考える エントリーシートの書き方	
	10	「本部営業職の研究」（3）（グループによるプレゼンテーション） グループワークによる「本部営業職の研究」のプレゼンテーションおよび評価とリフレクション	
	11	2年生内定者懇談会 2年生内定者による個別相談会	
	12	ファッション業界の現状（2）（外部講師） ファッション業界におけるキャリアアップについて	
	13	「本部プレス職の研究」（1）（グループワーク） プレスの仕事内容、必要な力を考える 自己分析	
	14	「本部プレス職の研究」（2）（グループワーク） プレスとしてブランドイメージの向上を考える	
	15	「本部プレス職の研究」（3）（グループによるプレゼンテーション） グループワークによる「本部プレス職の研究」のプレゼンテーションおよび評価とリフレクション 本部のマーチャンダイザー職と生産管理（プロダクトコントローラー）職について	
学習成果・到達目標・基準	○B：グループワークにおける自分の役割を責任を持って実行できる。 ◎C：自分の考えを論理的に説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく（25分）。		
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、グループ討論、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業や流通業の店舗調査を行い、売るための仕組みや戦略を学ぶ。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	○B：受講態度及びグループワークでの貢献度を評価する。 ◎C：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%		
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する。		

参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	ファッション業界及びファッション関連業界において就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式等で行う。 映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養うこと。 図書館にある「日経MJ」、「WWD」、「アエラ」を一読することを望む。
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
井上近子			
Subject Code：F39A68	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッション セールスモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。ファッション業界の企業と職種を知り、店舗調査を通して販売に必要な知識を理解する。 (授業目標) ファッション業界における販売職に必要なスキルを理解し、自分の見解や主張を述べることができる。 ○B：グループワークにおける自分の役割を遂行しながら、主体的に自分の考えをまとめることができる。 ◎C：ファッション小売業における現状と課題をあげ、解決方法について論理的にプレゼンテーションすることができる。</p>		
授業計画	1	ファッション業界の基礎 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について	
	2	キャリア講座（1）（キャリアセンター） 就職活動のスケジュールと現状、活動内容について	
	3	職種研究（1）（ペアワーク） ファッション業界における店舗と本部の役割、職種について	
	4	ファッション業界の現状（1）（外部講師） ファッション業界における現状と課題について	
	5	職種研究（2）（ペアワーク、プレゼンテーション） ペアワークによる「職種研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り	
	6	2年生内定者による就職活動体験講話 2年生内定者の紹介、就職活動の注意点とアドバイス	
	7	キャリア講座（2）（キャリアセンター） 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う	
	8	ファッション販売員の研究（1）（グループワーク）、履歴書の書き方 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは 就職活動における履歴書およびエントリーシートの書き方の注意点	
	9	ファッション販売員の研究（2）（グループワーク） 業態別におけるファッション販売員の役割、売れる販売員の条件とは	
	10	ファッション販売員の研究（3）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「ファッション販売員の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り	
	11	2年生内定者懇談会 2年生内定者による個別相談会	
	12	ファッション業界の現状（2）（外部講師） ファッション業界におけるキャリアアップについて	
	13	店舗運営の研究（1）（グループワーク） 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは	
	14	店舗運営の研究（2）（グループワーク） 販売員から見た店舗運営のあり方、客数および売上を上げる方策とは	
	15	店舗運営の研究（3）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗運営の研究」のプレゼンテーション、評価と振り返り	
学習成果・到達目標・基準	○B：グループワークにおける自分の役割を責任を持って実行できる。 ◎C：自分の考えを論理的に説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、あるいはインターネットから最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：毎回のテーマを振り返り、就職活動に役立てるように資料にまとめておく（25分）。		
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。アパレル企業の店舗調査を行い、店舗運営の特徴やマーケティング戦略を学ぶ。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	B：授業態度およびグループワークの貢献度を評価する。 C：プレゼンテーション、課題を評価する プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%		
テキスト	適宜プリント資料を配布する。		
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。		
履修上の注意	業態を問わず、日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考え		

	<p>る習慣を身につけること。  また、映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館にある「日経MJ新聞」や「WWD」を一読することを望む。</p>
<p>アクティブ・ラーニング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>
<p>ICT・オープンエデュケーションの活用</p>	<p>特になし</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
高橋佐智子			
Subject Code：F39A68			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ファッションデザインモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、演習、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 デザイン画における人体の理解を深め自分の世界観を表現し、それぞれ作品のポートフォリオを作成する。 (授業目標) ○C：独自のクリエイションを研究し、さらに将来のビジョンを思考できる。 ◎E：クリエイション技能を向上させ、制作したポートフォリオを使用したプレゼンテーションによって自分の世界観を的確に説明できる。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション（プレゼンテーション） 将来の目標について自己紹介を交えて全員がプレゼンテーションする	
	2	スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師） スティリズムとは 人体の理解と表現	
	3	企業見学 アパレル企業の製作現場を見学する	
	4	スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師）（ディスカッション：自分の世界観について話し合う） ブランドを想定し、ムードボード制作	
	5	スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師） エクササイズ（コラージュなど） プロポーシヨンの描き方を学ぶ	
	6	スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師） エクササイズ（鉛筆模写など） プロポーシヨンの描き方を学ぶ	
	7	キャリア講座（1）（キャリアセンター） 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う	
	8	スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師） デザインリサーチ、デザイン画 着装表現の描き方を学ぶ	
	9	スティリズム（ファッションデザイン）（プレゼンテーション：進捗状況を発表する） デザイン画、着色 着装表現の描き方を学ぶ	
	10	スティリズム（ファッションデザイン）（ゲスト講師） 平面図を描く	
	11	キャリア講座（2）（キャリアセンター） 2年生内定者による就職活動体験講話	
	12	キャリア講座（3）（キャリアセンター） 就職活動にあたり、業界の就職状況および今後の就職活動スケジュールを説明する	
	13	発表（ファッションデザイン）（ゲスト講師）（プレゼンテーション：完成したポートフォリオについて発表する） 自分の作品をまとめポートフォリオを完成させ、発表する	
	14	2年生とディスカッション（ディスカッション：就職活動やゼミでの学びについて話し合う） 2年生から就職活動体験談やゼミでの学びの成果の発表を聞き、今後の指針を得る	
	15	卒業生とディスカッション（ディスカッション：職業観について話し合う）（ゲスト講師） 社会で活躍している卒業生から就職活動体験談や現在の仕事内容を聞き、今後の指針を得る	
学習成果・到達目標・基準	○C：自分のキャリアを論理的に思考できる。 ◎E：制作したポートフォリオを使用したプレゼンテーションによって自分の世界観を説明できる。		
事前・事後学習	事前学習：次の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する（15分）。 事後学習：ムードボード、デザイン画、平面図など各回の課題を完成させる（30分）。		
指導方法	論理思考をベースに、ディスカッション形式でキャリアデザインを進める。 学生の主体性と積極性を重視し、思考を深めるよう指導する。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③講評及び採点し返却、④授業後における採点について質疑応答		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：ディスカッションの発言内容、課題の思考力を評価する。 E：作品の完成度とプレゼンテーション能力を評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%		

テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 ポートフォリオを作成するため、ポケット式ファイルを用意する。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、ディスカッション
ICT・オープンエデュケーションの活用	なし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子			
Subject Code：F39A68			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ウエディングモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。専門のゲスト講師を招き、業界の専門知識やスキルを講義、演習から主体的に学修する。また身近な社会現象等も取り上げグループワークで討議を行い、プレゼンテーションで発表する力を養う。 (授業目標) ◎C：身近な社会現象に対し興味を持ち、思考力を働かせ考察する。 ○D：ウエディングホスピタリティを理解し、就職のための知識を身につける。</p>		
授業計画	1	ウエディングゼミオリエンテーション、ウエディング業界について（グループワーク）（小泉・楠） ウエディング業界について考える	
	2	ウエディングゼミ個別指導（小泉・楠） 面談を行う（2グループ分け）	
	3	ウエディング業界の仕事に必要な『視点』とは？（ゲスト講師①八芳園） ウエディングの現場見学で見ると見るべきこと、学ぶべきこと：CWRIAのプロセス（事前課題を見学シートを使いながら明確にする）	
	4	八芳園学外実習（ゲスト講師②八芳園） 八芳園の模擬挙式体験を体験する。仮説から得た疑問を持って見学に臨む。（見学シートの活用）	
	5	模擬挙式の振り返り（ゲスト講師③八芳園） 見学シートを使って、事前課題を共有する	
	6	ウエディング業界で求められる人とは？（ゲスト講師④八芳園） 八芳園の見学をベースにウエディングプランナー、ドレススタイリストに求められることを探る（現場で求められる8つの技能）	
	7	キャリア講座（1）（キャリアセンター） 就職のための筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う	
	8	ウエディングの職業研究（グループワーク）（ゲスト講師⑤八芳園） ドレススタイリスト、ウエディングプランナーを中心に、具体的な仕事と必要なスキルは何かを学ぶ	
	9	企業研究（2）（小泉・楠） ウエディング関連企業から業種を調べる（2グループ分け）	
	10	キャリア講座（2）（キャリアセンター） 就職活動にあたり、業界の就職状況を説明する 就職活動スケジュールを説明する	
	11	ウエディング業界に通用するエントリーシートと面接対応（ゲスト講師⑥八芳園） 就活に欠かせない自己分析と志望動機を書く視点を学び、面接の種類やその対応例を知る。自己分析シートを使い、自分のストレス&ウィークネスを知る	
	12	キャリア講座（3）（キャリアセンター） 内定者交流会	
	13	マイストーリーの発見と40秒自己PR（ゲスト講師⑦八芳園） 自己PRの元となるマイストーリーを探し当て、それを使った40秒の自己PRを書いてみる	
	14	発表！40秒の自己PR①（ゲスト講師⑧八芳園） 半数の履修学生が40秒の自己PRを続けて発表する。（引継ぎ時間含め、一人1分の発表となる）他者のPRを聞く事で、訴求力のある自己PRの特徴を理解できる	
	15	発表！40秒の自己PR②（ゲスト講師⑨八芳園） 世論と情勢について考える	
学習成果・到達目標・基準	◎C：社会問題に対し、自分の考えを持ち討議できる。 ○D：ウエディング業界で働くために修得すべきことを理解できる。		
事前・事後学習	事前：各回毎のテーマについて、予習しておくこと。（20分） 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること。（25分）		
指導方法	通常の授業と違いゼミ形式で行うので、学生の主体性と積極性を重視する。 テーマ毎の課題提出をする。 フィードバックの仕方：添削を行いコメントを記載し返却する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：グループワークでの自己提案力と貢献度 D：ウエディング業界の理解度 課題60%、授業への貢献度40%		
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版 プライダルのお仕事 芸文社		



	プリント配布(式場見学シート、組織に求められる8つの適性、40秒の自己PRチェック表)
参考書	
履修上の注意	ウェディング関連企業に興味を持っていること。 ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
新井葉子、平光くり子			
Subject Code：F39A68			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ビューティモデル」 学生の職業意識を高め、将来の夢を実現させるため、モデル別に行うゼミナールである。 講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行われ、ゲスト講師を招くなど、業界の専門知識やスキルを主体的に学ぶ。 本ゼミナールは、美容業界を目指すための心構え、マナー、業界知識を身に付ける。 (授業目標) ◎D：美容業界のしくみや特徴、職種について理解できる。 ○E：自分の考えや思いを的確にプレゼンテーションできる。</p>		
授業計画	1	業界研究（1）（新井） 本ゼミナールの概要、美容業界について	
	2	業界研究（2）（平光） 美容の目的とビューティ業界の様々な職種について	
	3	業界研究（3）（ゲスト講師） ビューティビジネスの実態とアパレル業界との違いについて	
	4	2年生内定者による就職体験講話 ビューティゼミ2年生内定者による就職活動の流れについて	
	5	業界研究（4）（ゲスト講師） 化粧品業界について	
	6	職種研究（1）（ゲスト講師） 美容部員のキャリア、仕事内容について	
	7	キャリア講座（1）（キャリアセンター） 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う	
	8	職種研究（2）（キャリアセンター） ネイリスト、エステティシヤンのキャリア、仕事内容について	
	9	職種研究（3）（ゲスト講師） ヘアメイクアップアーティストのキャリア、仕事内容について	
	10	企業研究（1）（グループワーク、プレゼンテーション）（ゲスト講師） 企業の新卒採用の目的について	
	11	キャリア講座（2）（キャリアセンター） 2年生内定者による就職活動体験講話	
	12	企業研究（2）（グループワーク、プレゼンテーション）（ゲスト講師） 化粧品企業研究と求める人物像の推察	
	13	就職活動準備（1）（ゲスト講師） 履歴書、エントリーシートの書き方について	
	14	就職活動準備（2）（ゲスト講師） 模擬面接について	
	15	就職活動準備（3）（ゲスト講師） ブランド別の選考対策について	
学習成果・到達目標・基準	◎D：美容業界のしくみや特徴、職種について説明できる。 ○E：自分の考えを人前でプレゼンテーションできる。		
事前・事後学習	事前学習：美容雑誌、インターネット等美容に関する最新情報を調べる（20分）。 事後学習：ゼミで学んだことを調べ、就職活動に役立てるようまとめておく（25分）。		
指導方法	美容業界で活躍したい学生を対象にした就職活動準備のためにゲスト講師を招いて行うゼミナールである。希望職種を明確にし、そのためには何が必要かを考え主体的に学ぶ。各自の興味にもとづいた就職活動準備を行えるよう指導する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題を評価する。 ○E：プレゼンテーションを評価する。 課題50%、プレゼンテーション20%、授業態度・授業への貢献度30%		
テキスト	なし		
参考書	なし		
履修上の注意	受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこと。		

アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code：F39A68	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>「ライフスタイルモデル」 ライフスタイル関連業界に就職を望む学生に対して、テーマを絞り込み、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を行う。ライフスタイル関連業界で活躍するためには必須となる、自分の考えやアイデアをまとめる力や、自分を表現する力を養いながら、学生の就業意識を高める。履修した学生は舞台のゲネプロなどに参加する場合もある。 (授業目標) ○A：グループワークにおける自分の役割を実行し、主体的にグループの考えをまとめる力を修得する。 ◎C：論理性、感性から多面的な視点を身につける。</p>		
授業計画	1	業界研究（1） ライフスタイルに関わる業界 エンタテインメントのグローバルな役割 幅広いのりしろのある考えがもてる人物になるには	
	2	職種研究（1）（グループワーク） マーチャンダイザー、ディレクター、プロデューサーの役目とそれぞれの立ち位置の解説 プロデューサー職の仕事内容、役割をグループで議論する	
	3	職種研究（2）（グループによるプレゼンテーション） 「TOITA Fesでのプロデューサー職」をテーマに グループによるプレゼンテーションを行う	
	4	プロフェッショナルに学ぶ（1）（ゲスト講師） エンタテインメント化するファッションメイク実演① ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	5	業界研究（2） エンタテインメントの仕組み 芸能ではなく、幅広いゾーンの中で作り上げていく要素を解説（衣食住遊知美景）	
	6	プロフェッショナルに学ぶ（2）（ゲスト講師） エンタテインメント化するファッションメイク実演② ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	7	キャリア講座（1）「SPI模試」（キャリアセンター） 就職のための筆記試験対策として、SPI模擬を行う	
	8	「TOITA Fesでのプロデューサーとして」（1）（グループワーク） TOITA Fesの今後の課題、考えられることを分析	
	9	プロフェッショナルに学ぶ（3）（ゲスト講師） エンタテインメント化するファッションメイク実演 ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	10	プロフェッショナルに学ぶ（4）（ゲスト講師） 2.5次元キャラクターメイク実演 ライフスタイルゼミ学生をモデルにメディアで活躍中のメイクアップアーティストがメイク実演	
	11	プロフェッショナルに学ぶ（5）（ゲスト講師） 文化・芸術におけるマーケティング活動 エンタテインメント業界と文化芸術分野に於ける人作り、作品作り、興業的売上作り	
	12	キャリア講座（2）（キャリアセンター） 就職活動にあたり、業界の就職状況を説明する	
	13	「TOITA Fesでのプロデューサーとして」（2）（グループワーク） TOITA Fesでのイベントプロデュース	
	14	キャリア講座（3）（キャリアセンター） 今後の就職活動スケジュールを説明する	
	15	「TOITA Fesでのプロデューサーとして」（3）（プレゼンテーション） 各グループによる「TOITA Fesでのイベントプロデュース」の発表	
学習成果・到達目標・基準	<p>業界研究、企業研究、職種研究をすることでエンタテインメント業界で必要とされる力を理解し、就業意識を高める。 ポートフォリオを製作することで自分の強みを発見し、自分を表現する力を高める。 ○A：グループワークにおける自分の役割を責任を持って遂行できる。 ◎C：自分の考えや計画を論理的に説明できる。</p>		
事前・事後学習	<p>事前学習：本学図書館にてメイク、ライフスタイル、ビジネス、ファッション等エンタテインメントに必要な知識を身につけ、授業で発言及び発表が出来る段階まで準備しておくこと（20分）。 事後学習：各回の授業内で生じた「問い」を本学図書館において調べ、分析し、問題解決しておくこと（25分）。</p>		
指導方法	<p>映像やパワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。また第一線で活躍するプロフェッショナルなゲスト講師を招き、そのスキルを学べる場も取り入れる。</p>		

アセスメント・成績評価の方法・基準	A：グループワークでの貢献度を評価する。 C：プレゼンテーション、課題を評価する。 プレゼンテーション40%、課題40%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 適宜プリント資料を配布する
参考書	参考文献に関してはその都度指示する
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 左脳と右脳を認識しながら、左脳として東洋経済、週刊ダイヤモンド、アエラ、CUT等、右脳としてBeaton、View、WeAr、VOUGUE、BAZAAR、ELLEatTABULE、ELLE DECO等を毎日図書館にて目を通すこと。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク ・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	服専：必修
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code：F39A68			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>学生が自ら志望大学合格に必要な条件をふまえた目標計画を策定し、スケジュールに沿って個別指導を行う。 (授業目標)</p> <p>◎C：編入希望の大学に合格するためのスケジュールを策定することができる。 ○D：編入学受験科目である小論文について過去のテーマをもとに論述できる。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション・学習計画書の作成 編入に向けて、準備をする	
	2	進学準備カウンセリング（1） 進学に向けて話し合う	
	3	情報収集 関心を持つ分野にどのような大学があるか、また試験課題など必要な情報を収集する	
	4	大学研究 進学先の大学等を研究する	
	5	試験対策（1） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	6	試験対策（2） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	7	キャリア講座（1）（キャリアセンター） 就職活動における筆記試験対策としてSPI模擬試験を行う	
	8	小論文指導（1） 論理力、思考力を鍛える	
	9	小論文指導（2） 論理力、思考力を鍛える	
	10	試験対策（3） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	11	キャリア講座（2）（キャリアセンター） 2年生内定者による就職活動体験講話	
	12	試験対策（4） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	13	試験対策（5） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	14	進学準備カウンセリング（2） 進学に向けて話し合う	
	15	対策状況確認 編入に向け試験対策の状況確認をし、今後の対策を練る	
学習成果・ 到達目標・基準	◎C：志望大学に関する情報を収集し、必要な対策を講じることができる。 ○D：小論文の知識を取得し、順序だてて組み立てることができる。		
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ、対策を行う(30分)。 事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う(30分)。		
指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策、小論文指導を行う。 フィードバックの仕方：小論文などの課題については、添削指導を行う。		
アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	C：面談等から志望大学合格のためのスケジュールが組まれているか、計画を行動に移せているかなどにより判断する。 D：試験勉強への取り組みなどから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし		
参考書			
履修上の注意	編入学を希望する学生は、本科目を履修登録すること。		
アクティブ・ラー	特になし		

ニング	
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
久保顯彦			
Subject Code：F39C67		実務家教員による授業	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界及びファッション関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「職種研究」「店舗調査」をふまえて、店長や経営者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い「理想のアパレル店舗」を立案することを目的とする。 (授業目標) ファッション小売業のブランドビジネスに必要となる知識やスキルを理解する。 ◎A：小売業経営に対して積極的に調査を行い、ファシリテーターとしてグループ内の話し合いを通じて自分の考えをまとめる力を身につける。 ○E：自分の考えを状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について</p> <p>2 店舗運営コスト（1）（グループワーク） 個人およびグループによる「ファッション小売業における店舗運営」の研究 店舗リサーチについて</p> <p>3 店舗運営コスト（2）（グループワーク） グループによる「ファッション小売業における店舗運営」の研究</p> <p>4 店舗運営コスト（3）（グループワーク） 店舗リサーチをもとにしたグループによる「ファッション小売業における店舗運営」の研究</p> <p>5 店舗運営コスト（4）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗運営コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>6 ファッション業界の現状（1）（ゲスト講師） ファッション業界における現状と課題について</p> <p>7 店舗出店コスト（1）（グループワーク） 個人およびグループによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究</p> <p>8 店舗出店コスト（2）（グループワーク） グループによる「ファッション小売業における店舗出店」の研究</p> <p>9 店舗出店コスト（3）（グループワーク）</p> <p>10 「店舗出店コスト」（4）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗出店コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>11 ファッション業界の現状（2）（ゲスト講師） 社会人1年目に必要となるスキルやマナーについて</p> <p>12 理想の店舗（1）（グループワーク） グループによる「理想の店舗」に必要な条件（人、モノ、カネ、ノウハウ）の討論</p> <p>13 理想の店舗（2）（グループワーク） グループによる「理想の店舗」を計画し、報告書を作成する</p> <p>14 理想の店舗（3）（グループワーク） グループによる「理想の店舗」を計画し、店舗リサーチをもとに報告書を作成</p> <p>15 理想の店舗（4）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「理想の店舗」を発表する</p>
学習成果・到達目標・基準	◎A：小売業経営に対して興味を持ちながら話し合いを進めることができる。 ○E：自分の考えを人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、グループ討論、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やブランドマーケティングを学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：主体性・チームワーク・責任感：ファシリテーター役など授業への貢献度を評価する。 E：技能・表現：討論でのプレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	映画、舞台芸術、美術館に行き感性を養い、図書館で「日経MJ新聞」や「WWD」等を読んでおくこと。



アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"><li>・ディスカッション</li><li>・グループワーク</li><li>・プレゼンテーション</li></ul>
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code：F39C68	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ファッション業界における販売職の就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式等で行う。1年次キャリアゼミのプレゼンテーション内容「売れる販売員の条件」「売上を上げる方策」をふまえて、店長や売場責任者にとって必要な店舗運営や販売管理などの経営的視点を養い、「理想のアパレル店舗」を立案することを目的とする。 (授業目標) ファッション小売業の店舗運営に必要となる知識を理解し、自分の見解や主張を述べることができる。 ○A：積極的に店舗調査を行い、ファシリテーターとしてグループ内の話し合いを通じて自分の考えをまとめることができる。 ◎E：自分の見解や主張を状況に相応しい手法を用いて、論理的にプレゼンテーションすることができる。
授業計画	<p>1 ファッション業界の現状 本ゼミナールの概要、ファッション業界の現状について</p> <p>2 店舗運営コスト（1）（グループワーク） 個人およびグループワークによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究</p> <p>3 店舗運営コスト（2）（グループワーク） グループによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究</p> <p>4 店舗運営コスト（3）（グループワーク） グループによる「アパレル小売業における店舗運営」の研究</p> <p>5 店舗運営コスト（4）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗運営コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>6 ファッション業界の現状（1）（ゲスト講師） ファッション業界における現状と課題について</p> <p>7 店舗出店コスト（1）（グループワーク） 個人およびグループによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究</p> <p>8 店舗出店コスト（2）（グループワーク） グループによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究</p> <p>9 店舗出店コスト（3）（グループワーク） グループによる「アパレル小売業における店舗出店」の研究</p> <p>10 店舗出店コスト（4）（グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「店舗出店コスト」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p> <p>11 ファッション業界の現状（2）（ゲスト講師） 社会人1年目に必要となるスキルやマナーについて</p> <p>12 理想の店舗（1）（グループワーク） 個人およびグループによる「理想の店舗」に必要な条件（人、モノ、カネ、ノウハウ）の討論</p> <p>13 理想の店舗（2）（グループワーク） グループによる「理想の店舗」を計画し、報告書を作成</p> <p>14 理想の店舗（3）（グループワーク） グループによる「理想の店舗」を計画し、報告書を作成</p> <p>15 理想の店舗（4）グループワーク、プレゼンテーション） グループによる「理想の店舗」のプレゼンテーションおよび評価と振り返り</p>
学習成果・到達目標・基準	○A：ファッション小売業の店舗運営について興味を持ちながら話し合いを進めることができる。 ◎E：自分の見解を論理的に人前で説明できる。
事前・事後学習	事前学習：ファッション誌やビジネス情報誌、インターネット、店舗調査から最新のファッション・ビジネス情報を得ておく（20分）。 事後学習：情報収集した内容をもとに「売るための戦略」についてまとめる（25分）。
指導方法	パワーポイントを使用した講義とワークショップ形式で授業を展開する。特に、個人ワーク、グループ討論、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に実施する。ファッション企業の店舗調査を行い、店舗運営の手法やマーケティング戦略を学ぶ。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：ファシリテーター役など授業への貢献度を評価する。 E：討論でのプレゼンテーションを評価する。 プレゼンテーション40%、課題30%、授業態度・貢献度30%
テキスト	適宜プリント資料を配布する。
参考書	参考文献に関してはその都度指示する。
履修上の注意	業態を問わず、日頃から4P（商品、価格、立地、販売促進）の視点で店舗調査を行い、問題点と改善策を考える習慣を身につけること。

アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"><li>・ディスカッション</li><li>・グループワーク</li><li>・プレゼンテーション</li></ul>
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
高橋佐智子			
Subject Code : F39C69			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	デザイン関連、ものづくり関連の業界を目指す学生を対象にしたゼミである。キャリアゼミ（ファッションデザイン）で学んだステイリズムを実際にカタチで表現し、各自オリジナル作品を製作する。作品製作を通して自身の適性を見極め、キャリア形成における明確な目標を掲げ、目標をクリアする為のフローを組み立てる。 (授業目標) ○A：主体的に自身の知識・技術を向上させ、積極的に作業を進め責任感を持って最後までやり抜くことができる。 ◎E：クリエイション技能を向上させ、立体研究によりオリジナリティを表現する力を修得できる。
授業計画	<p>1 オリエンテーション（プレゼンテーション） アパレル業界における自分の「夢」「目標」とそれを実現する為のプロセスを自己紹介をまじえてプレゼンテーションする</p> <p>2 パタンナーとディスカッション（ゲスト講師） ファッション関係者とディスカッションし、パタンナーなどの専門職についてアパレル業界構造を学ぶ</p> <p>3 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 立体造形の基礎を学ぶ</p> <p>4 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 立体造形の基礎を学ぶ</p> <p>5 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 造形実習</p> <p>6 モデリズム（実習：パターンメイキング・縫製）（ゲスト講師） 造形実習</p> <p>7 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） カットソー作品を制作し、立体研究について学ぶ</p> <p>8 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） 作品の基本構造を学ぶ 前後身頃トワルにトレース 両脇と肩を縫い合わせる</p> <p>9 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） 着用可能に修正 パターン落とし込み</p> <p>10 作品製作（実習：カットソーによる立体研究）（ゲスト講師） デザインを入れる</p> <p>11 作品製作（実習：カットソーによる立体研究） トワルチェックと付属の確認 縫製工程のチェック</p> <p>12 作品製作（実習：カットソーによる立体研究） 生地（ニット）裁断、接着</p> <p>13 作品製作（実習：カットソーによる立体研究） 肩、襟ぐり処理、袖見返し、脇、裾始末</p> <p>14 作品製作（実習：カットソーによる立体研究） テントラインに縫い上げてからデザイン入れ</p> <p>15 発表（プレゼンテーション）（ゲスト講師） 企業でのプレゼンテーションを想定し、製作した作品を発表する</p>
学習成果・到達目標・基準	○A：主体的な態度で作業に取り組み、作品を完成できる。 ◎E：立体作品により、オリジナリティを表現できる。
事前・事後学習	事前学習：次の授業時に表現できるようにファッションデザインについて知識を増やし、独自のクリエイションについて研究する（20分）。 事後学習：各自のスケジュールに従い、到達点に達していない場合は、次回までに作業を行う（25分）。
指導方法	学生の主体性と積極性を重視し、思考を深める。 作品完成までの工程と理論が理解できるように指導を行う。 フィードバックの仕方：①課題を提示、②課題提出及び発表（学生）、③講評及び採点、④授業後における採点について質疑応答
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：積極的に作業を行うなど授業への貢献度を評価する。 E：作品の完成度とオリジナリティを評価する。 作品40%、プレゼンテーション30%、授業への貢献度30%

テキスト	なし
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション
I C T・オープンエデュケーションの活用	なし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
小泉きよみ、楠香代子			
Subject Code : F39C70			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	ウエディングプランナー、ウエディングドレススタイリスト等のブライダル関係に就職を望む学生に対して、ゲスト講師と専任教員が連動してゼミ形式で授業を行う。専門的知識と実践力を身につけ、就職に対する意識付けを図る。就職活動と連動させた相談も行い、対応策も学修する。 (授業目標) ◎B：ウエディングの現場で求められる共感力コミュニケーション能力を身につける。 ◎C：自分に適した企業を判断しウエディング業界への就職活動をする。
授業計画	<p>1 就職活動の個別指導（小泉・楠） 就職活動状況の面談（プランナー志望、ドレススタイリストその他：2グループにて行う）</p> <p>2 就職活動の取り組みについて（ゲスト講師①八芳園） 2021年度採用の企業と周辺業界の動向を知り、求められる人材(キャリアゼミ：ウエディングゼミの内容)に照らし合わせながら、個々が強化すべきことを見直す</p> <p>3 共感力コミュニケーションの必要性とその手法（ゲスト講師②八芳園） 就職活動、および社会人になっても役に立つ共感力コミュニケーションについて学ぶ</p> <p>4 就職活動に必要な視点を磨く3-why-wtep（ゲスト講師③八芳園） 今朝のwebニュースを題材に、それがどのように就職試験に使われ、それに対しどのような視点が求められるのかの実例を知る。さらにそれが3-why-stepという思考プロセスであることを理解する</p> <p>5 3-why-stepのケーススタディ①（ゲスト講師④八芳園） 具体事例をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みしてみる。（3-why-stepシートの使用） テーマは環境問題</p> <p>6 模擬面談と発表①（ゲスト講師⑤八芳園）（プレゼンテーション） 前回の事例を使って、公開模擬面談を行い、客観的な視点で3-why-stepのプロセスを確認する。また、そのプロセスについて『気づきの発表』をし、言葉の表現力を磨く</p> <p>7 就職活動成功共有（ゲスト講師⑥八芳園）（プレゼンテーション） 講師より、過去の学生の就職成功事例を紹介し、前回までの講義で行った3-why-stepの必要性を知る</p> <p>8 企業から見た面接とは（ゲスト講師⑦八芳園） 印象の良い選考官と印象の悪い選考官、印象の良い学生と印象の悪い学生について共感力コミュニケーションの視点で考える</p> <p>9 3-why-stepのケーススタディ②（ゲスト講師⑧八芳園） 具体事例をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みしてみる。（3-why-stepシートの使用） テーマは教育問題</p> <p>10 模擬面談と発表②（ゲスト講師⑨八芳園） 前回の事例を使って、公開模擬面談を行い、客観的な視点で3-why-stepのプロセスを確認する。また、そのプロセスについて『気づきの発表』をし、言葉の表現力を磨く</p> <p>11 3-why-stepのケーススタディ③（ゲスト講師⑩八芳園） 具体事例をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みしてみる。（3-why-stepシートの使用） テーマは物販と流通</p> <p>12 模擬面談と発表③（ゲスト講師⑪八芳園） 前回の事例を使って、公開模擬面談を行い、客観的な視点で3-why-stepのプロセスを確認する。また、そのプロセスについて『気づきの発表』をし、言葉の表現力を磨く</p> <p>13 3-why-stepのケーススタディ④（ゲスト講師⑫八芳園） 具体事例をテーマに3-why-stepの思考プロセスを試みしてみる。（3-why-stepシートの使用） テーマはテクノロジー</p> <p>14 模擬面談と発表④（ゲスト講師⑬八芳園） 前回の事例を使って、公開模擬面談を行い、客観的な視点で3-why-stepのプロセスを確認する。また、そのプロセスについて『気づきの発表』をし、言葉の表現力を磨く</p> <p>15 ウエディングゼミまとめ（小泉・楠） 就職活動の把握、まとめ</p>
学習成果・到達目標・基準	◎B：日常生活の中でも共感力コミュニケーションを応用できる。 ◎C：様々なウエディング業種の違いを判断することができる。
事前・事後学習	ウエディング業界の情報を得ておくこと。 毎回のテーマを理解し就職活動に役立てること。 事前：各回毎のテーマについて、予習しておくこと（20分）。 事後：学修したテーマを、更に掘り下げ理解を深めること（25分）。
指導方法	通常の授業と違い、学生の主体性と積極性を重視する。テーマ毎の課題提出をする。

アセスメント・ 成績評価の方法・ 基準	B：グループワークでの自己提案力と貢献度 C：ウェディング業界の企業考察 課題60%、授業への貢献度40%
テキスト	共感力の鍛え方 コスモ21総合出版 プリント配布(組織に必要な8つの適性シート、3-why-stepシート)
参考書	
履修上の注意	ゼミ形式の授業であるため、自主的な受講態度が求められる。 グループワーク研究では、協調性、コミュニケーション力が求められる。
アクティブ・ラー ニング	グループワーク プレゼンテーション
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
新井葉子、平光くり子			
Subject Code：F39C71			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	美容業界への就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、美容業界で働く心構えを学ぶ。美容業界で活躍する方をゲスト講師として迎え講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で授業を行う。美容を仕事にする場合、相手の身体に触れるため、対人マナーをふまえて相手のめざすイメージや好みなどの気持ちと向き合うコミュニケーション力を養うことも重視する。 (授業目標) ◎D：環境や状況に適した印象をメイクアップで表現するために必要な正しい骨格の理解と造形、印象理論を理解できる。 ○E：自分の考えや思いを的確にプレゼンテーションできる。		
授業計画	1	オリエンテーション（新井） 本ゼミナールの概要、美容業界での就職活動について	
	2	美容業界でのマナー（1）（キャリアセンター） 美容業界で必要なマナーを学ぶ	
	3	美容業界でのマナー（2）（キャリアセンター） 美容業界で必要なマナーを練習し、身に付ける	
	4	メイクアップ理論（1）（ゲスト講師） メイクアップサイエンス「化粧品学」とデモンストレーション	
	5	メイクアップ理論（2）（ゲスト講師） テクニックから見たメイクアップ理論について	
	6	造形分析理論（1）（ゲスト講師） 造形分析理論について	
	7	造形分析理論（2）（グループワーク）（ゲスト講師） モデルとなる形状を元に、ディスカッションして特徴を分析する	
	8	造形分析理論（3）（グループワーク）（ゲスト講師） モデルとなる形状の比率を変えて、イメージを統計化してカテゴリー化する	
	9	色彩心理学（1）（ゲスト講師） 色彩心理学について	
	10	色彩心理学（2）（グループワーク）（ゲスト講師） モデルとなる色彩を元に、ディスカッションして特徴を分析する	
	11	色彩心理学（3）（グループワーク）（ゲスト講師） 色を分析し、色相、彩度、明度、をかえ変化したイメージを統計化してカテゴリー化する	
	12	色彩心理学（4）（ペアワーク）（ゲスト講師） 相モデルで、相手に最適な造形、色彩を分析してデザイン	
	13	セルフメイクアップ実習（実習）（ゲスト講師） デザインしたメイクを実習する	
	14	造形分析理論と色彩心理学（プレゼンテーション）（ゲスト講師） 造形分析理論と色彩心理学についてのプレゼンテーションをおこなう	
	15	美容業界で働く女性の生き方（ゲスト講師） 美容業界で活躍する人材とは	
学習成果・到達目標・基準	◎D：環境や状況に適した印象をメイクアップで表現するために必要な正しい骨格の理解と造形、印象理論を説明できる。 ○E：自分の考えを人前でプレゼンテーションできる。		
事前・事後学習	事前学習：美容業界のニュースをチェックする（20分）。 事後学習：学修した内容をもとに、美容雑誌、店舗調査、インターネット等から情報収集を行い、理想の美容部員について考える（25分）。		
指導方法	各自の就職活動ノートに毎週活動の進捗状況を確認できるよう指導する。 パワーポイント、DVD等を使用する。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	◎D：課題、小テストを評価する。 ○E：プレゼンテーションを評価する。 課題40%、プレゼンテーション20%、小テスト10%、授業態度・授業への貢献度30%		
テキスト	なし		
参考書	なし		
履修上の注意	受け身ではなく、常に主体的な受講態度で臨むこと。 清潔感、礼儀、思いやり、知性を重視し、美容を志す者として普段から自分自身を磨く努力を惜しまないこ		



	と。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
朝月真次郎			
Subject Code：F39C72	実務家教員による授業		

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>ライフスタイル、エンタテインメント業界及びエンタテインメント関連業界での就職を希望する学生を対象にしたゼミであり、ライフスタイル、エンタテインメント業界の第一線で活躍するプロフェッショナルなゲスト講師も招き、講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション形式で行う。ファッション、インテリア、ライフスタイル、エンタテインメントなど幅広い分野を題材に、右脳・左脳の両脳を駆使しライフスタイル業界、エンタテインメント業界で生き抜き、活躍できる力を学ぶ。</p> <p>(授業目標) 1 年次からの活動を振り返り、自身のキャリアビジョンを立てることができる。 ◎A：主体的にエンタテインメント業界を調査し、グループワークを通して、責任感を身につける。 ○C：舞台芸術にふれ、エンタテインメント業界で必要となる力を知る。</p>			
授業計画	1	エンタテインメント業界に必要な力（1） 感覚と経験値① 情報量のグローバルな取り入れ方	2	エンタテインメント業界に必要な力（2） 感覚と経験値② 思考は内なる考えの結果だけではなく感覚で得た印象に基づく理論
	3	エンタテインメント業界で働くには（1） 就職にむけた情報量 情報量を増やす技と就職先の見分け方	4	プロフェッショナルに学ぶ（1）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「女優」講義テーマ「エンタテインメント業界におけるメイク業界の情報」
	5	プロフェッショナルに学ぶ（2）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「女優」講義テーマ「ウェブデザインでの表現方法について」	6	エンタテインメント業界に必要な力（3） 左脳と右脳、両脳を使った複眼的視点① 左脳、右脳分析
	7	エンタテインメント業界に必要な力（4） 左脳と右脳、両脳を使った複眼的視点② 両脳バランス説明	8	プロフェッショナルに学ぶ（3）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「キャラクターメイク」講義テーマ「2.5次元ミュージカル」
	9	プロフェッショナルに学ぶ（4）（ゲスト講師） プロのメイクアップアーティストによるメイク実演及び講義 メイクテーマ「キャラクターメイク」講義テーマ「日本のエンタテインメント業界の今」	10	エンタテインメント業界で働くには（2）（グループワーク） 就職にむけて① 特殊メイクとコスチューム実演
	11	エンタテインメント業界で働くには（3）（グループワーク） 就職にむけて② エンタテインメント業界の区分け	12	プロフェッショナルに学ぶ（5）（ゲスト講師） 第一線で活躍中の演出家による講義 エンタテインメントスタイルとプロデュース感覚と芸術論を学ぶ
	13	エンタテインメント業界で働くには（4）（グループワーク） 就職にむけて③ 「エンタテインメント業界で働くには」をテーマにグループワークを行う①	14	エンタテインメント業界で働くには（5）（グループワーク） 就職にむけて④ 「エンタテインメント業界で働くには」をテーマにグループワークを行う②
	15	エンタテインメント業界で働くには（6）（グループによるプレゼンテーション） グループによる「エンタテインメント業界で働くには」のプレゼンテーション、評価と振り返り エンタテインメントのグローバルな産業への広がり		
学習成果・到達目標・基準	◎A：ライフスタイル、エンタテインメント業界の現状に対して、協調性を持って話し合いをすすめることができる。 ○C：舞台芸術の比較、分析を討議できる。			
事前・事後学習	事前学習：本学図書館にてビジュアル系雑誌とビジネス系雑誌である日経MJ、WWDを必ず読んで授業で説明、発表出来るようにしておくこと（20分）。 事後学習：毎回到授業で学んだことを更に深める為、アート系雑誌、及び東洋経済、週間ダイヤモンド、アエラを一読すること（25分）。			

指導方法	映像を使用した講義とワークショップ形式で授業をすすめる。グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。様々な職種にもふれ、役割や仕事内容なども解説する。レポート作成やファイル作りも加えながら指導していく。
アセスメント・成績評価の方法・基準	A：課題のオリジナリティを評価する。 C：プレゼンテーションを評価する。 課題60%、プレゼンテーション20%、授業への貢献度20%
テキスト	なし 参考文献に関してはその都度指示する
参考書	左脳と右脳を認識しながら、左脳としては東洋経済、週刊ダイヤモンド、AERA、CUT、等。 右脳としては、View、Wear、VOGUE、BAZAAR、ELLEatTABULE、ELLEDECO、等を毎日図書館にて目を通すこと。
履修上の注意	本学図書館にある上記書籍は、社会の第一線で活躍する人材が参考になっているものであり、就職活動や就業の際にも役立つものである。なお、レポート等の題材は参考書籍より取り上げる。
アクティブ・ラーニング	・グループワーク ・プレゼンテーション
ICT・オープンエデュケーションの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	服専：選択
担当教員			
丸山喬平			
Subject Code : F39C73			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>学生が自ら志望大学合格に必要な分野を調べ、それをもとに組んだ計画に従って、ゼミ形式あるいは講義形式で授業を行う。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎C：編入志望大学に合格する為のスケジュールを策定し、受験科目の目標を策定することができる。</p> <p>○D：編入先の大学にて通用する知識、論理的思考力を身につける。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション・学習計画書の作成 編入に向けて、準備をする	
	2	進学準備カウンセリング 進学に向けて話し合う	
	3	情報収集 自分が興味を持つ分野と、その分野にどのような大学があるか情報を収集する	
	4	大学研究 進学先の大学等を研究する 進学先の大学等を研究する	
	5	試験対策（1） 学科など試験に必要な対策を行う	
	6	試験対策（2） 学科など試験に必要な対策を行う	
	7	試験対策（3） 学科など試験に必要な対策を行う	
	8	大学研究 志望大学のオープンキャンパスなどのスケジュールの確認	
	9	対策状況確認 現在の対策状況を確認し、改めて対策を練る	
	10	小論文対策（1） 編入希望の学部に関するキーワードでの小論文対策	
	11	小論文対策（2） 編入希望の学部に関するキーワードでの小論文対策	
	12	進学準備カウンセリング 進学に向けて話し合う	
	13	試験対策（4） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	14	試験対策（5） 学科、小論文など試験に必要な対策を行う	
	15	対策状況確認 現在の対策状況を確認し、編入に向けて後期からの対策を練る	
学習成果・到達目標・基準	◎C：志望大学に関する情報を収集し、必要な対策を講じることができる。 ○D：小論文の知識を取得し、順序だてて組み立てることができる。		
事前・事後学習	事前学習：志望大学の編入学試験の傾向を調べ対策を行う(30分)。 事後学習：志望大学の編入学試験対策の復習を行う(30分)。		
指導方法	志望大学の試験課題に応じ、必要な学科対策、小論文指導を行う。 フィードバックの仕方：小論文などの課題に関しては、添削指導を行う。		
アセスメント・成績評価の方法・基準	C：面談等から志望大学合格のためのスケジュールが組まれているか、計画を行動に移せているかなどにより判断する。 D：試験勉強などへの取り組みから判断する。 課題80%、授業への貢献度20%		
テキスト	なし		
参考書			
履修上の注意	自主的に志望大学の情報収集等を行うこと。		
アクティブ・ラー	特になし		

ニング	
I C T・オープン エデュケーション の活用	特になし